

はじめに

この度は、弊社 PRIMERGY（プライマジー）をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本書では、PRIMERGY に添付されている、ServerStart V4.12（以下、ServerStart と略します）によるサーバやクライアントのインストール方法と詳しい操作方法、およびサーバ監視ツールなどの運用面に役立つツールについての紹介とインストール方法について説明しています。

ServerStart は、お求めいただいた PRIMERGY に対して、Windows サーバの構築を支援するプログラムです。

- ・ オプションカードの確認とハードディスクの初期化および区画設定を行う。
- ・ インストール可能なドライバをインストールする。
- ・ 以下のいずれかの OS をインストールする。
 - Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0 システム
 - Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition Version 4.0 システム
 - Microsoft® Windows® 2000 Server
 - Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server
- ・ 添付のサーバアプリケーションプログラム（高信頼ツールなど）をインストールする。
- ・ クライアントへ OS をインストールする、アプリケーションを配布する。

なお、インストールを行う前にサーバ本体の取扱説明書をよくお読みになり、サーバを使用できる状態にしておいてください。

2002 年 1 月

Microsoft、Windows、Windows NT、BackOffice、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LTD. 2002

■ マニュアルの読みかた

ServerStart には、2 冊のマニュアルが添付されています。
それぞれのマニュアルは、以下のようにお使いください。

Windows NT をインストールしよう！
最初にサーバを導入するときにお読みください。ServerStart でのサーバ導入の流れが分かります。
ソフトウェアガイド（本書）
ServerStart の機能を知りたいとき、詳しい操作方法や項目の設定のしかたを知りたいときにお読みください。サーバ情報の設定以外に、クライアントの情報を設定したり、導入後の運用などに関しても説明しています。

ServerStart をお使いになる前に、必ずサーバ本体の取扱説明書をお読みになり、装置の準備と設置を正しく行ってください。オプションカードなどについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

■ 本書の読みかた

本書は以下のように構成されています。

章・タイトル	内 容
PRIMERGY の導入と運用	PRIMERGY に添付されているソフトウェアの紹介をしています。
第一部 導入編 サーバのセットアップ / クライアントのセットアップ	ServerStart を使って、簡単にサーバやクライアントをセットアップする方法を説明しています。
第二部 運用編 高信頼ツールについて	PRIMERGY に添付されているサーバ監視ツール、システム診断ツールなどの概要とインストール方法について説明しています。
付録	以下の機能、操作などの説明を記載しています。必要に応じてお読みください。 付録 A こんなときは？（Q&A） 付録 B トラブルシューティング 付録 C 留意事項 付録 D CSV ファイルフォーマットについて 付録 E デザインシート

■ 表記の約束

本書では、以下の略称を使用しています。

名称	略記
Microsoft® Windows®95 Operating System	Windows 95
Microsoft® Windows®98 Operating System	Windows 98
Windows 95 および Windows 98、Windows Me	Windows 95/98/Me
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT WS 4.0
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Pro
Microsoft® Windows® 2000 Server および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 SV、または Windows 2000
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0	Windows NT、 Windows NT SV4.0、または Windows NT Server
Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT Server/E 4.0
Microsoft® Windows®XP Professional	Windows XP Pro

■ ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerStart をお使いになる前に、必ずお読みください。

「ソフトウェア説明書」は、「README.TXT」ファイル名で、ServerStart の CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ ServerStart に関する最新情報について

ServerStart に関する最新の情報は、インターネットの弊社ホームページ「PRIMESERVER WORLD」でご確認ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/>

目 次

PRIMERGY の導入と運用

導入と運用の概要	x
高信頼ツールについて	xii

第 1 部 導入編 サーバーのセットアップ／ クライアントのセットアップ

第 1 章 ServerStart の概要.....3

1 ServerStart とは	4
2 ServerStart の機能	7
2.1 ServerStart の各機能について	7
3 必要なシステム	10
4 ServerStart を起動する前に	11
4.1 サーバ導入前の準備	11
4.2 Service Pack について	12
4.3 情報ファイルについて	13
4.4 ドライバについて	13
5 ServerStart でのセットアップ手順	14
6 ServerStart 使用時の注意事項	15
6.1 ServerStart の操作について	15
6.2 CD-ROM の取り出しについて	15
6.3 エキスパートモード／ガイドモード時の IME について	15
6.4 モードの移動について	15
6.5 ServerStart のインストール／アンインストール	15
6.6 インストール中の問題について	16
6.7 ServerStart の終了について	16
6.8 ServerStart 用システムの使用許諾書について	16
6.9 RAID の初期化について	16
6.10 PRIMERGY 以外のマシンで ServerStart の CD-ROM を起動した場合について	16

第 2 章 サーバのインストール／セットアップ.....17

1 インストール方法の選択	18
1.1 インストールの流れ	18
1.2 各画面について	21
2 複製モード	23
3 ガイドモード（事前設定モード）	25

3.1	起動	25
3.2	コンフィグレーションファイルを開く／作成する	29
3.3	システム構成ウィザード	29
3.4	RAID ウィザード	30
3.5	ディスクウィザード	31
3.6	OS インストールウィザード	32
3.7	アプリケーションウィザード	36
3.8	サーバアプリケーションセットアップウィザード	37
3.9	クライアント一括導入ウィザード	39
3.10	コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する	46
3.11	インストールの開始	46
4	エキスパートモード	49
4.1	起動	49
4.2	システム構成ウィザード	50
4.3	RAID 構成ウィザード	51
4.4	メンテナンス区画の作成	51
4.5	ディスクアドミニストレータ	52
4.6	OS インストールウィザード	53
4.7	アプリケーションウィザード	53
4.8	インストールの開始	54
5	OS インストールタイプの開封	56
5.1	複製モードで開封する	56
5.2	プレインストールモードで開封する	57

第 3 章 WizardConsole.....61

1	WizardConsole の各機能と操作の流れ	62
1.1	クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ	62
1.2	WizardConsole の起動	63
1.3	各 OS 環境における利用可能な機能	64
1.4	WizardConsole を利用するための準備	64
2	クライアントコンピュータの追加／変更	67
2.1	コンピュータの変更、追加	69
2.2	コンピュータ情報の取得	70
2.3	コンピュータの一括導入	71
2.4	コンピュータの削除	72
3	リモート OS セットアップ	73
3.1	リモート OS セットアップを起動する	73
3.2	OS セットアップ情報を設定する (Windows 2000 Pro の場合)	75
3.3	OS セットアップ情報を設定する (Windows NT WS 4.0 の場合)	79
3.4	OS セットアップ情報の登録名を変更する	81
3.5	OS セットアップ情報を確認／変更する	82
3.6	CD イメージを削除する	83
4	クライアントセットアップ	85

4.1	クライアントセットアップを起動する	86
4.2	セットアップ情報（アプリケーション）を追加する	89
4.3	セットアップ情報（ファイル）を追加する	92
4.4	セットアップ情報（実行コマンド）を追加する	93
4.5	セットアップ情報の内容確認／設定変更	94
4.6	セットアップ資源をサーバへ登録する	95
4.7	セットアップ資源の登録解除	97
5	クライアントブート設定	98
5.1	クライアントブート設定を起動する	99
5.2	OS セットアップ用	100
5.3	ClientWizard 用フロッピーの作成	103
5.4	クライアントのインストール方法、起動方法の変更	105
6	ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更	106
6.1	ユーザの追加／変更	106
6.2	グループの追加／変更	108
6.3	共有資源フォルダの追加／変更	109
6.4	ユーザ、グループ、共有資源の関連付け	112
7	クライアントのデスクトップ環境を設定する	116
7.1	デスクトップ環境設定ウィンドウでの操作	118
7.2	デスクトップ環境の設定	119
7.3	デスクトップ環境の設定－ [初期メニュー] タブ	120
7.4	デスクトップ環境の設定－ [デスクトップ操作性] タブ	121
7.5	デスクトップ環境の設定－ [設定制限] タブ	122
7.6	デスクトップ環境の設定－ [操作制限] タブ	123
7.7	デスクトップ環境の設定－ [不要キー抑止] タブ	124
8	クライアントへのインストール	125
8.1	クライアントに OS がインストールされていない場合	125
8.2	クライアントに OS がインストールされている場合	126
8.3	セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング	131

第 4 章 インストール後の操作..... 133

1	バックアップディスクを作成する（フロッピービルダ）	134
2	サーバ運用前の留意事項	136
2.1	Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて	136
2.2	不要なファイルについて	137
2.3	CD-ROM からの自動実行機能について	137
2.4	Windows 2000 インストール後に発生するイベントログのエラーについて	137
2.5	インストールタイプをお使いの方へ	138
3	メンテナンス区画について	139
4	同様のシステムを構築するとき （コンフィグレーションファイルの作成）	140
5	WizardMenu によるデスクトップメニューの作成について	141
5.1	動作環境	141

5.2 WizardMenu を作成する	142
6 WizardConsole のアンインストール	145

第 2 部 運用編高信頼ツールについて

第 1 章 高信頼ツールについて149

1 高信頼ツールの紹介	150
1.1 サーバ監視ツール	150
1.2 運用管理支援ツール	151
1.3 システム診断支援ツール	151
1.4 遠隔保守支援ツール	152
2 サーバ監視ツールの概要 [ServerView]	153
2.1 異常発生のお知らせ	153
2.2 ハードウェアの監視	154
2.3 ハードウェアの状態の表示	154
2.4 集中管理 / 遠隔操作 / サーバダウン時の通知	157
3 高信頼ツールの導入	158
3.1 ServerStart により OS 導入時に一括インストールする	158
3.2 各ツールの標準のインストーラによりインストールする	158

第 2 章 サーバ監視ツール [ServerView]159

1 インストールの準備	160
1.1 必要なシステム	160
1.2 動作環境を設定する (TCP/IP プロトコル、SNMP サービスの設定)	161
2 サーバに ServerView をインストールする	165
3 ServerView の管理端末を構築する	167
4 インストール後のサーバの設定について	168
4.1 Service Pack を適用する	168
4.2 Microsoft Virtual Machine を設定する	168
4.3 ServerView の監視機能を設定する	168
4.4 管理ユーザを設定する	168
5 管理端末から管理コンソールをアンインストールする	171
6 サーバから ServerView をアンインストールする	173
7 オプション装置を追加監視する	174

第 3 章 その他の支援ツール175

1 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]	176
2 クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]	177

3	システム環境の診断機能 [FM Advisor]	178
3.1	診断方法	178
3.2	定義ファイルの入手方法	179
3.3	留意事項	179
4	トラブル原因の早期発見	
	[PROBEPRO] ユーザー環境の更新履歴の確認	180
4.1	インストール方法	180
4.2	動作環境を定義する	181
4.3	初回インストール時の初期設定について	182
4.4	アンインストール方法	182
4.5	シンボルファイルの準備	182
5	トラブル原因の早期発見	
	[DSNAP] ユーザー環境情報の一括取得	184
6	サーバの遠隔操作	
	[SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]	185
6.1	インストール方法	185
6.2	操作概要	185
6.3	その他の機能	187

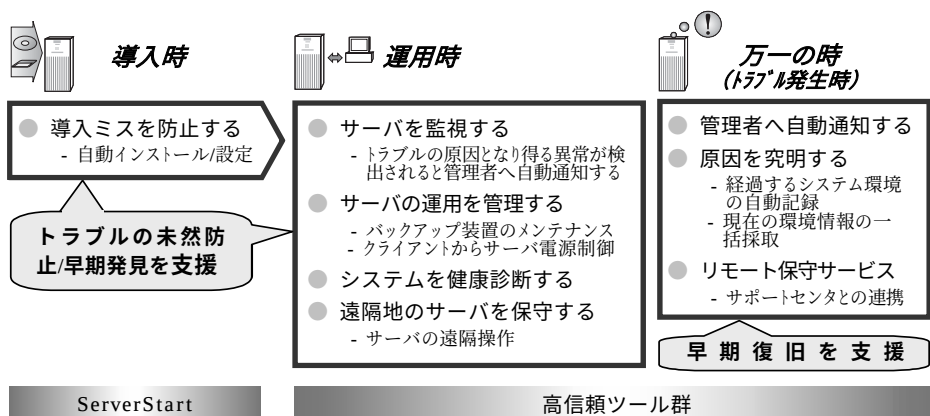
付録

付録 A	こんなときは (Q&A)	191
	Q. モデムを追加するには?	191
	Q. プリンタを追加するには?	192
	Q. RAID を構築するときの注意点は?	194
	Q. スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか?	195
付録 B	トラブルシューティング	196
付録 C	留意事項	199
C.1	ServerStart でサポートするオプションカード	199
C.2	ServerStart に対応する自動インストール	200
C.3	バックアップドメインコントローラ (BDC) に関する 留意事項 (NT SV 4.0 の場合)	201
C.4	クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項	202
C.5	クライアントセットアップに関する留意事項	202
C.6	その他の留意事項	205
付録 D	CSV ファイルフォーマットについて	206
付録 E	デザインシート	208
	RAID ウィザード	208
	ディスクウィザード	209
	OS ウィザード (Windows NT 4.0 インストールウィザード)	210
	OS ウィザード (Windows 2000 インストールウィザード)	214
	アプリケーションウィザード	218
	サーバアプリケーションセットアップウィザード	218
	クライアント一括導入ウィザード (クライアントシステム設計)	219

クライアント一括導入ウィザード（クライアントセットアップ）	221
クライアント一括導入ウィザード（デスクトップ設計）	223

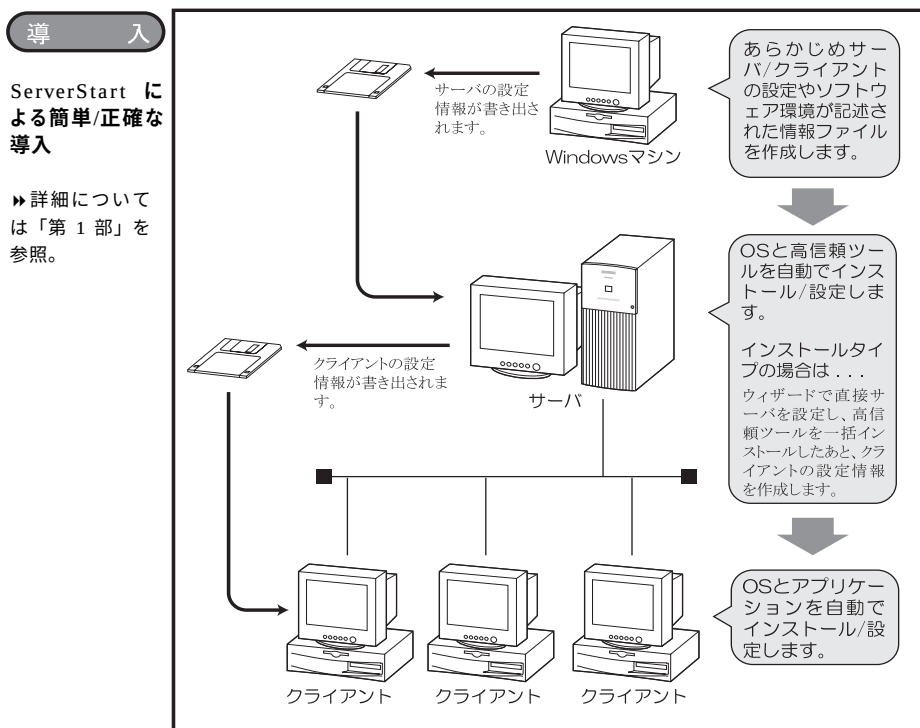
PRIMERGY の導入と運用

PRIMERGY では、弊社独自の支援ツール群により、サーバの簡単な導入と、万全な運用・管理を実現しています。導入から運用までを次の図のようにサポートします。



導入と運用の概要

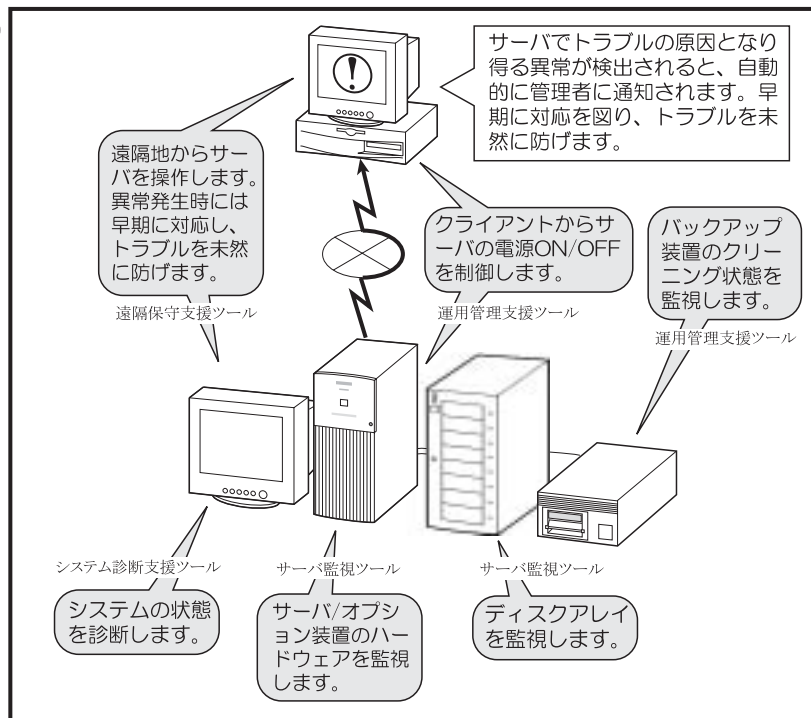
PRIMERGY の導入と運用は、ServerStart と高信頼ツール群により次の図のように行えます。



運 用

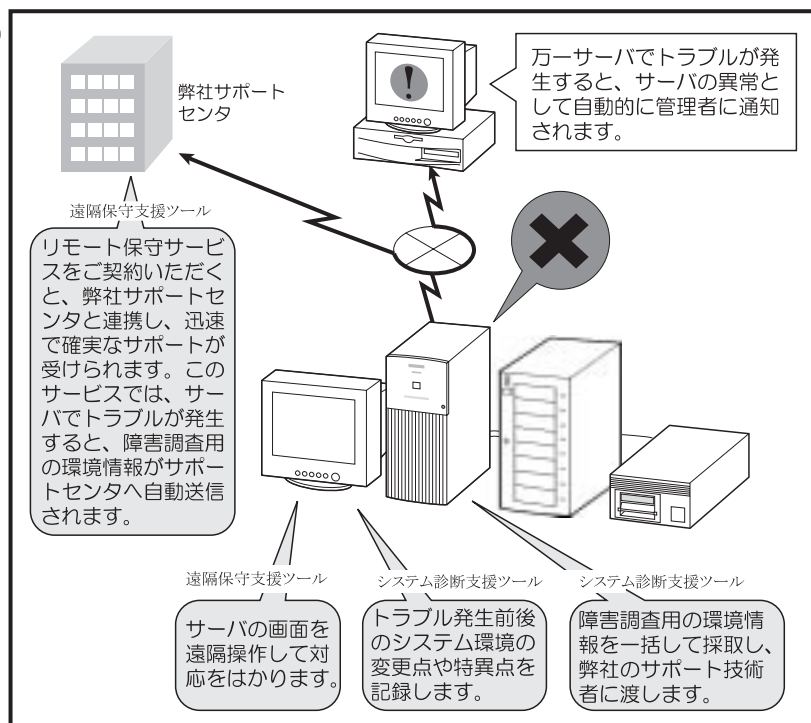
高信頼ツール群によるトラブルの未然防止/早期発見

▶ 詳細については「第2部」を参照。



万 一 の 時

高信頼ツール群によるトラブル発生時の早期復旧



高信頼ツールについて

PRIMERGY では、サーバを万全にご利用いただけるように、システムの安定稼働を実現する「高信頼ツール」を標準で提供しています。高信頼ツールは、システムの安定稼働に必要なトラブルの未然防止／早期発見／早期復旧を、いくつかのツール群により強力にサポートします。高信頼ツールの各ツール群を導入することにより、トラブルの起こりにくい安定したシステム運用が実現できます。

▶▶ 詳細について⇒「第2部 運用編 高信頼ツールについて」(P.147) 参照
PRIMERGY に添付の高信頼ツールには、次の4つのツール群があります。

■ サーバ監視ツール（早期発見 / トラブルの未然防止）

サーバのディスクシステム、メモリ、電源、冷却ファンなどのハードウェアを常時監視することにより、トラブルの原因になり得る異常を早期に発見し、管理者へ速やかに通知します。管理者は、異常発生のお知らせを受け取ることで、早期対応を図り、トラブルを未然に防止できます。

■ システム診断支援ツール（トラブルの未然防止 / 早期復旧）

Windows NT システムのシステムモジュール、ハードウェアドライバの版数をチェックするなど、システムの健康診断を行えます。また、管理者は、万一トラブルが発生した時にもシステムを診断し、原因を究明できます。

■ 運用管理支援ツール（トラブルの未然防止）

バックアップ装置によるバックアップを確実に行うために、バックアップ装置のクリーニング間隔を監視し、クリーニングが必要な場合に管理者へ通知します。また、管理者は、クライアントから PRIMERGY の電源を制御することにより、サーバの運用を柔軟に行えます。

■ 遠隔保守支援ツール（トラブルの未然防止 / 早期復旧）

管理者は、遠隔地においてもサーバを操作でき、異常発生時などすぐに対応を図れます。また、万一のトラブルが発生した場合の復旧作業では、リモート保守サービスをご利用いただくと、遠隔地にある弊社サポートセンタと連携し、迅速で確実なサポートが受けられます。このサービスをご利用いただくには、別途お客様とのお契約が必要となります。

第1部 導入編

サーバのセットアップ / クライアントのセットアップ

ServerStart を使って、簡単にサーバやクライアントを
セットアップする方法を説明しています。

内 容

第1章	ServerStart の概要	3
第2章	サーバのインストール / セットアップ	17
第3章	WizardConsole	61
第4章	インストール後の操作	133

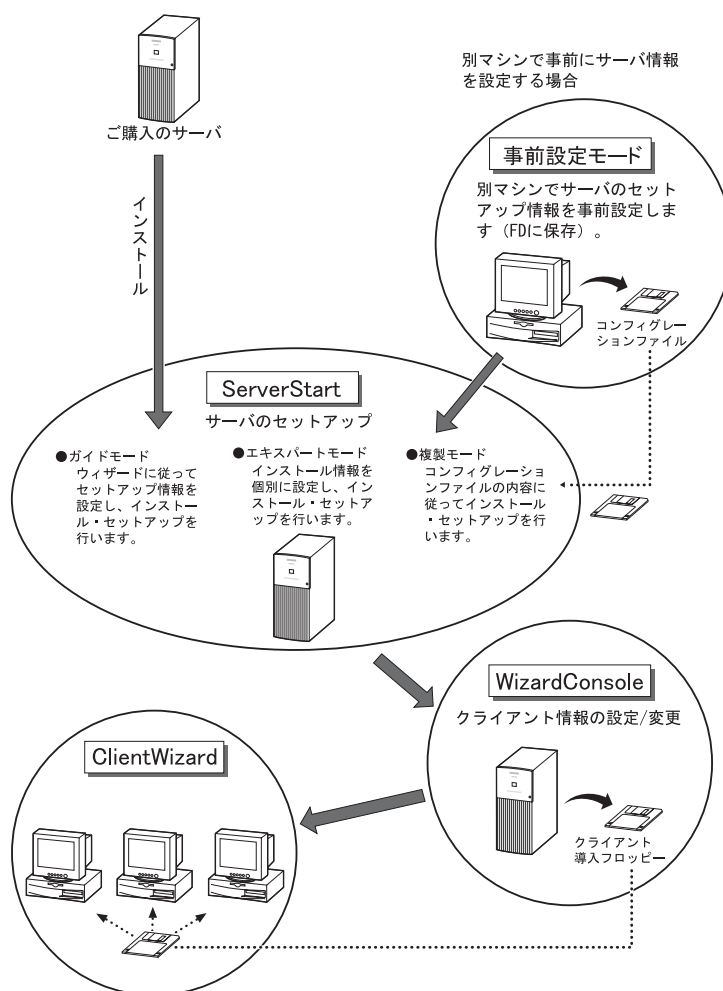
第 1 章

ServerStart の概要

1	ServerStart とは	4
2	ServerStart の機能	7
3	必要なシステム	10
4	ServerStart を起動する前に	11
5	ServerStart でのセットアップ手順	14
6	ServerStart 使用時の注意事項	15

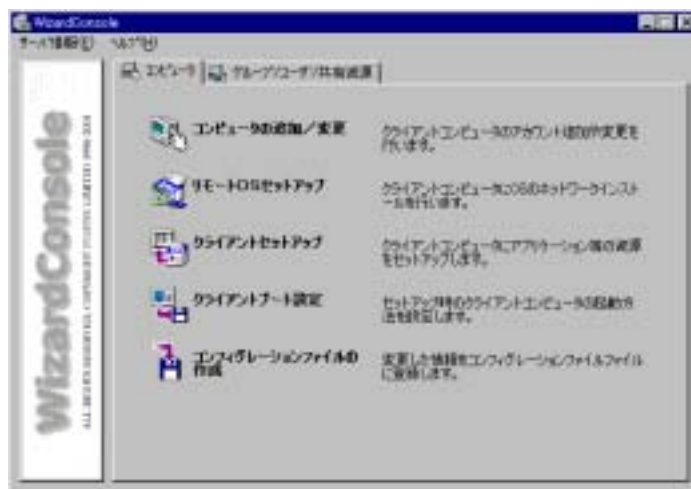
1 ServerStart とは

ServerStart は、PRIMERGY の初期導入を支援する、簡易セットアップツールです。ServerStart は、導入作業の簡素化、推奨ドライバの確実なインストールを実現します。これまでインストールしながら行っていた各種設定をウィザード形式でまとめて設定し、サーバおよびクライアントへのインストールを自動的行います。



● WizardConsole でクライアントのインストール、セットアップも簡単です

クライアントコンピュータの OS からのインストールやセットアップ、アプリケーションソフトのインストールなど、クライアントのインストール、セットアップは、WizardConsole で行えます。また、ServerStart でサーバインストール後のクライアントコンピュータの追加、グループの追加など、サーバ運用に関する変更も、WizardConsole で行います。



● ネットワークの構築ができます

ServerStart では、サーバの導入時に Windows NT のワークグループ、ドメイン等のネットワークモデルでネットワークを構築できます。サーバをプライマリドメインコントローラとしてネットワークを構築する場合、クライアントのセットアップおよびアプリケーションのセットアップまで簡単に行うことができます。設定したアカウント（ユーザ、グループ、共有資源）は一覧形式で表示されます。アカウントの関連付けも簡単にできます。

Windows NT、または Windows 2000 SV で構築できるネットワークドメインの詳細については各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

● クライアントのデスクトップ環境を一括管理

クライアントのデスクトップに、業務に必要な機能のみを表示させることができます。

Web 形式のメニュー（WizardMenu）を使って、クライアントから各アプリケーションを簡単に起動することもできます。

WizardMenu の起動ボタンは、WizardMenu 作成ツールを使用して作成します。大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成することができます。

WizardMenu 作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に [スタート] - [プログラム] - [ServerStart] - [WizardMenu 作成ツール] を選択します。

WizardMenu の作成例



WizardMenu と WizardMenu 作成ツールは、WizardConsole をインストールすると、同時にインストールされます。また、WizardMenu を使用するには、「デスクトップ環境設定」の「初期メニュー」タブで「Web メニュー」を指定します。

2 ServerStart の機能

ServerStart でインストールすると、次の利点があります。

● ドライバの自動インストール

自動認識したオプションカードなどに対して、インストール時に最新ドライバを組み込みます。このことにより、誤って古いバージョンのドライバを組み込んだり、サーバに添付されているもの以外のドライバを組み込むというようなドライバの入れ間違いを防止し、潜在的なインストールのミスを防ぎます。

● RAID の自動構成

アレイコントローラカードを使用する場合は、事前に RAID の種類と使用するディスクの本数を指定し、サーバに搭載することにより、RAID のユーティリティを起動せずにディスクアレイを構成できます。



Note

複数のフィジカルバックを作成する場合、2 つ目以降のフィジカルバックはアレイカード添付のユーティリティを使用し、手動で行ってください。

2.1 ServerStart の各機能について

ServerStart の便利な各機能について、ご紹介します。

- ・サーバへのセットアップ情報を事前設定する → 事前設定モード
- ・サーバへのインストール
 - コンフィグレーションファイルを使用する → 複製モード
 - ウィザードに従って設定後インストールする → ガイドモード
 - 個別に設定してインストールする → エキスパートモード
- ・クライアント情報を設定する → WizardConsole
 - クライアントへのインストール (OS をインストールしないとき) → ClientWizard
 - (OS をインストールするとき) → リモート OS セットアップ用フロッピーをセットして電源 ON

■ 事前設定モードでサーバへのセットアップ情報を設定し、フロッピーに保存する

事前設定モードでは、サーバを導入する前に、以下の設定ができます。

- ・サーバのセットアップ情報
- ・サーバを使用するクライアントの情報
- ・サーバに設定するグループや共有フォルダの設定
- ・クライアントにインストールする資源の設計
- ・クライアントのデスクトップ環境（表示内容）

 Point

- 事前設定モードは、Windows 95/98/Me、Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro、または Windows XP Pro が動作する環境で操作を行うので、クライアントコンピュータのみでサーバの設定が可能です。
- 設定した情報は、コンフィグレーションファイルとしてフロッピーディスクに登録します。すでに登録済みのコンフィグレーションファイルを読み込んで、設定情報を修正することもできます。
- コンフィグレーションファイルを作成しておくことにより、専門知識がなくてもサーバのセットアップ、インストールを簡単に行うことができます。

 Note

ユーザアカウントの設定、グループや共有フォルダの設定、クライアントにインストールするアプリケーションファイルの設定を行えるのは、プライマリドメインコントローラとして Windows NT をインストールした場合、または Active Directory を設定して Windows 2000 SV をインストールした場合のみです。

■ サーバへのインストール

ServerStart には、次の3つのインストール方法があります。また、ServerStart で OS インストールタイプを開封することができます。

● 事前設定モード／複製モード

複製モードでのインストールは、あらかじめセットアップ情報が保存されたコンフィグレーションファイルを読み込んでインストール、セットアップを行います。セットアップ情報の作成には、事前設定モードを利用します。セットアップの途中で指定内容を確認する必要がなく、その場にいなくてもセットアップが進むので、長い作業時間を有効に活用できます。また、同じ環境のサーバをセットアップするときも便利です。

● ガイドモード

ガイドモードでは、ウィザードに従ってセットアップ情報を設定していきます。各ウィザードでは、項目の説明や設定のヒントなどがガイドエリアに表示されるので、わかりやすく、確実にセットアップ情報が設定できます。

● エキスパートモード

RAID 構成ツールや、ディスクアドミニストレータに精通していて、設定内容などが明確な場合などは、個別にハードウェア構成ツールで RAID やディスクの構成が行えるエキスパートモードが便利です。

● OS インストールタイプの開封

ウィザードに従って OS インストールタイプの開封に必要な情報をあらかじめ設定します。開封時に設定内容を確認しなくても、あらかじめ設定した内容に従ってスムーズに開封できます。

■ WizardConsole でクライアント情報の設定、クライアントのセットアップ

WizardConsole では、サーバへのインストール終了後、クライアントコンピュータを追加したり、アカウントを変更するなど、クライアント情報の変更が行えます。また、クライアントへのセットアップに必要な資源（OS、アプリケーションソフトの登録など）を準備します。クライアントに OS をインストールする場合、WizardConsole で設定が行えます。これらのクライアント情報を WizardConsole で変更した場合、設定内容は即座に反映されます。

■ クライアントのセットアップを簡単に

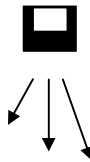
クライアントのインストール、セットアップを行うために、クライアントブート設定で、セットアップ用フロッピーを作成します。

● 一枚のフロッピーに1クライアント



フロッピーをクライアント全員に配布して、同時にセットアップできます。

● 一枚のフロッピーに複数のクライアント



各クライアントを順番にセットアップできます。ただし、クライアントセットアップ中に別のクライアントのセットアップを同時に行うことはできません。

フロッピー作成後、ネットワーク環境が設定されている各クライアントにフロッピーをセットしてインストールを行います。OS インストールの他に、複数のクライアントに同一アプリケーション、同一ファイルのインストールも簡単に行えます。

Point

- セットアップフロッピーに複数のクライアントが登録されている場合は、自分が使用するコンピュータ名を選択して、あとは [OK] をクリックするだけで、登録されている情報が自動的にインストールされます。
- インストールが終了すると、フロッピーからインストールが完了したコンピュータの情報が削除されるので、間違えて同じコンピュータ名でインストールされることはありません。

3 必要なシステム

操作を始める前に、あらかじめ以下の CD-ROM、またはフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

■ サーバをセットアップするとき

ハードウェア	☐ お買い上げいただいた PRIMERGY 本体 ☐ 事前設定モードを使用する場合は、当社 FMV シリーズなど Windows 95/98/Me、Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro、Windows XP Pro が動作するパーソナルコンピュータ本体（CD-ROM ドライブ必須、10MB 以上の空き容量が必要） ・ 複数の LAN カードを搭載した場合、WizardConsole は利用できません。
ソフトウェア	☐ 使用する OS（Windows NT、Windows 2000 SV）の CD-ROM ☐ ServerStart の CD-ROM ・ 同じモデルを複数台導入するとき、異なる版数の CD-ROM がある場合は、最新のものを使用してください。 ☐ コンフィグレーションファイル登録用のフロッピーディスク（本製品に添付の「ServerStart フロッピーディスク」を用意してください。） ☐ 修復ディスクを作成するためのフロッピーディスク（未使用のフロッピーディスク … 1 枚） ☐ Service Pack の CD-ROM Windows NT で ServerStart の CD-ROM に入っている Service Pack を使用する場合は不要です。Windows 2000 SV で Service Pack を導入する場合は必要です。 ☐ アプリケーションのインストール用 CD-ROM サーバアプリケーションをインストールする設定にした場合に必要です。（ARCserveIT、ARCserve2000 など） ☐ オプションカードに添付されているドライバのフロッピーディスク など ☐ Microsoft®Internet Explorer 4.01 以上 ☐ ServerView の CD-ROM ServerView をインストールする場合に必要です。

■ クライアントをセットアップするとき

ハードウェア	☐ 当社 FMV シリーズなど Windows 95/98/Me、Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro、Windows XP Pro が動作するパーソナルコンピュータ本体（LAN カード搭載） ☐ ハブユニット、ルータ ☐ LAN ケーブル（必要本数分） ・ サーバのインストール後は、LAN などのご使用になる接続形態に合わせてクライアントコンピュータを接続してください。 ・ 複数の LAN カードを搭載した場合、リモート OS セットアップおよびクライアントセットアップは利用できません。
ソフトウェア	☐ クライアントセットアップファイル登録用のフロッピーディスク（未使用のフロッピーディスク … 必要枚数） → 「クライアントブート設定」で使用します。 ☐ Windows NT WS 4.0 の CD-ROM（クライアントに OS をインストールする場合） ☐ Microsoft®Internet Explorer 3.02 以上（デスクトップ設計で Web メニューを使用する場合）

4 ServerStart を起動する前に

ServerStart をお使いになる前に、必ず本体マニュアルをよくお読みになり、以下の事項に留意してサーバの準備を行ってください。

4.1 サーバ導入前の準備

I-1

本体ハードウェアマニュアルをよく読み、サーバの組立て完了後、オプションカードが正しい位置に装着されていることを確認してください。

● 内蔵オプション取り付け時の注意

ServerStart を使用して OS をインストールするとき、内蔵オプションや周辺機器を使用する場合は、以下の点に注意してください。これらの注意を守っていただかない場合は、正常にインストールが行われません。

- ・ 本体マニュアルを参照し、正しいスロットにオプションカードを取り付けてください。
- ・ OS のインストール先となるハードディスク以外は接続しないでください。
- ・ SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクなど）を増設する場合は、OS のインストールおよびセットアップが終了してから電源を切断して接続を行ってください。

● BIOS セットアップユーティリティ

ServerStart はハードウェアセットアップ（BIOS、ICU ユーティリティ等）には対応していません。本体マニュアルを参照し、BIOS セットアップユーティリティにより以下の設定を行ってください。

- ・ PCI カードの設定（PCI カードを使用する場合）
- ・ パスワードの設定（パスワードを設定する場合）

● SCSI コンフィグレーションユーティリティ

SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定、および確認を行ってください。

なお、オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、OS のセットアップが終了してから電源を切断し、接続を行ってください。

操作方法について詳しくは本体マニュアルを参照してください。

● コンフィグレーションユーティリティ

ServerStart は ISA カードを自動認識しません。ご使用の機種により、オプションカードを使用する際にコンフィグレーションユーティリティ（ICU（ISA コンフィグレーションユーティリティ）または SSU（システムセットアップユーティリティ））を実行しておく必要があります。詳しくは、本体マニュアルを参照してください。

● サーバ導入時に搭載するメモリ容量について

Windows NT SV 4.0 の場合、サーバ導入時に搭載するメモリ容量は、2GB 以下にしてください。2GB を超えるメモリを搭載する場合は、サーバ導入後にメモリの増設を行ってください。ただし機種によっては、2GB より少ないメモリ容量に制限されている場合があります。サーバ機の取扱説明書でご確認ください。

 Note

Windows NT SV 4.0 インストール時に、2GB を超えるメモリを搭載した場合、セットアップ起動時にエラーとなり、セットアップを継続できなくなります。

 Point

- ServerStart がサポートするオプションカードや、自動インストールするデバイス、アプリケーションについては「付録 C 留意事項」(P.199) を参照してください。

● RAID 構築について

既に構築済みの RAID 環境を残してインストールする場合は、エキスパートモードをご利用ください。

RAID カードの交換等で、既に構築済みのディスクを利用する場合は、RAID カードを交換する前に、フィジカルバックを削除しておく必要があります。

フィジカルバックを削除する方法は、RAID カードによって異なります。RAID カードに添付されているマニュアルの Storage Manager On ROM (SMOR) または EzAssist の使用方法 (RAID カードによって異なります) を参照してください。

ServerStart で RAID 構築する場合、アレイの初期化はバックグラウンド初期化 (BGI) 機能を利用します。初期化が完了しているか確認する場合は、各 RAID カードの管理ツールで確認することができます。管理ツールの利用方法は、管理ツール (Storage Manager または Global Array Manager) のヘルプまたは RAID カードのマニュアルを参照してください。

● PG-143B と PG-144B を同時に搭載した場合について

PG-143B と PG-144B を同時に搭載した場合、OS のインストールを開始すると、PG-143B に接続されたハードディスク数が正常に認識されず、インストールに失敗することがあります。この場合、PG-144B を一旦取り除いて、インストールを再度実行してください。

● LAN ケーブルについて

LAN カードに LAN ケーブルを接続せずに、OS のインストールやアプリケーションの自動インストールを行った場合、セットアップ後、イベントビューアにエラーが記録される場合があります。セットアップ時には、必ず LAN ケーブルを接続してください。

● 複数の LAN カードおよび通信カードを搭載する場合について

複数の LAN カードおよび通信カード (GP5-163/165) を搭載する場合、ハードウェアマニュアルを参照して正しいスロットに搭載してください。カードの優先度についても考慮する必要があります。

4.2 Service Pack について

ServerStart の CD-ROM には、Microsoft® Windows NT® Version 4.0 Service Pack が収められています。Service Pack の種類については CD-ROM のレーベルに記述されているので確認してください。

● Service Pack の適用

事前設定モードまたはガイドモードの「アプリケーションウィザード」で、サービスパックを選択しなかった場合は、Service Pack は適用されません。この場合、OS インストール後に適切な Service Pack (Option Pack 含む) を適用してください。

適用可能な Service Pack については、「インフォメーション」ー ServerStart ソフトウェア情報を参照してください。

4.3 情報ファイルについて

ServerStart では、コンフィグレーションファイル、クライアントセットアップファイルの2つのファイルを使用します。

● コンフィグレーションファイル (SerStartBatch.ini)

コンフィグレーションファイルには、事前設定モード、またはガイドモードで設定したサーバの情報およびクライアントの情報が登録されます。

ServerStart の複製モードでインストールする際に使用します。

サーバ情報ファイルは、1枚のフロッピーディスクに1ファイルのみ登録してください。

Note

コンフィグレーションファイルの名前は、任意の名前を付けることができますが、ガイドモードまたは複製モードでインストールする際に使用できる名前は「SerStartBatch.ini」のみです。インストールを実行する場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに「SerStartBatch.ini」のファイル名で保存して使用してください。

● クライアントセットアップファイル (.CPD)

クライアントをセットアップするためのファイルです。ServerStart でサーバをインストールしたあとに、WizardConsole 機能を使用して作成します。

クライアントセットアップファイルを登録したフロッピーディスクを使うと、クライアントのセットアップが自動的に行えます。また、あらかじめクライアントに配布するアプリケーションなどの資源が登録されている場合は、セットアップ時にアプリケーションなどのインストールも自動的に行われます。

クライアントごとに1つのフロッピーディスクを作成した場合は、クライアントごとにセットアップします。全クライアントを1つのフロッピーディスクに作成した場合は、順番にセットアップを行ってください。

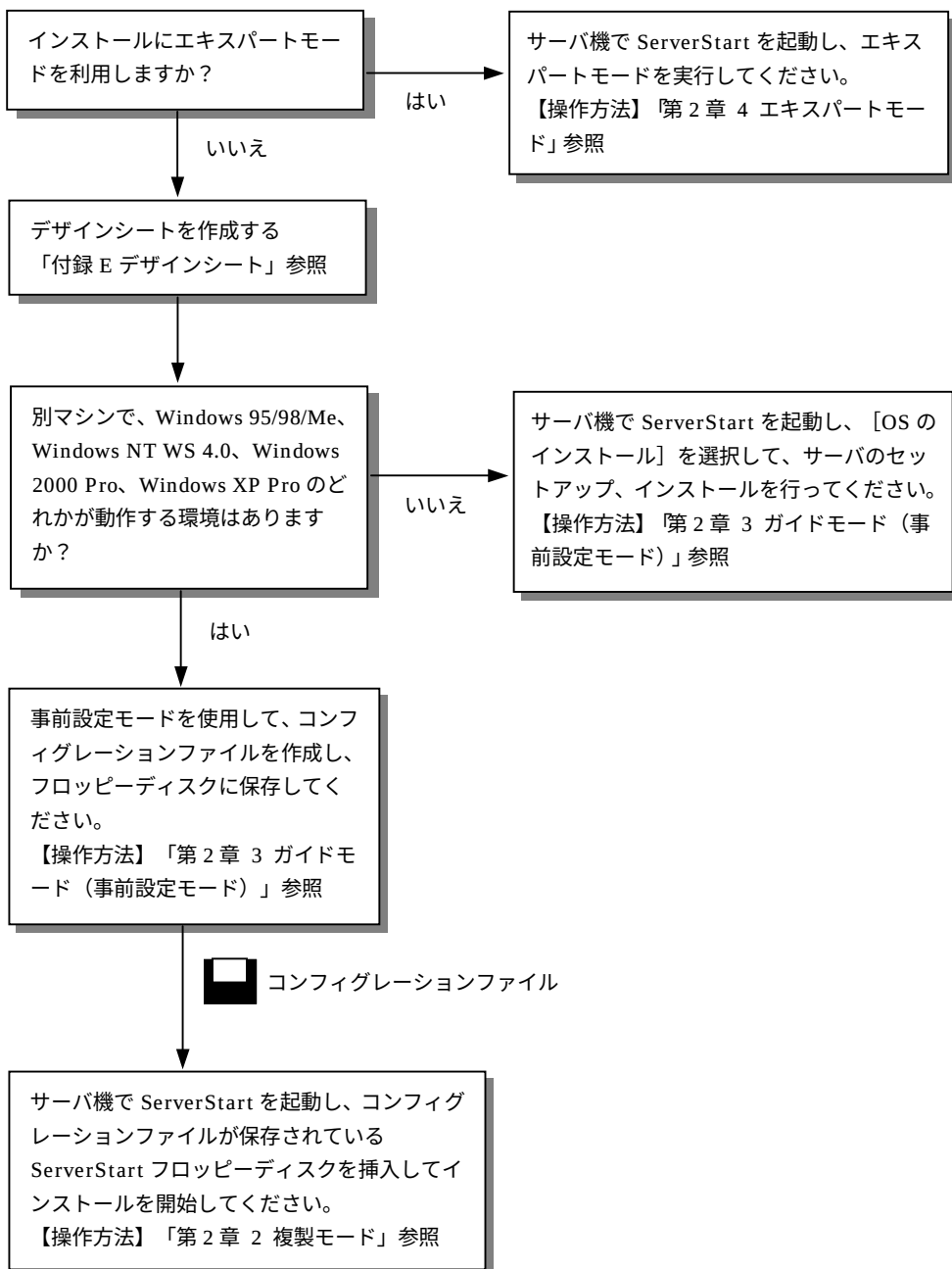
4.4 ドライバについて

最新のドライバは、富士通公開 WWW サーバ内の PRIMESERVER WORLD 内の「会員のページ」内で公開しています。

「会員のページ」(無料)では、PRIMERGY に関する有効な詳細技術情報、ご利用者間の情報交換の場(談話室)、新着情報やセミナーなどのメールサービスなどのサービスを提供しております。

5 ServerStart でのセットアップ手順

ServerStart でサーバをセットアップする場合、次の条件に従って適切な方法を選択してください。



6 ServerStart 使用時の注意事項

6.1 ServerStart の操作について

ServerStart の操作は、主にマウスを使用します。Tab キーおよびカーソルキーで項目の移動などが行えない場合があります。ServerStart ご利用時には、必ずマウスをご用意ください。

I-1

6.2 CD-ROM の取り出しについて

ServerStart が起動中は、ServerStart CD-ROM を取り出さないでください。ServerStart CD-ROM を取り出し、再度挿入すると、複数の ServerStart が起動し、それまで入力していた設定内容が失われる可能性があります。

6.3 エキスパートモード／ガイドモード時の IME について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動して、エキスパートモードまたはガイドモードを使用する場合、日本語を入力することができます。この時、画面右下に IME ツールバーが表示されますが、この IME ツールバーを「タスクバーにドッキング」しないでください。一度 IME ツールバーをタスクバーにドッキングすると、ServerStart 実行中、IME ツールバーが表示されなくなります。

6.4 モードの移動について

コンフィグレーションファイルを開いて、ウィザードでインストール項目を入力している際に、別のモードへ移動しないでください。（例えば、WindowsNT4.0 ガイドモード実行中に Windows2000 ガイドモードを実行しないでください。）

入力中のモードから別のモードに移動する場合、コンフィグレーションファイルを保存する必要があります。なお、コンフィグレーションファイルを保存せずに [キャンセル] をクリックすると、それまでに入力した内容は破棄されます。

6.5 ServerStart のインストール／アンインストール

ServerStart 事前設定モードを使用する場合、お使いのシステムに ServerStart をインストールする必要があります。

ServerStart をアンインストールする場合、[コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除] でアンインストールを行ってください。正常にアンインストールが実行されると、Fujitsu ServerStart が削除されます。なお、Windows 2000 Pro または Windows 2000 SV でアンインストールを行った場合、「アプリケーションの追加と削除」が応答しなくなる場合があります。この場合、システムをログオフしてください。

6.6 インストール中の問題について

Windows NT のインストール時、GUI セットアップ完了後の再起動でシステムがハングすることがあります。この場合、セットアップは正常に行なわれているので、一旦電源を切断し、再度電源を投入しセットアップを続行してください。

6.7 ServerStart の終了について

エキスパートモード／ガイドモード実行後、ServerStart を終了すると、システムが再起動します。シャットダウン完了後画面の表示が消えたところで電源ボタンを押し、システムの電源を切断してください。

6.8 ServerStart 用システムの使用許諾書について

ServerStart 起動画面からリンクされている「ServerStart 用システムの使用許諾書」は、ServerStart CD-ROM 内に含まれている Windows NT に関する使用許諾書です。ServerStart 起動用の Windows NT は、別途正規にライセンスされた Windows NT または Windows 2000 SV をインストールするためだけに使用可能です。

6.9 RAID の初期化について

ServerStart で RAID の自動構築を行った場合、RAID の初期化はバックグラウンドで行われます。ディスクを取り外す場合、RAID ユーティリティ等で初期化が完了したかどうかを確認してから作業を行ってください。

6.10 PRIMERGY 以外のマシンで ServerStart の CD-ROM を起動した場合について

ServerStart の CD-ROM は、PRIMERGY 以外では起動できません。PRIMERGY 以外で起動した場合は、次のメッセージが表示されます。

この場合、ServerStart の CD-ROM をドライブから取り出して再起動してください。

```
Fujitsu siemens BIOS Lock Version 2.0
Please wait ...
Manufacture string is "xxxx"
Product name is "xxxx"
Start of ServerStart rejected !
ServerStart is allowed to run on PRIMERGY systems only !
Remove the CD from it's drive and reboot the computer
```

また、一部のマシンでは、次のメッセージを表示したまま停止することがあります。この場合も、ServerStart の CD-ROM をドライブから取り出して再起動してください。

```
Fujitsu siemens BIOS Lock Version 2.0
Please wait ...
```

第2章

サーバのインストール ／セットアップ

1	インストール方法の選択	18
2	複製モード	23
3	ガイドモード（事前設定モード）	25
4	エキスパートモード	49
5	OS インストールタイプの開封	56

1 インストール方法の選択

ServerStart には、次の 3 つのインストール方法と、OS インストールタイプの開封方法があります。

● 複製モード

事前設定モードまたはガイドモードで作成したコンフィグレーションファイルを使用して、インストールを行う方法です。

事前設定モードは、すでに OS がインストールされているコンピュータ上で、ウィザードに従ってハードウェアの構成や、ユーザ情報、ネットワークの設定等を行い、インストールに必要な情報をコンフィグレーションファイルに保存します。

● ガイドモード

インストールを行うサーバ機で ServerStart を起動し、ウィザードに従ってハードウェアの構成や、インストール OS の設定等を行い、インストールに必要な情報をコンフィグレーションファイルに保存して、インストールを行う方法です。

● エキスパートモード

インストールを行うサーバ機で ServerStart を起動し、ウィザードを使用せず、ディスク構成ツールや RAID 構成ツール等を起動してハードウェアの構成を行い、インストールを行う方法です。

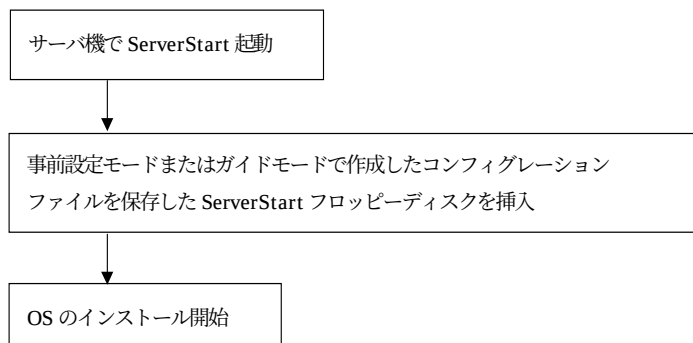
● OS インストールタイプの開封

事前設定モードで作成したコンフィグレーションファイルを使用して、複製モードで開封する方法と、開封するサーバ機で ServerStart を起動し、ウィザードに従って必要な情報を設定して開封するプレインストールモードがあります。

1.1 インストールの流れ

各モードのインストールの流れは、次のようになります。

● 複製モード



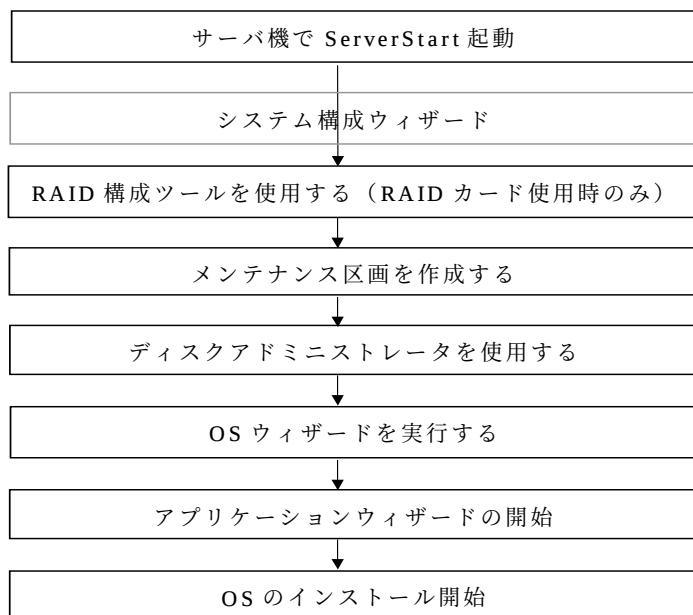
● ガイドモード／事前設定モード



Note

通常、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。
指示がない場合は起動しないでください。

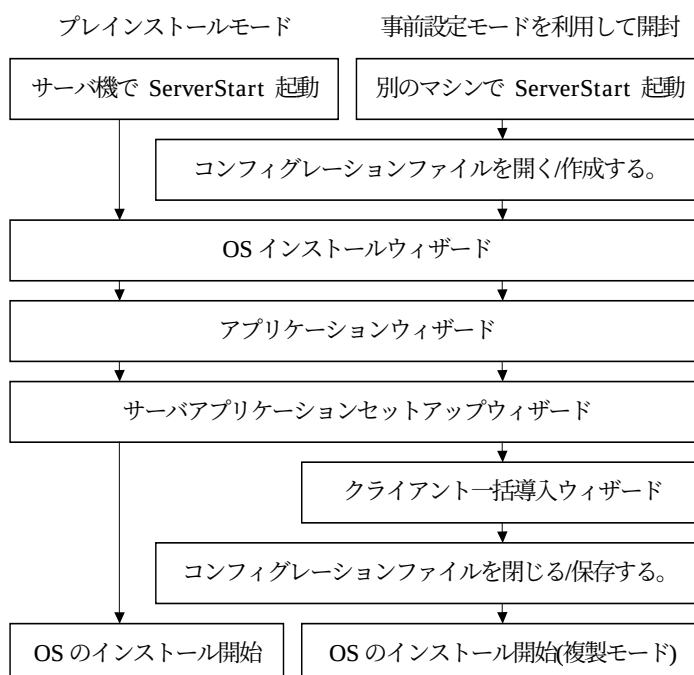
● エキスパートモード



Note

通常、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。
指示がない場合は起動しないでください。

● OS インストールタイプの開封



1.2 各画面について

■ メイン画面

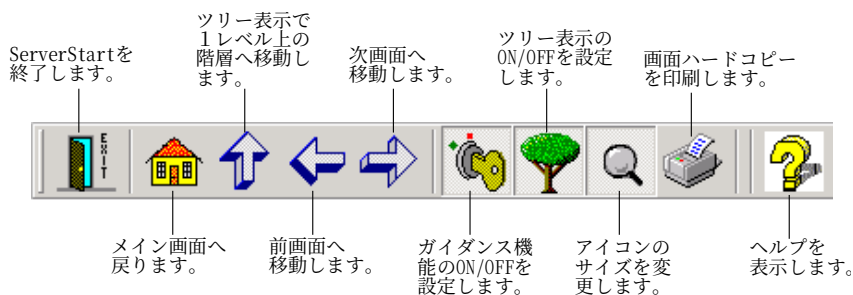
ServerStart を起動すると、次のメイン画面が表示されます。

メイン画面は、各モードにより異なります。



■ ツールバー

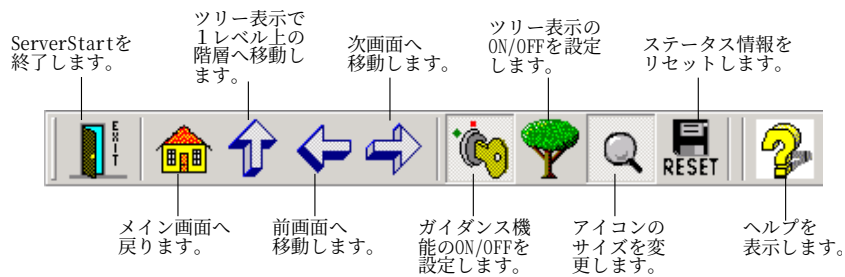
● 事前設定モード



Point

- ガイダンス機能は、エキスパートモードのみ有効です。

● ガイドモード／エキスパートモード



 Point

- ガイダンス機能は、エキスパートモードのみ有効です。

■ ウィザード画面

ウィザード画面で、各項目を設定します。各項目の詳細については、ガイドエリア内で説明しています。



ガイドエリア
各項目について
説明しています。

2 複製モード

事前設定モードまたはガイドモードで作成したコンフィグレーションファイルを使用して、サーバのインストールを行います。ServerStart 起動時に、コンフィグレーションファイルを保存した ServerStart フロッピーディスクを挿入すると、複製モードが起動します。

1 ServerStart の CD-ROM をセットします。

「フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクを挿入してください」というメッセージが表示されます。

2 コンフィグレーションファイルを保存した ServerStart フロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。

複製モードを実行するかどうかメッセージが表示されます。

3 [開始] をクリックします。

OS のインストールが開始されます。

Point

- コンフィグレーションファイルの内容を確認したり、OS のインストールを行わない場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

インストールの進行状況が表示されます。検出されたデバイスが表示された後、インストールする OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

4 インストールする OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

ライセンス契約の同意画面が表示されます。

Note

- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。再び ServerStart からインストールを行う場合は、最初から操作しなおしてください。
- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はコンフィグレーションファイルには反映されません。

Point

- サーバアプリケーションのインストールを設定した場合は、インストール中にアプリケーションセットアップ画面が表示されます。



アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して [OK] をクリックしてください。設定したアプリケーションごとにアプリケーションセットアップ画面が表示されます。それぞれ同様にインストールを行ってください。

Windows 2000 をインストールする場合は、手順 7 に進みます。

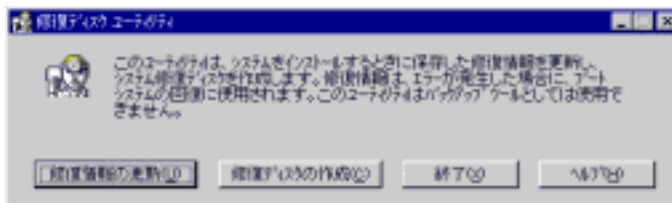
5 インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。

管理者用パスワードを入力し、パスワード確認入力にも同じパスワードを入力します。パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。



6 [OK] をクリックします。

「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。[修復ディスクの作成] をクリックし、画面の指示に従って操作してください。修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが 1 枚必要です。



Point

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。
- システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

7 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

Point

- インストール時に、クライアントシステム設計やクライアントセットアップで登録した項目の設定に失敗した場合はエラーが記録され、表示されます。原因などを確認してください。

3 ガイドモード（事前設定モード）

ガイドモードでは、ウィザードに従ってハードウェアの構成や、インストール OS の設定等を行い、インストールに必要な情報をコンフィグレーションファイルに保存後、引き続き OS をインストールします。

事前設定モードでは、Windows 95/98/Me、Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro、Windows XP Pro がインストールされているコンピュータ上で、インストールに必要な情報を設定し、コンフィグレーションファイルに保存します。保存したコンフィグレーションファイルを使用して、複製モードでインストールを行ってください。

3.1 起動

ガイドモード／事前設定モードを起動します。

■ 事前設定モードの起動

- 1 ServerStart の CD-ROM をセットします。
メイン画面が表示されます。



Note

- 初めて事前設定モードを起動する場合は、ServerStart をインストールする必要があります。ServerStart Launcher では、ServerStart を動作させるために必要なソフトウェアをインストールします。すべて選択した状態で [OK] をクリックして、インストールしてください。選択しなかった場合、ServerStart は正常に起動することができません。
- ServerStart 起動中は、CD-ROM を取り出したり、複数の ServerStart を起動しないでください。入力した内容が失われる場合があります。



 Point

- CD-ROM が自動起動しない場合は、CD-ROM 内の \Launcher.exe を実行してください。

2 [OS のインストール・事前設定モード] をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」が表示されます。



 Note

インストール開始前に、[インストールに関する留意事項] をクリックし参照してください。ディスクの構成に関する制限事項等、重要な情報が記述されています。

3 [Microsoft Windows Operating Systems のインストーラー事前設定モード] をクリックします。

「Microsoft Windows Operating System のインストール」が表示されます。



I-2

4 インストールする OS を選択します。

事前設定モードが起動します。



■ ガイドモードの起動

1 ServerStart の CD-ROM をセットします。

「フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクを挿入してください」というメッセージが表示されます。

インストールタイプの場合は、次の画面が表示されます。

Windows 2000 の場合



Windows NT 4.0 の場合



インストールタイプを開封する場合は、[OK] をクリックします。詳細は、「5.2 プレインストールモードで開封する」(P.57) を参照してください。

2 添付の ServerStart フロッピーディスクを挿入して、[OK] をクリックします。

Point

- 新しいフロッピーディスクを使用する場合は、[作成] をクリックすると、ServerStart フロッピーディスクを作成できます。

メイン画面が表示されます。

3 OS のインストールをクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」が表示されます。

4 [Microsoft Windows Operating Systems のインストール] をクリックします。

「Microsoft Windows Operating Systems のインストール」が表示されます。

5 インストールする OS を選択します。

6 [ガイドモード] をクリックします。

Windows NT 4.0 の場合は、「Windows NT 4.0 のインストーラーガイドモード」をクリックします。Windows 2000 の場合は、「Windows 2000 のインストーラーガイドモード」をクリックします。ガイドモードが起動します。

(Windows NT 4.0 の場合)



3.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する

コンフィグレーションファイルを開きます。または、新規に作成します。

1 [コンフィグレーションファイルを開く／作成する] をクリックします。

「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。



Note

一度コンフィグレーションファイルを開くと、[コンフィグレーションファイルを開じる／保存する] をクリックするまで、別のファイルを読み込むことはできません。

Point

- 事前設定モードでコンフィグレーションファイルがない場合は、[作成] をクリックして、コンフィグレーションファイルを作成してください。
- A ドライブにフロッピーディスクが挿入されている場合、ファイル名に「A:\SerStartBatch.ini」が指定されます。フロッピーディスクが挿入されていない場合、ファイル形式が「* .ini」となり、ファイル名は指定されません。

2 コンフィグレーションファイルを選択して、[開く] をクリックします。

ガイドモード／事前設定モード画面に戻ります。

3.3 システム構成ウィザード

サーバ管理に関する設定を行います。

Note

- ・通常、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。指示がない場合は起動しないでください。
- ・各設定項目については、ハードウェアマニュアルを参照して、ハードウェアがサポートしている適切な値を設定してください。誤った設定を行うと、システムが起動しなくなる場合があります。

Point

- 各項目の詳細については、画面右に表示されている英語のガイドを参照してください。

3.4 RAID ウィザード

RAID の構成を行います。ガイドモードでは、RAID カードが搭載されている場合のみ、RAID ウィザードが表示されます。

Point

- 各項目の詳細については、画面右に表示されているガイドを参照してください。

Note

RAID カードを変更する場合は、フィジカルバックを削除してから搭載カードを変更してください。フィジカルバックの削除方法は、各 RAID カードのマニュアルを参照してください。

1 [RAID ウィザード] をクリックします。

「RAID の構成」が表示されます。



Point

- ガイドモードの場合は、すでに組み込まれている RAID カードのみ表示されます。また、この場合は、RAID カードに接続されているディスク数が表示されます。

2 各項目を設定し、[ウィザード終了] をクリックします。

事前設定モード画面に戻ります。

3.5 ディスクウィザード

ハードディスクの区画作成とフォーマットを行います。

Note

ディスクウィザード起動時には、デフォルト値が設定されています。この設定で問題がないかどうか、必ず「[変更]」をクリックして、内容を確認してください。また、必要に応じて適切な設定に変更してください。

Point

- 各項目の詳細については、画面右に表示されているガイドを参照してください。

I-2

1 「ディスクウィザード」をクリックします。

「ディスクの構成」が表示されます。



●パーティションを追加する

1. 「追加」をクリックします。

「ディスクの構成」が表示されます。



 Note

ボリュームラベルには、次の文字数制限があります。制限以上入力できる場合がありますが、インストールに失敗する可能性がありますので、制限内で入力してください。

- FAT 全角 5 文字（半角 11 文字）以内
- NTFS 全角 / 半角 32 文字以内

2. 各項目を設定し、[上へ] をクリックします。

パーティションリストに新しいパーティションが追加されます。

● パーティションを削除する

1. 削除するパーティションを選択して、[削除] をクリックします。

パーティションが削除されます。

● パーティションを変更する

1. 変更するパーティションを選択して、[変更] をクリックします。

「ディスクの構成」が表示されます。

2. 各項目を設定し直し、[上へ] をクリックします。

パーティションが変更されます。

2 設定が終了したら、[ウィザード終了] をクリックします。

ガイドモード／事前設定モード画面に戻ります。

 Note

「起動ディスクにメンテナンス区画を作成する」が選択されていない場合は、確認メッセージが表示されます。メンテナンス区画を作成する場合は、[はい] をクリックします。

3.6 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコル等の設定を行います。

 Point

- インストールする OS によりタイトル名が異なります。ここでは、Windows NT 4.0 を例に説明します。
- 各項目の詳細については、画面右に表示されているガイドを参照してください。

- 1 [Windows NT 4.0 インストールウィザード] をクリックします。
「コンピュータ情報」が表示されます。

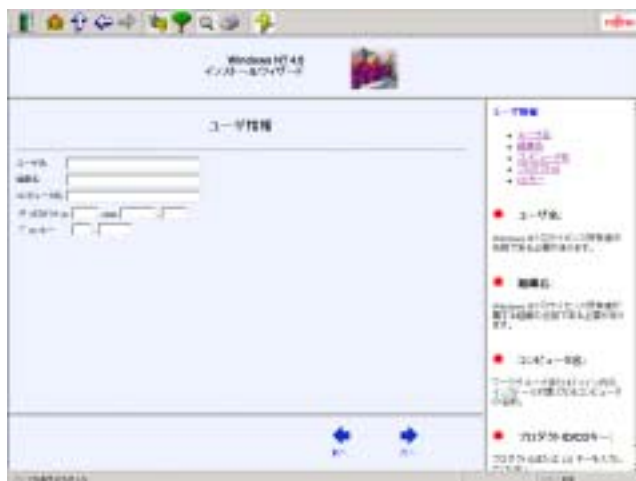


- 2 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。
「インストール先ディレクトリとタイムゾーン」が表示されます。



3 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。

「ユーザ情報」が表示されます。



4 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。

「画面の設定」が表示されます。プレインストールモードの場合は、手順5に進みます。



5 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。

「ネットワークプロトコル」が表示されます。



Point

- 「TCP/IP プロトコルのインストール」をチェックすると、TCP/IP パラメータを変更できます。

Note

「手動でネットワークの設定を行う」をチェックすると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

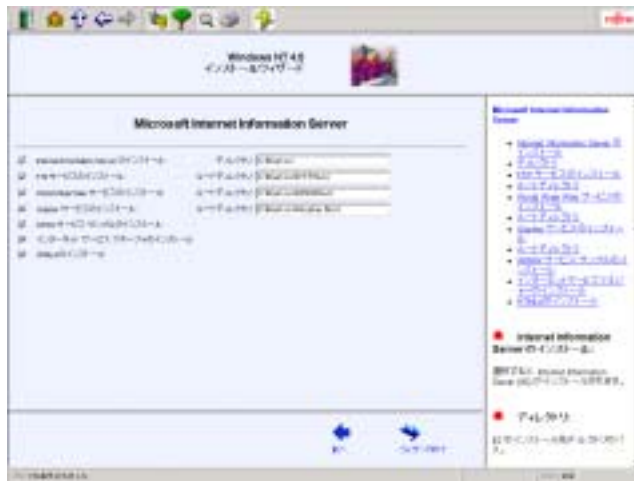
6 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。

「サービス」が表示されます。



7 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。

「Microsoft Internet Information Server」が表示されます。



8 各項目を設定し [ウィザード終了] をクリックします。

ガイドモード／事前設定モード画面に戻ります。

3.7 アプリケーションウィザード

インストールするアプリケーションを選択します。

Point

- 各項目の詳細については、画面右に表示されているガイドを参照してください。

1 [アプリケーションウィザード] をクリックします。

「アプリケーションウィザード」が表示されます。



Note

クライアントの導入や、クライアントのインストール／セットアップ等を行う場合は、WizardConsole をインストールしてください。

WizardConsole をインストールするには、Windows NT 4.0 の場合は、「Windows NT 4.0 インストールウィザード」の「コンピュータ情報」でコンピュータ種別を「プライマリドメインコントローラ」に設定する必要があります。

また、Windows 2000 の場合は、「Windows 2000 インストールウィザード」の「サービス」で「ドメインネームシステム (DNS)」を選択し、「Active Directory の詳細設定」をクリックして、「Active Directory をインストールする」を設定する必要があります。

2 インストールするアプリケーションを設定し、[ウィザード終了] をクリックします。

ガイドモード／事前設定モード画面に戻ります。

I-2

3.8 サーバアプリケーションセットアップウィザード

インストールするサーバアプリケーションの設定を行います。

Point

- 各項目の詳細については、画面右に表示されているガイドを参照してください。

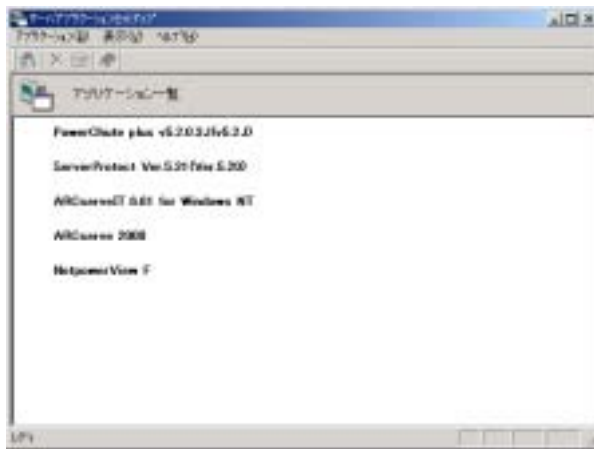
1 [サーバアプリケーションセットアップウィザード] をクリックします。

「セットアップウィザード」が表示されます。



2 「サーバアプリケーションセットアップ」をクリックします。

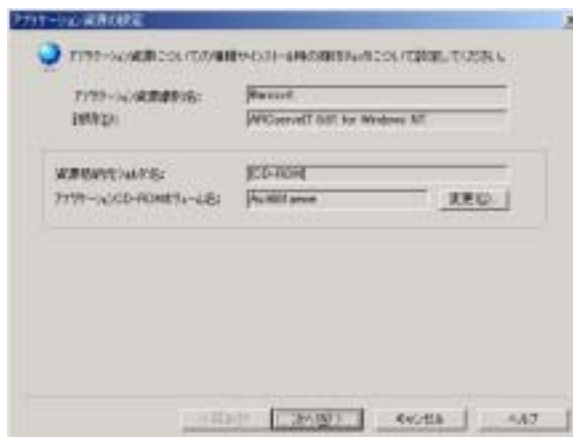
「サーバアプリケーションセットアップ」が表示されます。



3 インストールするサーバアプリケーションを選択し、[アプリケーション] – [アプリケーション設定] をクリックします。

アプリケーション資源の設定画面が表示されます。

(例：ARCserveIT 6.61 for Windows NT の場合)



4 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。

アプリケーションのインストールパラメータ設定画面が表示されます。設定画面は、アプリケーション毎に異なります。

 Note

ヘルプには、インストールに関する重要な情報を記載しています。必ず参照してください。また、各アプリケーションの詳細については、アプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。

- 5 各項目を設定し、設定し終わったら、[完了] をクリックします。
「サーバアプリケーションセットアップ」に戻ります。インストールするサーバアプリケーション毎に設定を行ってください。
- 6 [アプリケーション] – [終了] をクリックします。
「セットアップウィザード」に戻ります。
- 7 [ウィザード終了] をクリックします。
ガイドモード／事前設定モード画面に戻ります。

3.9 クライアント一括導入ウィザード

I-2

ドメインにコンピュータ、ユーザアカウント等を作成します。

Note

- クライアント一括導入ウィザードを実行する場合は、アプリケーションウィザードで WizardConsole をインストールしてください。
- WizardConsole をインストールするには、Windows NT 4.0 の場合は、「Windows NT 4.0 インストールウィザード」の「コンピュータ情報」でコンピュータ種別を「プライマリドメインコントローラ」に設定する必要があります。
- また、Windows 2000 の場合は、「Windows 2000 インストールウィザード」の「サービス」で「ドメインネームシステム (DNS)」を選択し、「Active Directory の詳細設定」をクリックして、「Active Directory をインストールする」を設定する必要があります。
- 各ウィザード実行中は、別のウィザードを起動しないでください。同時に複数のウィザードを起動すると、設定した内容が正しく保存されません。

Point

- クライアントの導入設定は、インストール終了後に WizardConsole でも設定できます。
WizardConsole について詳しくは、「第3章」の「WizardConsole」(P.61) を参照してください。

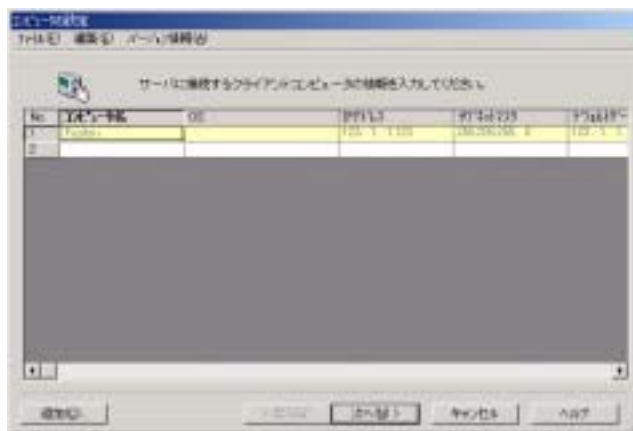
- 1 「クライアント一括導入ウィザード」をクリックします。
「クライアント一括導入ウィザード」が表示されます。



- 2 「クライアントシステム設計」をクリックします。
サーバを使用するクライアントの情報や、サーバに設定するグループ、共有フォルダの設定および関連付けを行います。

●クライアントシステム設計の設定方法

1. 「クライアントシステム設計」をクリックします。
「コンピュータの設定」ダイアログが表示されます。あらかじめサーバのコンピュータ名が表示されています。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

2. サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。

「追加」または「変更」をクリックすると、「コンピュータの追加/変更」ダイアログが表示されますので、必要な項目を設定します。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

3. 「追加」または「変更」をクリックします。

続けて追加するコンピュータを設定できます。

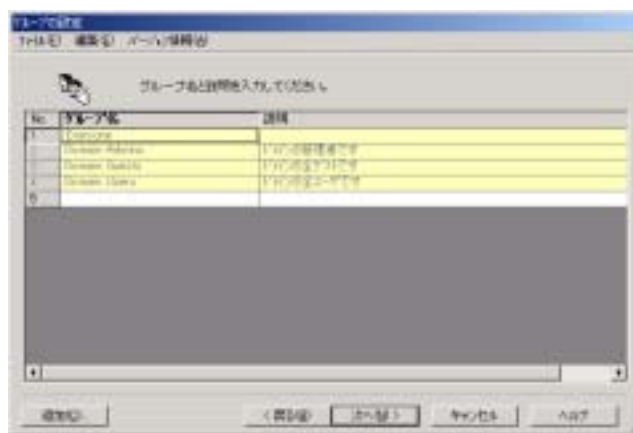
すべてのコンピュータを設定後、「キャンセル」をクリックするとコンピュータ情報が登録され、「コンピュータの設定」ダイアログに戻ります。

Note

256 件のコンピュータが登録されているサーバ情報ファイル（WizardConsole で作成）を読み込んだとき、設計中のコンピュータ 1 件と、読み込んだ 256 件（No.2 ～ No.257）の計 257 件が表示されることがあります。この場合、登録されるのは No.2 ～ No.257 の 256 件のみです。No.258 も入力可能状態になりますが、入力は無効になります。

4. 「次へ」をクリックします。

「グループの設定」ダイアログが表示されます。あらかじめ設計しているサーバで予約されているグループ名が表示されます。



5. サーバを利用するグループを登録します。

「追加」または「変更」をクリックすると、「グループの追加/変更」ダイアログが表示されますので、必要な項目を設定します。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

6. 「追加」または「変更」をクリックします。

続けて追加するグループを設定できます。

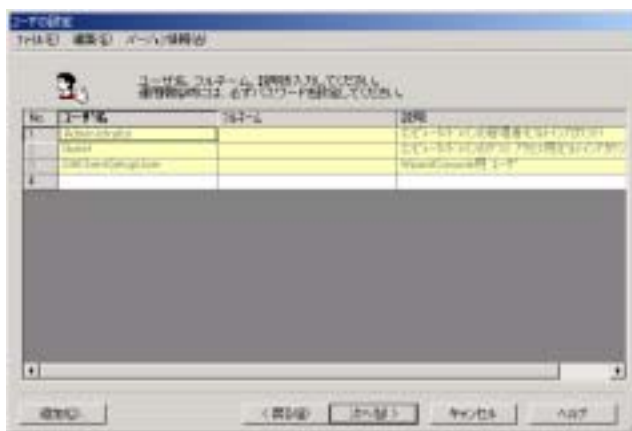
すべてのグループを設定後、「キャンセル」をクリックするとグループ情報が登録され、「グループの設定」ダイアログに戻ります。

 Note

設計しているサーバで予約されているグループ名は作成できません。

7. 「次へ」をクリックします。

「ユーザの設定」ダイアログが表示されます。設計しているサーバで予約されているユーザ名が表示されます。



8. サーバを利用するユーザの情報を登録します。

「追加」または「変更」をクリックすると、「ユーザの追加 / 変更」ダイアログが表示されますので、必要な項目を設定します。

» 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

9. 「追加」または「変更」をクリックします。

続けて追加するユーザを設定できます。

すべてのユーザを設定後、「キャンセル」をクリックするとユーザ情報が登録され、「ユーザの設定」ダイアログに戻ります。

 Note

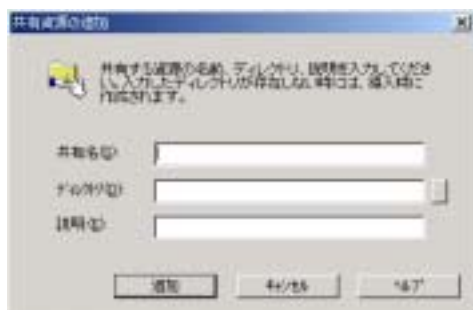
- ここでは、ユーザのパスワードは設定できません。セキュリティのためにも運用開始時に必ずパスワードを設定してください。
- 設計しているサーバで予約されているユーザ名は作成できません。

10. 「次へ」をクリックします。

「共有資源の設定」ダイアログが表示されます。設計しているサーバで予約されている共有名が表示されます。

11. ユーザ、グループ等で共有して利用するフォルダ名を登録します。

「追加」または「変更」をクリックすると、「共有資源の追加/変更」ダイアログが表示されますので、必要な項目を設定します。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

Note

8.3 形式 (xxxxxxxx.xxx) より長いフォルダ名の場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。

12. 「追加」または「変更」をクリックします。

続けて追加する共有資源を設定できます。

すべての共有資源を設定後、「キャンセル」をクリックすると共有資源情報が登録され、「共有資源の設定」ダイアログに戻ります。

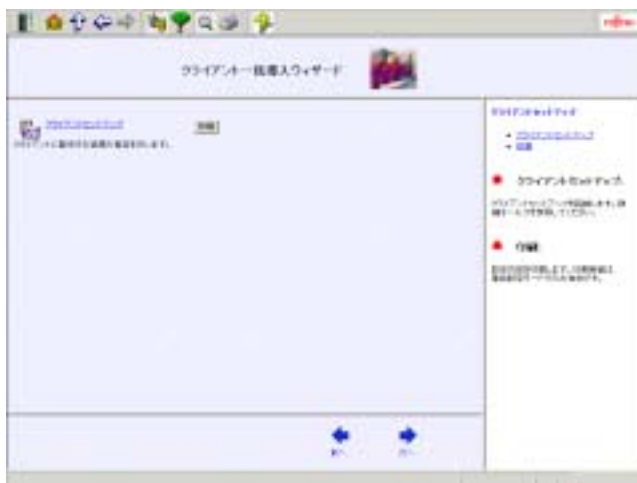
13. 「完了」をクリックします。

「クライアントシステム設計」ダイアログが表示されます。

続いて関連付けの操作を行います。関連付けの操作については、第3章の「6.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け」(P.112)を参照してください。

3 「次へ」をクリックします。

「クライアントセットアップ」アイコンが表示されます。



4 「クライアントセットアップ」をクリックします。

クライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、およびクライアントで実行するコマンドを指定します。設定項目の詳細については、ヘルプを参照するか、第3章の「4 クライアントセットアップ」(P.85)を参照してください。

5 [次へ] をクリックします。

「デスクトップ設計」アイコンが表示されます。

**6 「デスクトップ設計」をクリックします。**

サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。

設定項目の詳細については、ヘルプを参照するか、第3章の「7 クライアントのデスクトップ環境を設定する」(P.116)を参照してください。

7 [ウィザード終了] をクリックします。

ガイドモード／事前設定モード画面に戻ります。

3.10 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する

コンフィグレーションファイルを保存します。

1 **「コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する」をクリックします。**

「ServerStart コンフィグレーションファイルの保存」画面が表示されます。



2 **「保存」をクリックします。**

コンフィグレーションファイルが保存されます。



Note

コンフィグレーションファイルの名前は任意に指定できますが、OS インストールが可能な名前は SerStartBatch.ini のみです。OS インストールを行う場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに SerStartBatch.ini という名前で保存してください。

3.11 インストールの開始

OS をインストールします。

1 **「インストールの開始」をクリックします。**

インストールの進行状況が表示されます。検出されたデバイスが表示された後、インストールする OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

2 **インストールする OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。**

ライセンス契約の同意画面が表示されます。

Note

- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。再び ServerStart からインストールを行う場合は、最初から操作しなおしてください。
- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はコンフィグレーションファイルには反映されません。
- ・インストールする OS の CD-ROM からのファイルコピー後、CD-ROM およびフロッピーディスクを抜くようメッセージが表示されます。ここで必ず CD-ROM およびフロッピーディスクを取り除き再起動してください。CD-ROM を抜かずに再起動した場合、インストールする OS の CD-ROM からインストーラが起動し、自動インストールが続行されません。

I-2

Point

- サーバアプリケーションのインストールを設定した場合は、インストール中にアプリケーションセットアップ画面が表示されます。



- アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して [OK] をクリックしてください。設定したアプリケーションごとにアプリケーションセットアップ画面が表示されます。それぞれ同様にインストールを行ってください。
- RAID カードをお使いの場合、RAID ユーティリティのインストールが行われます。指示に従ってインストールを行ってください。ただし、インストールの最後で再起動するかどうかメッセージが表示された時は、再起動しないようにしてください。

3 インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。

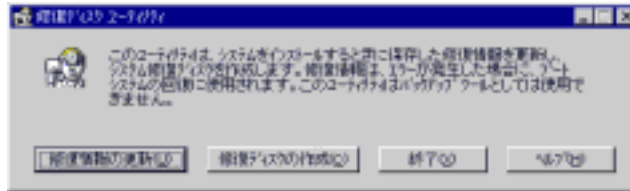
インストール OS に Windows 2000 を選択した場合は、パスワード設定画面が表示されません。手順 5 に進んでください。

管理者用パスワードを入力し、パスワード確認画面にも同じパスワードを入力します。パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。



4 [OK] をクリックします。

「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。[修復ディスクの作成] をクリックし、画面の指示に従って操作してください。修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが1枚必要です。



Point

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。
- システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

5 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

4 エキスパートモード

ウィザードを使用せず、ディスク構成ツールや RAID 構成ツール等を起動してハードウェアの構成を行い、インストールを行う方法です。

4.1 起動

エキスパートモードを起動します。

- 1 **ServerStart の CD-ROM をセットします。**
「ServerStart フロッピーディスクを挿入してください」というメッセージが表示されます。
- 2 **添付の ServerStart フロッピーディスクを挿入して、[OK] をクリックします。**

Point

- 新しいフロッピーディスクを使用する場合は、[作成] をクリックすると、ServerStart フロッピーディスクが作成されます。

メイン画面が表示されます。



- 3 **[OS のインストール] をクリックします。**
「OS のインストール」が表示されます。
- 4 **インストールする OS を選択します。**

5 「エキスパートモード」をクリックします。

エキスパートモードが起動します。



Point

- エキスパートモードには、ハードウェア構成を行う際に、構成ツールの起動の順番を制御することができる「ガイダンス機能」があります。ガイダンス機能が有効になっていると、ディスクの構成が完了していないと OS のインストールを開始できないといった制御ができます。ガイダンス機能の ON/OFF は、ServerStart ナビゲーションバーの [自動ガイド] アイコンをクリックして指定します。
- ガイダンス機能が有効になっている場合、構成ツールを起動できる時は、信号アイコンが青色になります。赤色の場合は、構成ツールを起動できません。

Note

RAID カードが搭載されていない場合は、RAID システム構築メニュー（「Adaptec/DPT RAID システムを構成する」など）は、表示されません。

4.2 システム構成ウィザード

サーバ管理に関する設定を行います。

Note

通常、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。指示がない場合は起動しないでください。

Point

- 各項目の詳細については、画面右に表示されているガイドを参照してください。

4.3 RAID 構成ウィザード

RAID の構築を行います。

Point

- 搭載している RAID カードによってタイトル名が異なります。ここでは、PG-142B カードを搭載した場合を例にとって説明しています。
- 各項目の詳細については、各 RAID 管理ツールのヘルプを参照してください。

Note

- ・ RAID 管理ツール、ヘルプは英語表記となります。
- ・ ガイドモードまたは複製モードでインストールする場合は、RAID 構築が自動的に行われます。

- 1 [Adaptec/DPT RAID システムを構築する] をクリックします。
「Adaptec Storage Manager - SERVERSTART」が表示されます。
- 2 RAID 構成を設定します。
RAID 構成の設定方法は、ヘルプを参照してください。
- 3 [FILE] - [Exit Adaptec Storage Manager] を選択して、[次へ] をクリックします。
「Adaptec Storage Manager - SERVERSTART」が終了し、再起動の確認画面が表示されます。



- 4 [はい] をクリックして再起動します。
再起動後、再度エキスパートモードを実行してください。

4.4 メンテナンス区画の作成

メンテナンス区画作成ツールを起動してメンテナンス区画（Global Flash 区画）を作成します。

Point

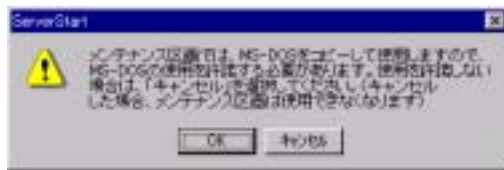
- 詳細については、ヘルプを参照してください。

Note

- ・ 起動ディスクに区画が存在している場合は、ディスクアドミニストレータを使ってすべての区画を削除しておく必要があります。
- ・ メンテナンス区画作成ツール、ヘルプは英語表記となります。

1 [メンテナンス区画を構築する] をクリックします。

MS-DOS の使用許諾メッセージが表示されます。使用を許諾する場合は手順 2 へ進みます。



2 [OK] をクリックします。

「DiskPrepare: Prepare Disk for GlobalFlash」が表示されます。



3 作成先ディスクを選択して、[Prepare] をクリックします。

メンテナンス区画が作成されます。

4 [Close] をクリックします。

エキスパート画面に戻ります。

4.5 ディスクアドミニストレータ

ディスクアドミニストレータを起動して、区画を作成してフォーマットを行います。

 Point

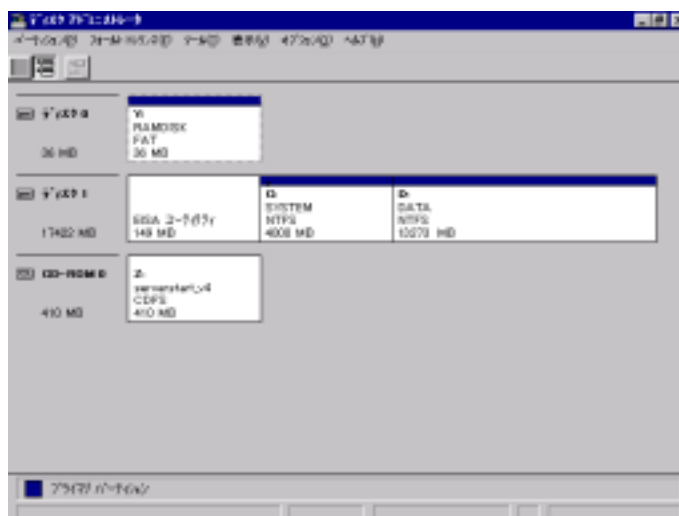
- ディスクアドミニストレータの詳細については、ヘルプファイルを参照してください。

 Note

- アクティブパーティションを、必ず C ドライブに設定してください。
- Windows NT SV 4.0 および Windows NT Server/E 4.0 をインストールする場合は、C ドライブを 4000MB 以下で作成してください。
- RAID 構成ウィザードで RAID 構築を行っても、ディスクアドミニストレータを起動した時に、以前の区画情報が残っている場合があります。この場合、ディスクの全ての区画を削除し、新しく区画を作成し直してください。
- すでに Windows 2000 SV を NTFS 区画にインストールしている環境に、Windows NT SV 4.0 および Windows NT Server/E 4.0 をインストールできません。区画をすべて削除してから、インストールしてください。

1 [ディスクアドミニストレータを使用する] をクリックします。

ディスクアドミニストレータが起動します。



2 ご利用になる区画を作成し、フォーマットします。

3 [パーティション] - [終了] をクリックします。

ディスクアドミニストレータを終了し、エキスパート画面に戻ります。

4.6 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコル等の設定を行います。作成済みのコンフィグレーションファイルから設定項目を反映する場合は、次の画面で [はい] をクリックしてください。



OS インストールウィザードの詳細については、「3.6 OS インストールウィザード」(P.32)を参照してください。

4.7 アプリケーションウィザード

インストールするアプリケーションを選択します。

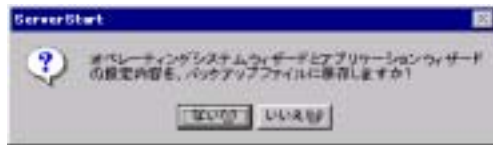
アプリケーションウィザードの詳細については、「3.7 アプリケーションウィザード」(P.36)を参照してください。

4.8 インストールの開始

OS をインストールします。

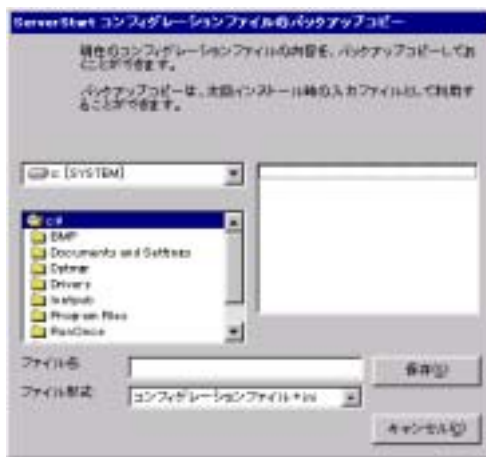
1 「インストールの開始」をクリックします。

現在の設定を保存するか、確認画面が表示されます。



2 「はい」をクリックします。

「コンフィグレーションファイルのバックアップコピー」が表示されます。



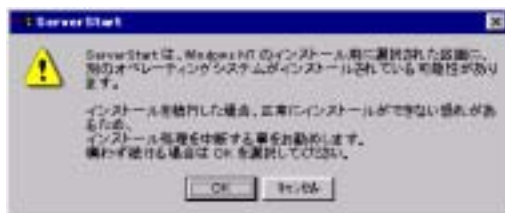
3 ファイル名を入力して、「保存」をクリックします。

しばらくすると、検出されたデバイスが表示され、インストールする OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。



Note

インストール用の区画が空き区画でない場合に、次の確認メッセージが表示されます。
問題がない場合は、[OK] をクリックしてインストールを続行してください。



4 インストールする OS の CD-ROM をセットし、「OK」をクリックします。

ライセンス契約の同意画面が表示されます。

Note

- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。再び ServerStart からインストールを行う場合は、最初から操作しなおしてください。
- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はコンフィグレーションファイルには反映されません。

5 インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。

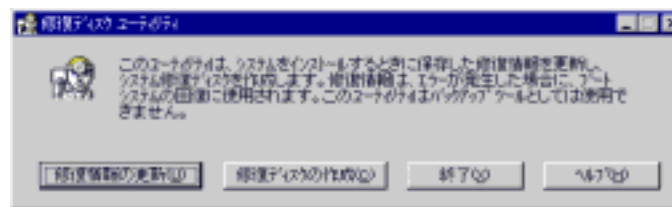
インストール OS に Windows 2000 を選択した場合は、パスワード設定画面が表示されません。手順 7 に進んでください。

管理者用パスワードを入力し、パスワード確認画面にも同じパスワードを入力します。パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。



6 [OK] をクリックします。

「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。[修復ディスクの作成] をクリックし、画面の指示に従って操作してください。修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが 1 枚必要です。



Point

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。
- システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

7 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

5 OS インストールタイプの開封

OS インストールタイプの開封には、次の2つの方法があります。

- **複製モードで開封する**

あらかじめ事前設定モードで各種設定を行い、コンフィグレーションファイルを作成しておきます。

- **プレインストールモードで開封する**

インストールするサーバで ServerStart を起動します。

5.1 複製モードで開封する

事前設定モードを起動し、コンフィグレーションファイルを作成します。

その後、作成したコンフィグレーションファイルを使用して、複製モードで開封します。

Point

- 事前設定モードの起動について、詳細は「3.1 起動」の「■ 事前設定モードの起動」(P.25)をご覧ください。

- 1 ServerStart の CD-ROM をセットします。**

メイン画面が表示されます。

- 2 [OS のインストール - 事前設定モード] をクリックします。**

オペレーティングシステムのインストール」が表示されます。

[Microsoft Windows Operating Systems のインストール - 事前設定モード] をクリックします。

「Microsoft Windows Operating System のインストール」が表示されます。

- 3 開封するインストールタイプを選択します。**

Windows NT 4.0 の場合→ [Microsoft Windows NT 4.0 プレインストールタイプ - 事前設定モード]

Windows 2000 の場合→ [Microsoft Windows 2000 プレインストールタイプ - 事前設定モード]

事前設定モードが起動します。

(Windows NT 4.0 の場合)



I-2

4 コンフィグレーションファイルを作成します。

▶ 作成方法⇒「3.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する」(P.29) 参照

5 各ウィザードに従って、設定を行います。

▶ 設定方法⇒「3.6 OS インストールウィザード」(P.32) 参照

「3.7 アプリケーションウィザード」(P.36) 参照

「3.8 サーバアプリケーションセットアップウィザード」(P.37) 参照

「3.9 クライアント一括導入ウィザード」(P.39) 参照

6 コンフィグレーションファイルを保存します。

▶ 保存方法⇒「3.10 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する」(P.46) 参照

7 複製モードで OS インストールタイプを開封します。

作成したコンフィグレーションファイルを使用し複製モードでインストールを行います。

▶ 複製モードについて⇒「2 複製モード」(P.23) 参照

5.2 プレインストールモードで開封する

プレインストールモードを起動して開封します。

1 ServerStart の CD-ROM をサーバにセットします。

「ServerStart フロッピーディスクを挿入してください」のメッセージが表示されます。

- 2 添付の ServerStart フロッピーディスクを挿入して、[OK] をクリックします。
プレインストールタイプ確認画面が表示されます。

Windows 2000 の場合



Windows NT 4.0 の場合



Point

- 新しいフロッピーディスクを使用する場合は、[作成] をクリックします。ServerStart フロッピーディスクが作成されます。
- 3 [OK] をクリックします。
メイン画面が表示されます。
- 4 [インストールタイプの設定] をクリックします。
Windows NT 4.0 の場合→ [Microsoft Windows NT 4.0 プレインストールタイプの設定]
Windows 2000 の場合→ [Microsoft Windows 2000 プレインストールタイプの設定]
プレインストールモードが起動します。
(Windows NT 4.0 の場合)



- 5 (OS) インストールウィザード、アプリケーションウィザードを起動し、ウィザードに従って OS インストールタイプの開封情報を入力します。
 ▶ 設定方法⇒ 「3.6 OS インストールウィザード」 (P.32) 参照
 「3.7 アプリケーションウィザード」 (P.36) 参照
- 6 「(OS) のインストールを開始する」 をクリックします。
ライセンス契約の同意画面が表示されます。

Note

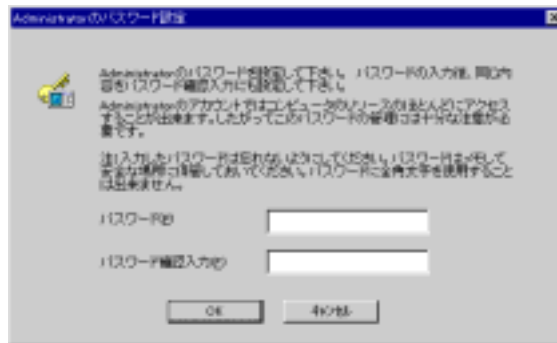
- ・ライセンス契約に同意しない場合は【ESC】キーを押します。処理が終了し、インストールは行われません。インストールを行う場合は、再度最初から操作しなおしてください。
- ・設定情報によって、途中アプリケーションの CD-ROM を挿入する旨のメッセージが表示されます。指示に従って、CD-ROM をセットして【OK】をクリックしてください。
- ・CD-ROM およびフロッピーディスクを抜くようメッセージが表示されます。必ず CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出して再起動してください。
- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラーが表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。

I-2

7 パスワード設定画面が表示されます。

開封する OS が Windows 2000 の場合は、パスワード設定画面が表示されません、手順 9 に進んでください。

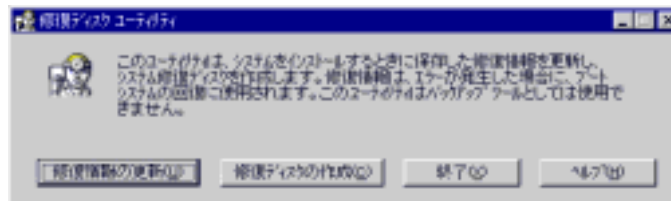
管理者用パスワードを入力し、パスワード確認画面にも同じパスワードを入力します。パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは省略できません。必ず設定してください。



8 【OK】をクリックします。

修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。[修復ディスクの作成] をクリックします。

画面の指示に従って操作してください。修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが 1 枚必要です。



Point

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合、修復ディスク上に保存した情報により再構築できます。システムの修復方法については、添付の「Windows NT Server コンセプトプランニング ガイド」等の説明書を参照してください。

修復ディスクの作成が終了すると、Internet Explorer のインストールが開始されます。

9 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。

これで OS インストールタイプの開封は終了です。

第 3 章

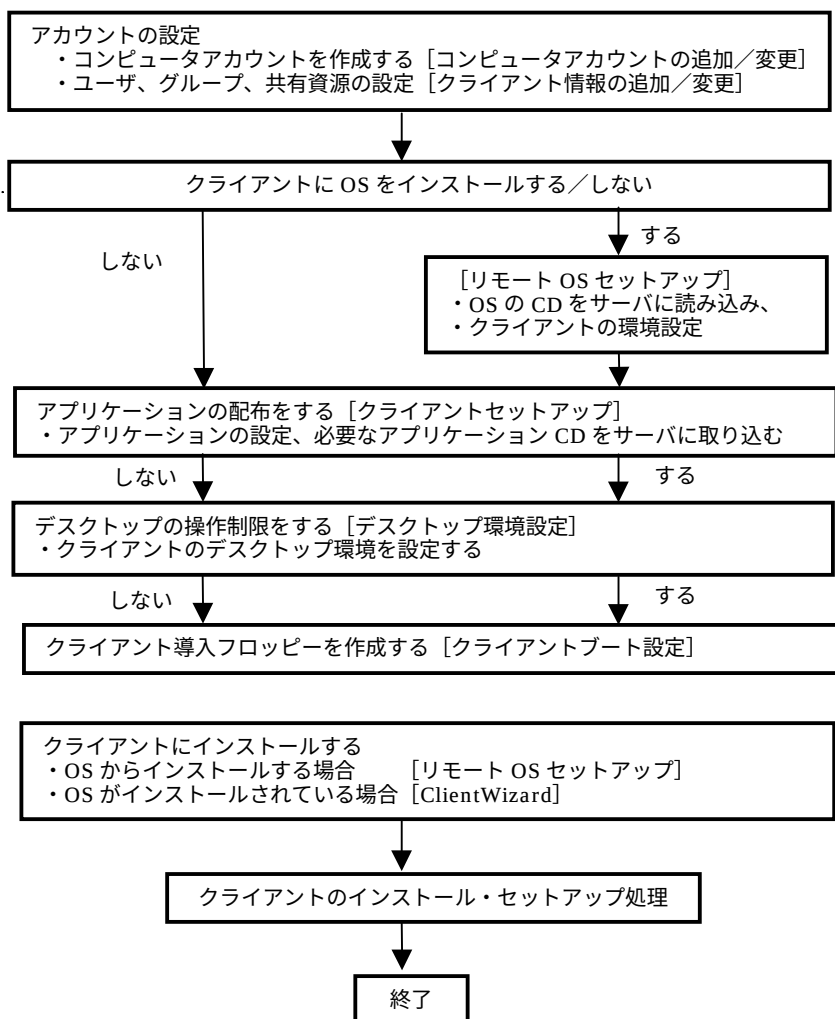
WizardConsole

サーバのインストールが終了したら、ネットワークアカウントの設定やクライアントのインストールを行います。これらは WizardConsole から実行します。

1	WizardConsole の各機能と操作の流れ	62
2	クライアントコンピュータの追加／変更	67
3	リモート OS セットアップ	73
4	クライアントセットアップ	85
5	クライアントブート設定	98
6	ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更	106
7	クライアントのデスクトップ環境を 設定する	116
8	クライアントへのインストール	125

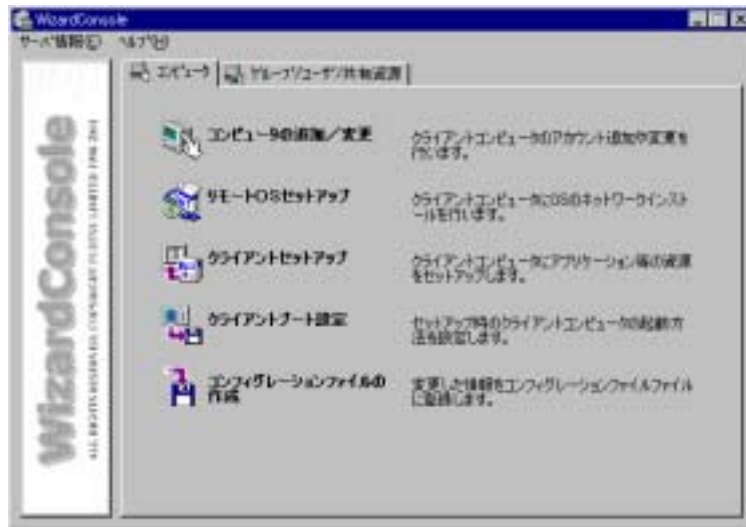
1 WizardConsole の各機能と操作の流れ

1.1 クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ



1.2 WizardConsole の起動

- 1 [スタート] をクリックし、[ServerStart] – [WizardConsole] を選択します。
WizardConsole が起動します。



I-3

■ WizardConsole の各機能

● [コンピュータ] タブ



コンピュータの追加 / 変更

ネットワーク環境を構築するためのコンピュータアカウントを登録します。
OS 種別が同じクライアントコンピュータを、一括して大量に登録することもできます。



リモート OS セットアップ

OS をインストールしていないクライアントコンピュータに、OS のインストールを行う機能です。OS のインストールだけでなく、セットアップ、アプリケーションのインストールまでを行うことができます。



クライアントセットアップ

クライアントに同一アプリケーションや、同一ファイルのインストールを行うための設定です。ここで設定したアプリケーションなどは、クライアントがログインすると自動的にインストールされます。それぞれのクライアントへインストールする作業が軽減できます。



クライアントブート設定

クライアントをセットアップするときに使用するクライアント起動用フロッピーを作成します。



コンフィグレーションファイルの作成

WizardConsole で追加、変更した設定情報を、フロッピーディスクまたはハードディスクに保存します。

● [グループ/ユーザ/共有資源] タブ



クライアント情報の追加/変更

ユーザの追加、グループの追加、共有資源の設定など、ネットワークに必要なアカウントを作成したり、変更する機能です。設定したアカウントは一覧で表示され、関連付けも簡単です。



デスクトップ環境設定

クライアントのデスクトップの表示状態を設定できます。たとえば、業務に必要な機能のみを表示させたり、スタートメニューなどを設定することができます。

1.3 各 OS 環境における利用可能な機能

● 各機能と使用可能な OS 種

クライアントの個別セットアップには、リモート OS セットアップ、クライアントセットアップ、デスクトップ環境設定機能がありますが、ご使用になる OS とネットワーク環境によっては使用できない機能があります。各機能における使用可能 OS とネットワークの関係は以下のとおりです。

OS	ネットワークタイプ	WizardConsole の機能		
		リモート OS セットアップ	クライアント セットアップ	デスクトップ 環境設定
Windows NT SV 4.0	プライマリドメイン コントローラ	×	×	×
	バックアップドメイン コントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	○
Windows 2000 SV	ドメインコントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	○
Windows NT WS 4.0	ドメインメンバ	○	○	○
Windows 2000 Pro	ドメインメンバ	○	○	○
Windows XP Pro	ドメインメンバ	×	○	○
Windows 98	ドメインメンバ	×	○	○
Windows 95	ドメインメンバ	×	○	○
Windows Me	ドメインメンバ	×	○	×

1.4 WizardConsole を利用するための準備

■ クライアント側の準備

● ハードウェアのセットアップ

本体ハードウェアマニュアルをよく読み、コンピュータを正しく組立ててください。

LAN カードを装着し、サーバと接続できる状態にしておきます。

接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。

クライアントコンピュータに複数の LAN カードが装着されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。LAN カードの装着は 1 つのみにしてください。

● ソフトウェアの準備

MS-DOS

リモート OS セットアップを使用する場合には、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要になります。MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクは、以下の方法により作成してください。

ー FD バックアップコマンドを使用する

クライアントコンピュータに付属しているドライバーズ CD から FD バックアップコマンドを使用して作成が可能です。

FD バックアップコマンドの使用方法に関しては、クライアントコンピュータに付属のマニュアルを参照してください。

ー Windows 95 / 98 から作成する

- ・ドライブに初期化可能なフロッピーディスクを装着します。
- ・マイコンピュータから A: ドライブを選択します。
- ・右クリックし、フォーマットを選択します。
- ・フォーマットの種類に「起動専用 (C)」を選択し、[開始 (S)] をクリックします。

使用可能な MS-DOS のバージョンは、以下の通りです。

- ・MS-DOS V6.2
- ・MS-DOS V7.0 (Windows 95)
- ・MS-DOS V7.1 (Windows 98)

Note

どの方法による作成でも、必ず使用するクライアント台数分のライセンスは必要となります。ご契約の内容を確認して作成してください。

MS-DOS® LAN マネージャ

以下の MS-DOS® LAN マネージャのファイルが必要です。

Protman.dos / Protman.exe / Netbind.com

次の方法で入手してください。

- ・Windows NT SV 4.0 の CD-ROM
 \CLIENTS\MSCLIENT\NETSETUP
- ・Microsoft の Web サイトからダウンロードする。
 <ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient/disk3-1.exe>

Note

Web サイトからダウンロードした場合は、ファイルが圧縮されています。次の手順でファイルを展開してください。

- 1) disk3-1.exe を実行します。
- 2) Expand コマンドでファイルを展開します。
 例) c:\temp に disk3-1.exe を展開した場合
 Expand c:\temp\protman.do_ /r [Enter]

■ ネットワーク環境の設定

WizardConsole をご使用いただくには、以下のネットワーク設定が必要です。

● TCP/IP プロトコルの設定

WizardConsole をインストールするコンピュータには、TCP/IP プロトコルが必要です。

あらかじめ TCP/IP プロトコルのインストールおよび設定を行ってください。

また、WizardConsole をインストールしたコンピュータには、固定された IP アドレスを用いるようにしてください。詳しい IP アドレスの設定方法は各 OS のマニュアルをご覧ください。

● 複数セグメントを含んだネットワークでの留意点

ルータと複数のセグメントを含んだ TCP/IP ネットワークで、WizardConsole をご利用になる場合、以下の注意が必要です。

コンピュータの追加／変更

コンピュータの追加／変更で、クライアントコンピュータの設定を行う際、各セグメントに所属するクライアントコンピュータごとに、適切なデフォルトゲートウェイを指定してください。デフォルトゲートウェイを指定しない場合、クライアントセットアップが正常に利用できなくなります。

例) セグメント 1 のゲートウェイアドレスが 192.168.1.1、セグメント 2 のゲートウェイアドレスが 192.168.2.1 の場合

セグメント 1 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.1.1 に、セグメント 2 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.2.1 を指定する必要があります。

クライアントセットアップ

ドメインコントローラが存在しないセグメントに含まれるクライアントコンピュータがドメインに参加するためには、WINS を使用するか、LMHOSTS ファイルにドメインコントローラの IP アドレスを記述してください。

WINS または、LMHOSTS の設定方法は、ネットワーク管理者にご相談ください。

● クライアントコンピュータの設定

インストールモデルなどで、すでに OS がインストール済みのコンピュータに対してクライアントセットアップを行う場合、あらかじめ「TCP/IP プロトコル」、「Microsoft ネットワーククライアントサービス」（Windows95/98/Me の場合）を設定しておく必要があります。各 OS のマニュアルを参照の上、インストールおよび設定を行ってください。

2 クライアントコンピュータの追加／変更

WizardConsole で管理するクライアントコンピュータを登録します。

登録済みのコンピュータ情報を変更する場合、または個別の情報を持つクライアントコンピュータを追加する場合は、「2.1 コンピュータの変更、追加」を行ってください。

WizardConsole をインストールする前に、すでにコンピュータを登録している場合は、「2.2 コンピュータ情報の取得」を行ってください。

OS 種別が同じクライアントコンピュータを大量に一括登録する場合は、「2.3 コンピュータの一括導入」を行ってください。

1 WizardConsole 画面で [コンピュータ] タブを選択し、[コンピュータの追加／変更] をクリックします。

クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更画面が表示されます。



Note

背景が黄色で表示されているアカウントはすでに登録済みであることを表します。登録済みのアカウントを変更する場合は [変更] をクリックし、表示されたダイアログで修正を行ってください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。

● クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更 画面のツールバー



Point

- ツールバーの [変更] は、最終行 (空行) をクリックすると [追加] に変わり、コンピュータを追加できます。

● クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更 画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
IP アドレス	設定されている IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	設定されているサブネットマスクが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	設定されているデフォルトゲートウェイが表示されます。

● クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更 画面のメニュー

項目	説明
[ファイル] メニュー	
コンピュータの取込み	コンピュータ情報を取り込みます。
CSV ファイル	あらかじめ複数のコンピュータの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておき、まとめてコンピュータを登録できます。 CSV ファイルの記述方法については、「付録 D CSV ファイルフォーマットについて」(P.206)を参照してください。
コンピュータ情報の取得	ネットワーク上でドメインメンバとして動作中のコンピュータ情報を取得することができます。ツールバーまたはメニューの [適用] ボタンが有効な場合は選択できません。
CSV ファイル出力	登録されているコンピュータ情報を CSV 形式のファイルに書き出します。
導入ウィザード	同じ OS 種別のコンピュータを大量に一括して登録します。
アプリケーションの終了	クライアントシステム設計を終了します。
[編集] メニュー	
切り取り	選択したコンピュータ情報を切り取り、クリップボードに保存します。
コピー	選択したコンピュータ情報を、クリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードに保存された内容を、貼り付けます。
削除	削除するコンピュータを選択し、登録済みのコンピュータを削除します。
適用	入力した情報を登録します。

 Note

- Windows NT の [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] の [サーバマネージャ]、または Windows 2000 の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [管理ツール] - [Active Directory ユーザとコンピュータ] を使用してコンピュータを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。
- クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールするには、クライアントセットアップ画面から次の操作を行ってください。
- セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、セットアップ資源の取り込み画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
- セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、「登録済みセットアップ一覧」からセットアップ資源を選択して、「クライアント一覧」の追加したクライアントを選択状態にしてください。

2.1 コンピュータの変更、追加

登録済みのコンピュータの情報を変更したり、新規にコンピュータを追加します。

- 1 変更するコンピュータの欄をクリックし、[変更] をクリックします。
新規にコンピュータを追加する場合は、最終行（空行）をクリックして [追加] をクリックします。

コンピュータは 2048 件まで登録できます。

コンピュータの変更画面が表示されます（追加時も同様の画面が表示されます）。

[再作成] ボタンは、変更画面で OS に Windows NT WS 4.0、Windows NT SV 4.0 (BDC)、または Windows 2000 Pro、Windows XP Pro を指定した場合には表示されます。

- 2 コンピュータの情報を設定します。

項目	説明
コンピュータ名	クライアントのコンピュータ名を入力してください。 15 文字以内（半角の場合）。 " / , ￥ = + < > ; * ? [:] の 15 種類の文字は使用できません。ネットワーク上に存在するコンピュータ名は使用できません。
OS	クライアントのコンピュータで使用する OS を選択します。バックアップドメインコントローラ（以下、BDC と記述します）を追加することもできます。BDC を追加するには「Windows NT 4.0 SV (BDC)」を選択してください。なお、BDC のセットアップは、サーバへのインストール方法と同じです。クライアント起動用フロッピーを作成して BDC をセットアップすることはできません。 注意: Windows 2000 Active Directory の Windows NT メンバからコンピュータの追加を行う場合は、OS に BDC を選択できません。
DHCP サーバから IP アドレスを取得する	DHCP サーバから IP アドレスを取得する場合はクリックします。
次の IP アドレスを使う	IP アドレスを個別に設定する場合はクリックし、以下の項目を設定します。
IP アドレス	クライアントコンピュータの IP アドレスを設定します。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します。

項目	説明
[再作成] ボタン	Windows NT WS 4.0、Windows NT SV 4.0 (BDC)、Windows 2000 Pro、Windows XP Pro を使用しているクライアントコンピュータで OS の再インストールを行った場合に、アカウントを再登録します。アカウントの削除、追加の操作は必要ありません。 ドメイン参加中に、[再作成] を選択してしまうと、そのドメインにログオンできなくなります。ログオンするには、いったんワークグループに移動し、あらためてドメインに参加してください。

3 [OK] をクリックします。

コンピュータ情報が変更、または追加されます。

2.2 コンピュータ情報の取得

WizardConsole をインストールする前にクライアントコンピュータを登録している場合、登録されているクライアントコンピュータの情報を、WizardConsole に取り込みます。

1 [ファイル] メニューから [コンピュータの取込み] - [コンピュータ情報の取得] を選択します。

コンピュータ一覧画面が表示されます。



すでにクライアントシステム設計に登録されているコンピュータはグレー表示されます。

2 登録するコンピュータを選択します。

すべてのコンピュータを登録する場合は [全て選択] をクリックします。

3 [登録] をクリックします。

選択したコンピュータの情報が取り込まれ、一覧に追加されます。

Note

- ・[コンピュータ情報の取得] で取り込まれた場合、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイは起動しているマシンから取得されます。必要に応じて値を変更してください。
 - ・DHCP 起動のコンピュータの場合、割り当てられた IP アドレスが表示されますので、登録後、IP アドレスを DHCP に変更してください。
 - ・IP アドレスが「不明」と表示される場合は、以下の問題が考えられます。
 - 1) 取得されたコンピュータに TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
 - 2) DNS に登録されているホスト名と実際のコンピュータ名が異なっている。
- 1) の場合、このコンピュータを選択しないか、TCP/IP プロトコルをインストールしてください。2) の場合、正しい値に変更してください。

2.3 コンピュータの一括導入

OS 種別が同じクライアントの場合は、一括で大量のクライアントコンピュータを登録できます。一括導入は、ウィザードに従って設定を行います。

コンピュータ名、IP アドレスは任意の文字列に連番で取得されます。導入後、必要に応じて変更してください。

Note

[一括導入ウィザードでコンピュータを作成する場合、次の制限があります。]
 IP アドレス設定を選択した場合は、開始アドレス $xx.xx.xx.nn$ の $255 - (nn - 1)$ 台まで（例：開始アドレスが $10.10.1.11$ の場合、 $255 - (11 - 1) = 245$ 台まで）作成できます。DHCP アドレスを選択した場合は、最大 2048 台まで作成できます。登録中にクライアント登録数が 2048 台になった時点で作成を終了します。

- 1 [ファイル] メニューから [導入ウィザード] を選択します。
 一括導入ウィザードが表示されます。



ウィザードに従って操作を行ってください。

確認画面で [完了] をクリックすると指定した台数分のクライアントコンピュータが追加されます。この状態ではまだ登録は行われていません（背景が白色）。設定を変更する場合は、必要に応じて設定を変更後 [適用] をクリックしてください。

コンピュータが登録されます（背景が黄色）。

2.4 コンピュータの削除

必要のないコンピュータを、登録から削除します。

- 1 削除するコンピュータを選択します。複数のコンピュータを選択できます。**
- 2 [編集] メニューから [削除] を選択します。**
選択したコンピュータが一覧から削除されます。

3 リモート OS セットアップ

リモート OS セットアップでは、クライアントに OS をインストール、セットアップするための設定を行います。

それぞれインストールする OS の媒体が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。Windows NT WS 4.0 の場合は、クライアントのドライバーズ CD もあわせてご用意ください。

Point

● リモート OS セットアップでインストールできる機種

Windows NT WS 4.0 の場合

以下の 3 つの条件を満たす FMV シリーズで利用できます。これらの条件を満たす機種の名称が「機種名」に一覧表示されます。

- Windows NT WS 4.0 のインストールタイプモデル
- ドライバーズ CD / リカバリ CD が添付されている
- MS-DOS 上で動作する NDIS の LAN ドライバが添付されている

また、99 年冬モデル以降（99 年 10 月以降に出荷されたモデル）の機種名は [CD 読込] ボタンを押した後、ドライバーズ CD を入れる则表示されます。

Windows 2000 Pro の場合

Windows 2000 Pro に対応する機種で利用できます。対応機種について、詳しくは弊社ホームページ "FM WORLD (<http://www.fmworld.net>)" をご覧ください。

I-3

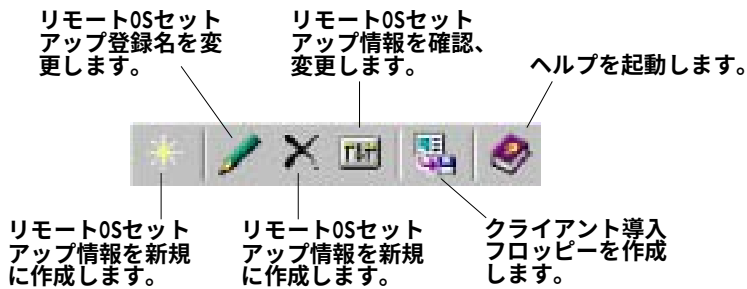
3.1 リモート OS セットアップを起動する

1 WizardConsole 画面で [コンピュータ] タブを選択し、[リモート OS セットアップ] をクリックします。

「リモート OS セットアップ」ウィンドウが表示されます。



● リモート OS セットアップ画面のツールバー



● リモート OS セットアップ画面の説明

項目	説明
OS セットアップ登録一覧	登録したクライアントへの OS セットアップ情報の一覧が表示されます。最大、64 個まで登録できます。
登録名	入力したセットアップ情報の登録名が表示されます。
OS	セットアップする OS の種別が表示されます。
説明	セットアップ情報の説明が表示されます。

● リモート OS セットアップ画面のメニュー

項目	説明
[セットアップ情報の設定] メニュー	
新規作成	クライアントへの OS セットアップ情報を新規に作成します。
登録名の変更	クライアントへの OS セットアップ情報の登録名、説明を変更します。
削除	クライアントへの OS セットアップ情報を削除します。
プロパティ	セットアップ情報の内容を確認、変更します。
CD イメージの登録／削除	リモート OS セットアップで利用する OS の CD イメージを削除、または再登録します。
クライアントブート設定起動	クライアントブート設定を起動します。 ▶ 「5.2 OS セットアップ用」(P.100) 参照
終了	リモート OS セットアップが終了します。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り換えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
リモート OS セットアップのバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

● Point

- 「登録名の変更」、「削除」、「プロパティ」「クライアントブート設定起動」はリモート OS セットアップウィンドウで「登録名」を選択した時のポップアップメニューからも操作できます。

3.2 OS セットアップ情報を設定する (Windows 2000 Pro の場合)

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。

「新規登録ーリモート OS セットアップ」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

Point

- 「登録名」は半角 15 文字以内で、「説明」は、半角 128 文字 (全角 64 文字) 以内で入力してください。

2 登録名、説明などを入力して「OK」をクリックします。

Windows 2000 Pro の CD を挿入するメッセージが表示されます。

ただし、すでに Windows 2000 Pro の CD がコピーされている場合は表示されません。
「ハードディスクの設定」ダイアログが表示されますので、手順 4 へ進んでください。

3 Windows 2000 Pro の CD-ROM をセットして、「OK」をクリックします。

ファイルのコピーが開始されます。

「ハードディスクの設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

Point

- Windows 2000 Pro のインストールには、1GB の容量が必要ですが、リモート OS セットアップの場合は、ワークエリアが必要になりますので最低 2GB が必要です。

4 OS をインストールする区画を設定して [次へ] をクリックします。

「ユーザ情報の設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

5 ユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。

「メンバシップの設定」ダイアログが表示されます。



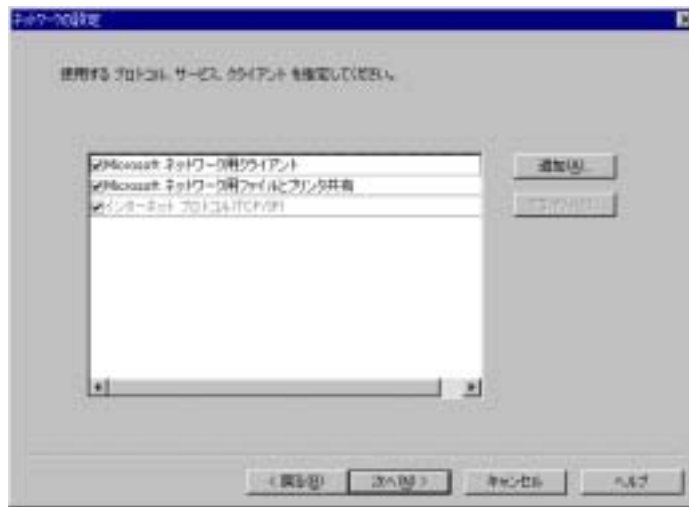
▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

6 ワークグループ、またはドメインを設定してユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。

Point

- ドメインに参加する場合は、コンピュータをドメインに参加させる権限のあるアカウントの名前とパスワードが必要です。パスワードは暗号化して保存されます。

「ネットワークの設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

7 ネットワークの設定を行います。

[追加] をクリックすると、「コンポーネントの選択」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

追加したいコンポーネントを選択し [OK] をクリックします。ネットワークの設定ダイアログに戻ります。

8 [次へ] をクリックします。

「サービスの設定」ダイアログが表示されます。[詳細] があるサービスを使用する場合は [詳細] をクリックして、各項目を設定してください。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

9 設定するサービスを選択して [次へ] をクリックします。

「ドライバの追加」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

10 Plug&Play に対応した機器のドライバをインストールする場合は、追加するドライバを選択し [追加] をクリックします。

11 設定が完了したら [完了] をクリックします。

OS セットアップ情報が設定され、リモート OS セットアップウィンドウに戻ります。

続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

- ▶ 設定方法⇒「4.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する」(P.89) 参照
- 「4.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する」(P.92) 参照
- 「4.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する」(P.93) 参照

3.3 OS セットアップ情報を設定する (Windows NT WS 4.0 の場合)

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。

「新規登録ーリモート OS セットアップ」ダイアログが表示されます。



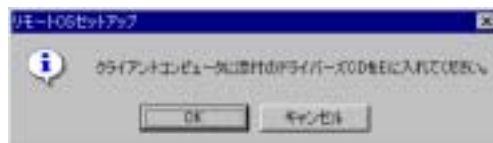
▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

Point

- 「登録名」は半角 15 文字以内で、「説明」は、半角 128 文字 (全角 64 文字) 以内で入力してください。

2 各項目を設定して「OK」をクリックします。

ドライバース CD の挿入を促すメッセージが表示されます。



3 ドライバース CD をセットして、「OK」をクリックします。

サーバにドライバース CD の情報がコピーされます。コピーが終了すると Windows NT WS 4.0 の CD の挿入を促すメッセージが表示されます。

ただし、すでに Windows NT WS 4.0 の CD がコピーされている場合は表示されません。「ユーザ情報の設定」ダイアログが表示されますので、手順 5 へ進んでください。

4 Windows NT WS 4.0 の CD-ROM をセットして、「OK」をクリックします。

ファイルのコピーが開始されます。

終了すると「ユーザ情報の設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

5 ユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。

「ネットワークの設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

6 プロトコルを指定します。

[詳細] をクリックすると、「ネットワークの詳細」ダイアログが表示されますので、必要な項目を設定します。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

[OK] をクリックすると設定が有効になり、「ネットワークの設定」ダイアログへ戻ります。

7 [次へ] をクリックします。

「サービスの設定」ダイアログが表示されます。[詳細] があるサービスを使用する場合は [詳細] をクリックして、各項目を設定してください。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

8 設定するサービスを選択して [完了] をクリックします。

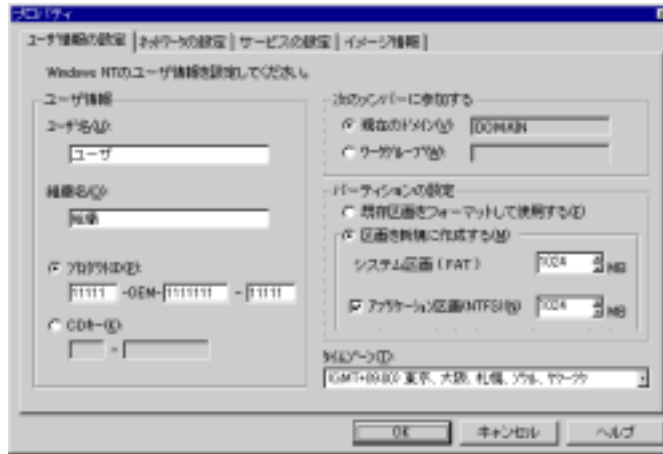
OS セットアップ情報が設定され、リモート OS セットアップウィンドウに戻ります。続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

▶ 設定方法⇒「4.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する」(P.89) 参照
 「4.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する」(P.92) 参照
 「4.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する」(P.93) 参照

3.4 OS セットアップ情報の登録名を変更する

OS セットアップ情報の登録名と説明を変更します。

Windows NT WS 4.0 の場合



⇒ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

Point

- 削除する場合は、[セットアップ情報の設定] メニューから [削除] を選択します。
削除を確認するメッセージが表示されますので [はい] をクリックします。
OS セットアップ情報が削除されます。

3 各設定のタブを選択し、内容を確認して必要に応じて内容を変更してください。

4 [OK] をクリックします。

3.6 CD イメージを削除する

リモート OS セットアップで利用する Windows NT WS 4.0 / Windows 2000 Pro の CD イメージが不要になった場合、CD イメージを削除して、サーバのハードディスクの空き容量を増やすことができます。

- 1 [セットアップ情報の設定] から [CD イメージ登録／削除] を選択します。
「CD イメージ登録／削除」ダイアログが表示されます。



2 削除する CD イメージの【削除】をクリックします。

ファイルの削除が開始されます。

Point

- 再登録する場合は、再登録する CD イメージの【読み込み】をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。

4 クライアントセットアップ

「クライアントセットアップ」は、クライアント側にインストールするアプリケーション、コピーするファイル、およびクライアント側で実行するコマンドを指定する機能です。クライアントセットアップで指定した内容は、ClientWizard でクライアントをセットアップする際に利用されます。

■ セットアップする内容

● アプリケーション

アプリケーションソフト（複数のファイルで構成され、setup コマンドなどのインストーラが使われるもの）をクライアント側にインストールするように指定します。インストールが自動化されておらず、インストール時に設定操作が必要なアプリケーションソフトを指定するには、事前に Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成しておく必要があります。標準的なアプリケーションについては、本製品にスクリプトが用意されています。

▶ 付録 C 「C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」(P.202) 参照

● ファイル

クライアント側にコピーするファイルを指定します。ディレクトリを指定すると複数のファイルを一度にコピーするように指定できます。

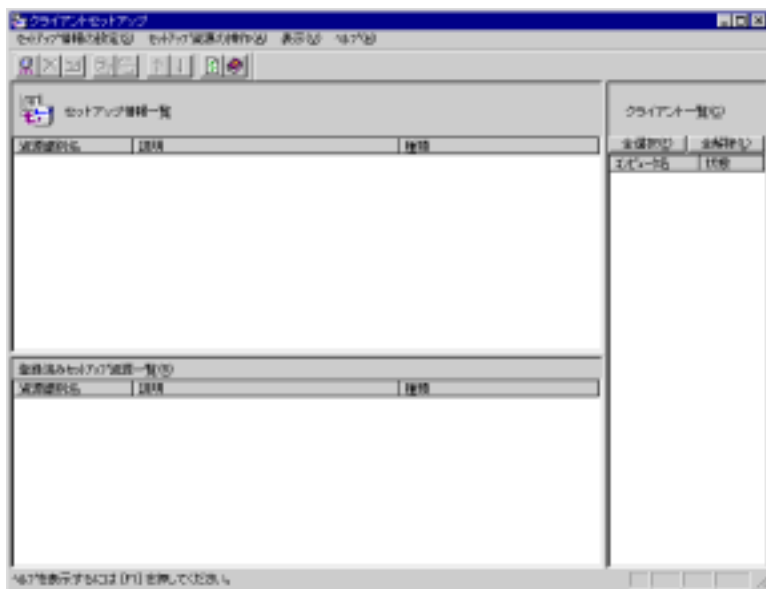
● 実行コマンド

クライアント側で最初のログオン時に実行するコマンドを指定します。ファイルのコピーは行われず、コマンドの実行のみが行われます。例えば、インストールしたアプリケーションソフトの環境設定を自動化するバッチファイルなどを指定できます。

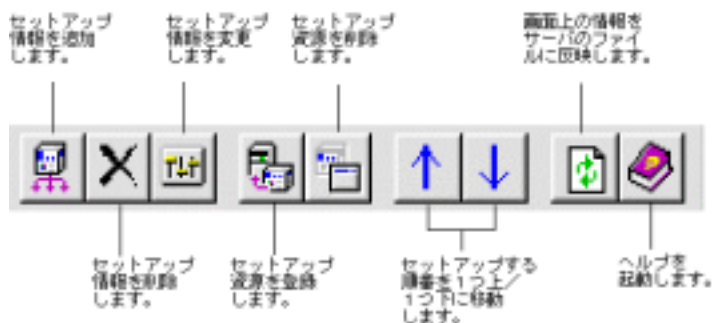
4.1 クライアントセットアップを起動する

- 1 WizardConsole 画面で [コンピュータ] タブを選択し、[クライアントセットアップ] をクリックします。

クライアントセットアップウィンドウが表示されます。



● クライアントセットアップ画面のツールバー



● クライアントセットアップ画面の説明

項目	説明
セットアップ情報一覧	セットアップ情報が設定されている資源の一覧が表示されます。登録済み資源とあわせて、64 個まで追加できます。複数選択はできません。
資源識別名	セットアップ情報が設定されている資源識別名が表示されます。資源識別名とは、セットアップ資源を識別するためにユーザが指定する名前です。標準対応製品については、スクリプトが用意されており、資源識別名の先頭に@が付いています。
説明	セットアップ情報が設定されている資源の説明が表示されます。
種類	セットアップ情報が設定されている資源の種類が表示されます。 資源の種類には以下の 3 種類あります。 －アプリケーション －ファイル －実行コマンド
登録済みセットアップ資源一覧	登録済みのセットアップ資源の一覧が表示されます。登録済み資源とは、クライアントにセットアップする資源をサーバ上のディスクに登録した資源です。表示される情報は「セットアップ情報一覧」と同じです。クライアントへのインストールは、この一覧の順に行われます。 「セットアップ情報一覧」からセットアップ情報を選択し、資源の登録を行うと、資源がサーバのディスクに登録され、「セットアップ情報一覧」に表示されていた情報が「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。複数選択はできません。
クライアント一覧	セットアップ情報一覧または登録済みセットアップ資源一覧で選択している情報（資源）のセットアップ対象のクライアントを選択します。 初期状態は、すべてのクライアントが選択されています。複数のクライアントを選択できます。 なお、バックアップドメインコントローラはセットアップ対象のクライアントとしては表示されません。
全選択	表示されているすべてのクライアントコンピュータを選択状態にします。
全解除	表示されているすべてのクライアントコンピュータを非選択状態にします。
コンピュータ名	WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」で設定したクライアントのコンピュータ名が表示されます。
状態	資源のセットアップ状態が表示されます。以下の状態があります。 完了：セットアップ済みです。 未完了：セットアップしていません。 エラー：セットアップ情報に異常があり、セットアップに失敗しました。 セットアップ情報が正しいか確認してください。

● クライアントセットアップ画面のメニュー

項目	説明
[セットアップ情報の設定] メニュー	
追加	セットアップ情報を追加します。 セットアップ情報は、登録済み資源の情報とあわせて 64 個まで追加できます。64 個を超えて追加しようとすると、メッセージが表示されます。
削除	セットアップ情報一覧で選択されているセットアップ情報を削除します。削除の操作を行うと、セットアップ情報の削除を確認する画面が表示されます。

項目	説明
設定変更	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源の情報を変更します。登録済み資源のセットアップ情報は変更できません。登録済み資源のセットアップ情報を変更したい場合は、セットアップ資源の削除をしてから、セットアップ情報の変更をします。
設定確認	セットアップ情報の設定内容を表示します。
終了	設定した情報を保存し、クライアントセットアップウィンドウを終了します。
[セットアップ資源の操作] メニュー	
資源の登録	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダはWizardConsoleのインストール時に指定したデータフォルダです。 「セットアップ情報一覧」から、セットアップ情報を選択し、[資源の登録]を選択すると、「資源の登録」ダイアログが表示されます。詳細登録したセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。
資源の削除	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択しているセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認が表示されます。 削除されたセットアップ資源は「セットアップ情報一覧」に移動し、「クライアント一覧」の「状態」が「未完了」に戻ります。
資源の全登録	「セットアップ情報一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録されたセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」の最後尾に、そのままの順番で移動します。
資源の全削除	「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認画面が表示されます。
インストール順番上へ／インストール順番下へ	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源のインストール順番を1つ上、または下に移動します。表示順番を上に移動すると、クライアントでのセットアップ順番が早くなります。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り換えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。
最新に更新	画面上の情報をサーバ上のファイルに反映します。サーバでセットアップ情報および登録済み資源を操作している間、クライアントセットアップウィンドウの情報と、クライアントから参照できる情報が一致しないため、クライアントへのインストールは実行できません。クライアントセットアップウィンドウを終了せずに、インストールしたい場合、[表示] メニューから「最新に更新」を選択してからインストールしてください。サーバ上の情報が更新され、クライアントから最新の情報が参照できるようになります。
動作環境設定	選択できません。淡色表示されます。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	クライアントセットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
バージョン情報	クライアントセットアップのバージョン情報が表示されます。

4.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する

クライアント側にインストールするアプリケーションを指定します。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ情報の設定] メニューから [追加] を選択します。

「セットアップ種類の選択」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

- 2 「アプリケーション」「一覧から選択」が選択されていることを確認します。
- 3 「標準対応製品」から、インストールしたいアプリケーションソフトを選択し、[次へ] をクリックします。

「標準対応製品」にインストールしたいアプリケーションが表示されていない場合は、「一覧から選択」のチェックをはずして [次へ] をクリックします。

Point

- 「標準対応製品」にないアプリケーションで、対話型インストールを行うアプリケーションを指定するには、事前にスクリプトの作成が必要になります。スクリプトを作成していない場合は、[キャンセル] をクリックして作業を中断し、Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成してください。
- 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。「付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」の「■ 標準対応製品をインストールする際の注意事項」(P.202) のでサポートしている OS を確認してください。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

「アプリケーション資源格納元の設定」ダイアログが表示されます。



「媒体チェック情報」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

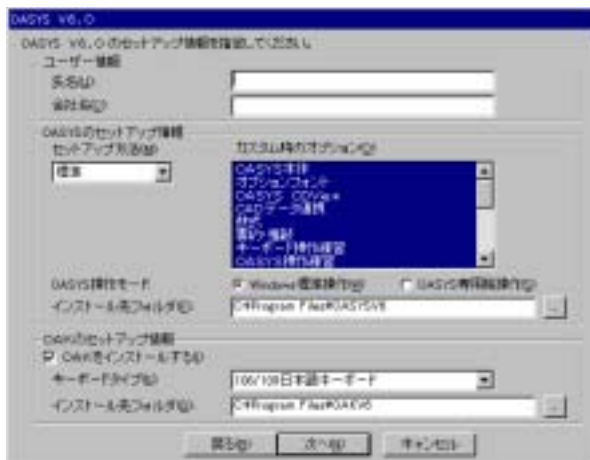
4 サーバ内のどのドライブからアプリケーションを登録するかを指定し、[次へ]をクリックします。

「標準対応製品」から選択した場合は、「インストール詳細設定」ダイアログが表示されます。手順5へ進みます。

「標準対応製品」から選択しなかった場合は、「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」ダイアログが表示されます。手順7へ進みます。

5 選択したアプリケーション用の詳細設定ダイアログが表示されます。

例) OASYS V6 を選択した場合



各項目の内容については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

6 各項目を設定して、[次へ] をクリックします。

セットアップ情報の設定確認ダイアログが表示されます。手順 9 へ進みます。

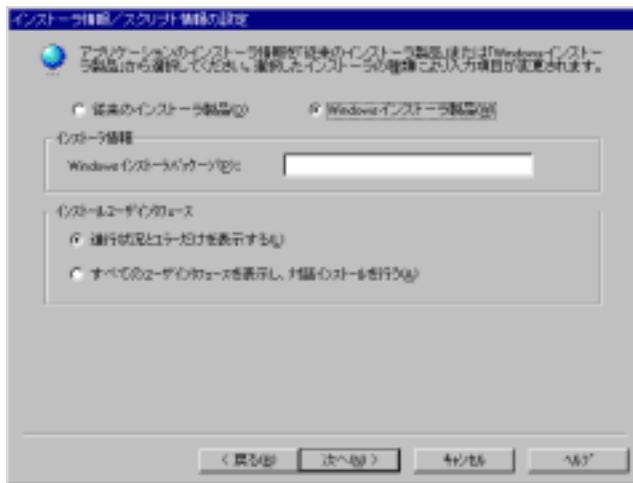
7 「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

Point

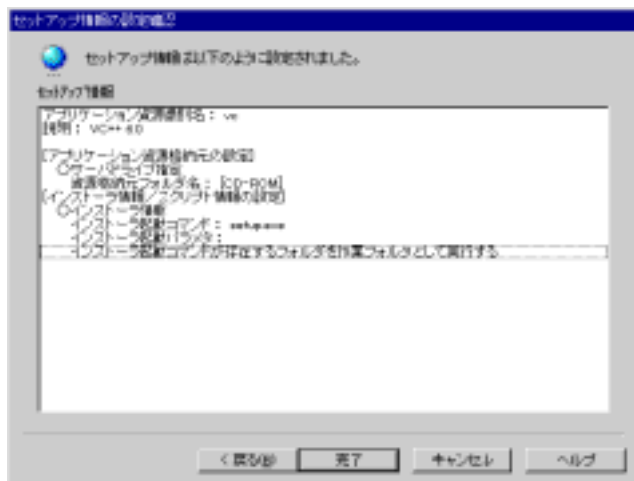
- Windows インストーラ製品を選択すると、設定項目が切り替わります。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

8 各項目を設定して、[次へ] をクリックします。

セットアップ情報の設定確認ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

9 設定内容を確認して、[完了] をクリックします。

アプリケーションのセットアップ情報が設定され、クライアントセットアップウィンドウに戻ります。

10 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

4.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する

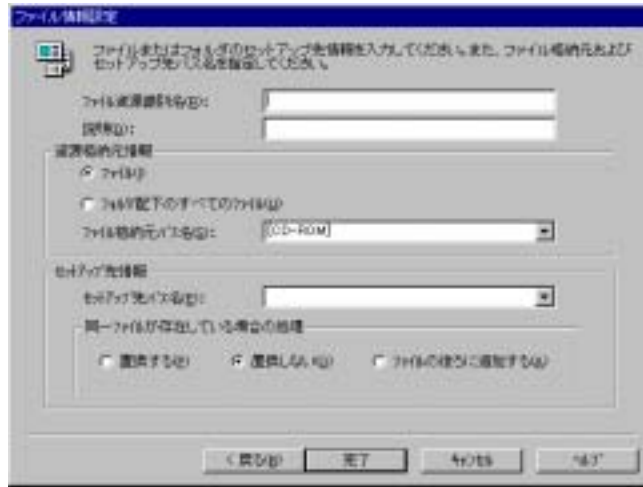
クライアント側にコピーするファイルを指定します。

1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ情報の設定] メニューから [追加] を選択します。

「セットアップ種類の選択」ダイアログが表示されます。

2 「ファイル」を選択し、[次へ] をクリックします。

「ファイル情報設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

I-3

3 各項目を設定し、[完了] をクリックします。

ファイルの情報が設定され、クライアントセットアップウィンドウに戻ります。

4 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

4.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する

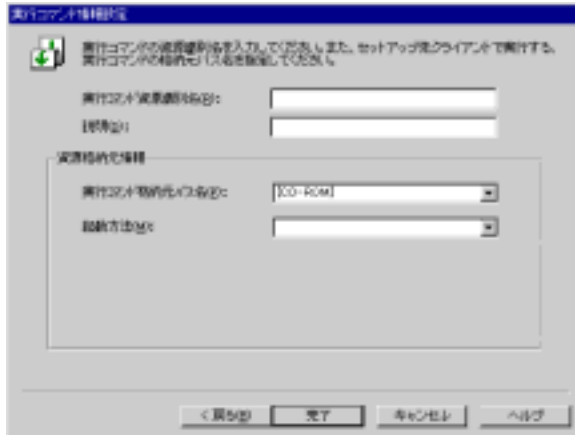
クライアント側で実行するコマンドを指定します。

1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ情報の設定] から [追加] を選択します。

「セットアップ種類の選択」ダイアログが表示されます。

2 「実行コマンド」を選択し、[次へ] をクリックします。

「実行コマンド詳細設定」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

3 各項目を設定し、[完了] をクリックします。

実行するコマンドの情報が設定され、クライアントセットアップウィンドウに戻ります。

4 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

4.5 セットアップ情報の内容確認／設定変更

● 設定内容を確認する

セットアップ情報の設定内容を確認します。

1 クライアントセットアップウィンドウで、設定を確認するセットアップ情報を選択します。

2 [セットアップ情報の設定] メニューから [設定確認] を選択します。

各セットアップ情報の設定確認ダイアログが表示されます。

● 設定内容を変更する

セットアップ情報の設定内容を変更します。

1 クライアントセットアップウィンドウで、設定を変更するセットアップ情報を選択します。

2 [セットアップ情報の設定] メニューから [設定変更] を選択します。

各セットアップ情報の設定画面が表示されます。

操作方法は、追加する場合と同じです。

▶ 「4.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する」(P.89) 参照

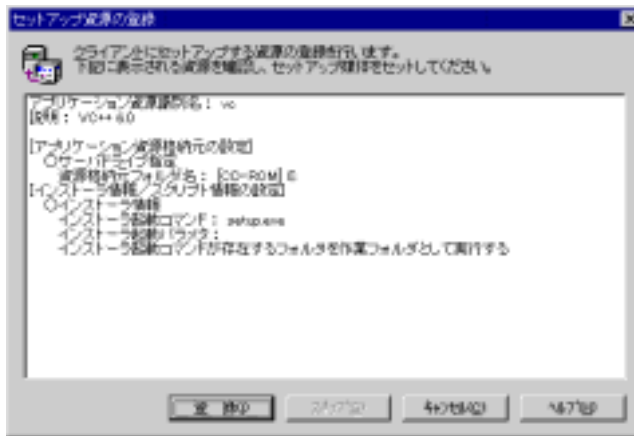
「4.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する」(P.92) 参照

「4.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する」(P.93) 参照

4.6 セットアップ資源をサーバへ登録する

セットアップ情報で設定した資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは WizardConsole のインストール時に指定した「データフォルダ」です。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、「セットアップ情報一覧」からセットアップ資源をサーバに登録するセットアップ情報を選択します。
- 2 [セットアップ資源の操作] メニューから [資源の登録] を選択します。
「セットアップ資源の登録」ダイアログが表示されます。



⇒ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

- 3 内容を確認して、[登録] をクリックします。

セットアップ資源がサーバに登録されます。クライアントセットアップウィンドウの「登録済みセットアップ資源一覧」に資源識別名などが追加されます。

Point

- クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番（上から）で行われます。
- 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。「付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」でサポートしている OS を確認してください。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

Note

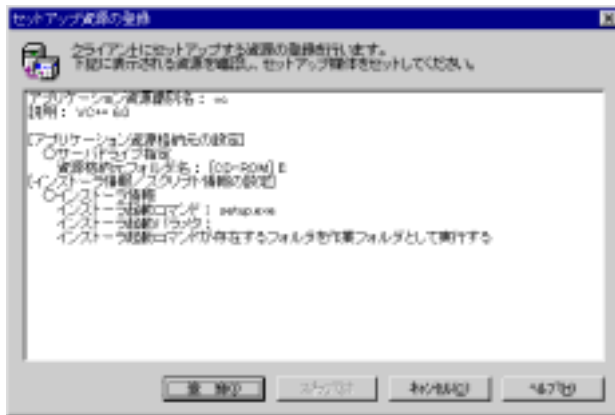
各セットアップ資源の登録には、ハードディスクに十分な空き容量が必要です。「付録 C」の「C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」(P.202) を参照して、各資源に必要な空き容量がハードディスクにあるか確認してください。

■ まとめて登録

セットアップ情報で設定したすべての資源をサーバのディスクに登録します。特定のセットアップ資源の登録を行わないようにスキップすることもできます。

1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ資源の操作] メニューから [資源の全登録] を選択します。

1 つめの「セットアップ資源の登録」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明 ⇒ [ヘルプ] をクリック

2 内容を確認して、[登録] をクリックします。登録しない場合は、[スキップ] をクリックします。

セットアップ資源がサーバに登録され、次の「セットアップ資源の登録」ダイアログが表示されます。

3 必要に応じて、手順 2 をくり返します。

すべてのセットアップ資源の登録が完了すると、クライアントセットアップウィンドウの「登録済みセットアップ資源一覧」に登録が完了した資源名が追加されます。

Point

- セットアップ資源の全登録中に [キャンセル] をクリックすると、セットアップ資源の全登録が中断されます。すでに登録が完了したセットアップ資源は削除されません。

■ クライアントへのインストール順を変更する

クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番に行われます。インストール順を変更するには、以下の操作を行います。

1 「登録済みセットアップ資源一覧」で、インストール順を変更するセットアップ資源を選択します。

2 ツールバーの [↑] [↓] をクリックして、任意の位置へ移動します。 または [セットアップ資源の操作] メニューから [インストール順番上へ] [インストール順番下へ] を選択します。

インストール順が変更されます。

Point

- アプリケーションの中には、インストール順が動作に影響するものがあります。標準対応製品のインストール順については「付録 C」の「C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」(P.202)を参照してください。

4.7 セットアップ資源の登録解除

サーバに登録したセットアップ資源を削除します。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、「登録済みセットアップ情報一覧」からセットアップ資源を削除するセットアップ情報を選択します。
- 2 [セットアップ資源の操作] メニューから [資源の削除] を選択します。
すべてのセットアップ資源をサーバから削除する場合は [資源の全削除] を選択します。
確認のメッセージが表示されます。



- 3 [はい] をクリックします。
「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源がサーバから削除されます。

5 クライアントブート設定

クライアントコンピュータのセットアップ内容、起動方法を設定します。クライアントブート設定は、クライアントのセットアップ方法によって、次の2種類があります。セットアップ内容にあわせて設定を行ってください。

操作を始める前に、あらかじめ未使用のフロッピーディスクを用意してください。

● OS セットアップ用

クライアントコンピュータのハードディスクを初期化し、新規に OS をインストールする場合に使用します。

クライアントブート設定を行う前に、あらかじめ「リモート OS セットアップ」の設定を行ってください。

● ClientWizard 用

ClientWizard でセットアップを行うためのフロッピーディスクを作成します。ClientWizard は、インストールモデルなど、すでに OS がインストールされているクライアントコンピュータのネットワーク環境（IP アドレスやドメインへの参加など）を設定する機能です。また、クライアントセットアップで設定したアプリケーションなどのセットアップも行います。



Note

Windows NT SV のドメインのメンバサーバのアカウントは、Windows NT WS 4.0 と同等に扱われます。その為、Windows NT SV 4.0 に対してもクライアント起動用フロッピーの作成はできますが、Windows NT SV 4.0 に対して ClientWizard やクライアントセットアップ等の機能は使用できません。

■ MS-DOS イメージの作成

リモート OS セットアップでは、クライアントを起動するために、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要です。通常は、あらかじめ MS-DOS の起動用のフロッピーを作成して使用しますが、WizardConsole では、初回の起動設定時に、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを使用することで、起動に必要な情報を「MS-DOS イメージ」としてサーバに格納します。2 回目以降は、サーバに格納された MS-DOS イメージを使用して起動設定を行います。

● MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクの作成

MS-DOS イメージを作成するための MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを、あらかじめ以下のいずれかの方法で作成してください。

FD バックアップコマンドを使用する場合

クライアントコンピュータに添付のドライバーズ CD から FD バックアップコマンドを使用して作成します。FD バックアップコマンドの使用方法については、ドライバーズ CD に添付のマニュアルを参照してください。

Windows 95 および Windows 98 から作成する場合

Windows 95 および Windows 98 のシステムから以下の方法で作成できます。

1. A ドライブに、初期化してもよいフロッピーディスクをセットします。
2. マイコンピュータの A ドライブを右クリックし、メニューから「初期化」を選択します。
3. 「フォーマットの種類」は「起動専用（C）」を選択し、[開始] をクリックします。

Point

- MS-DOS イメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーし、使用してください。

● MS-DOS イメージの削除

作成した起動用フロッピーディスク、またはネットワークからの起動が正常に行われない場合は、サーバに格納された MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動設定をやりなおしてください。

MS-DOS イメージを削除するには、クライアントブート設定を起動し、[起動イメージの設定] メニューから「MS-DOS イメージの削除」を選択します。

確認のメッセージが表示されるので、削除する場合は [OK] をクリックします。

5.1 クライアントブート設定を起動する

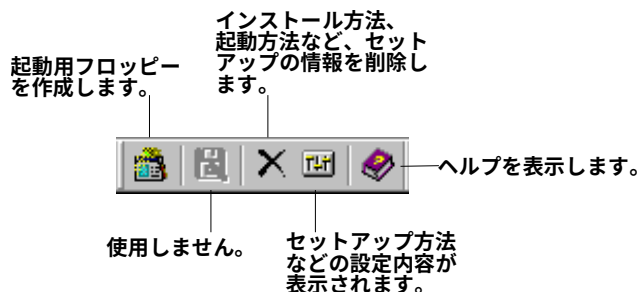
I-3

- 1 WizardConsole 画面で [コンピュータ] タブを選択し、[クライアントブート設定] をクリックします。

クライアントブート設定画面が表示されます。



● クライアントブート設定画面のツールバー



● クライアントブート設定画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
インストール方法	設定されているインストール方法が表示されます。
起動方法	起動方法が表示されます。
パラメータ	パラメータをどこで指定するかが表示されます。
LAN ドライバ	設定されている LAN ドライバが表示されます。

● クライアントブート設定画面のメニュー

項目	説明
[起動イメージの設定] メニュー	
FD 作成 Wizard	クライアント起動用フロッピーを作成します。
MS-DOS イメージの削除	起動用フロッピーの MS-DOS イメージを削除します。
削除	インストール方法、起動方法など、セットアップの情報を削除します。 起動用フロッピーからの起動がうまくいかない場合は、MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動用フロッピーを作成しなおしてください。
プロパティ	セットアップ方法などの設定内容が表示されます。

Point

- 「FD 作成 Wizard」、「削除」、「プロパティ」は、クライアントブート設定画面で「コンピュータ名」を選択したときのポップアップメニューからも操作できます。

5.2 OS セットアップ用

Note

- ・あらかじめ OS セットアップ機能を実行し、OS をセットアップするための各設定を行っておいてください。
- ・コンピュータの OS が Windows NT4.0 WS / SV (MEMBER) および Windows 2000 Pro のみ有効です。それ以外の場合にはエラーメッセージが表示されます。

- 1 「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択できます。
- 2 [起動イメージの設定] メニューから [ブート／セットアップ設定] を選択します。
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。



- 3 「OS セットアップ用」を選択し、[次へ] をクリックします。
登録名の指定画面が表示されます。



- 4 登録名を指定し、[次へ] をクリックします。
LAN カード指定画面が表示されます。



- 5 利用する LAN カードを指定し、[次へ] をクリックします。
「その他のドライバ」以外を選択した場合は、手順 9 に進みます。

Point

- 利用する LAN カードに「その他のドライバ」を選択した場合は、お使いのシステムによって Protocol.ini ファイルの編集が必要です。[詳細] をクリックし、設定してください。ただし、IO ポート /IRQ の設定がそれぞれ 0x300/10 の場合は、編集の必要はありません。

例) 「FMV - 181/2/3/4」を選択した場合、以下の行を編集します。

```
[FMV-18x-NIF]
  Drivename=FJN00I$S
  IOAddress =0x300
  Interrupt =10
```

6 「その他のドライバ」を選択した場合は、クライアントで使用する LAN カードのドライバを指定し、[次へ] をクリックします。

[参照] をクリックして、ファイルを選択することもできます。



7 LAN カードのタイプを指定します。

「NonPNP」を指定した場合は、IO ポートと IRQ を指定してください。

8 [次へ] をクリックします。

フロッピー挿入画面が表示されます。

初回設定時は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、セットしてください。



Point

- 「リモート OS セットアップでディスクキャッシュを使用する」をチェックすると、SMARTDRV.EXE が組み込まれ、OS セットアップの処理が早くなります。
- MS-DOS® LAN マネージャファイルは、以下の方法で入手できます。
 - Windows NT SV 4.0 の CD-ROM の場合
 \CLIENTS\MSCLIENT\NETSETUP
 - Microsoft の Web サイトからダウンロードする
<ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient>
- Windows 95 および Windows 98 で MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成した場合、MS-DOS イメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーし、使用してください。

2 回目以降は、初期化済みのフロッピーディスクをセットしてください。



I-3

9 フロッピーディスクをセットし、[次へ] をクリックします。

作成が開始されます。終了すると、完了画面が表示されます。

Point

- 初期化されていないフロッピーディスクの場合は [初期化する] をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

10 [完了] をクリックします。

クライアントブート設定画面に戻ります。

作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名 (OS セットアップ) 用 ディスク」と記述しておいてください。

5.3 ClientWizard 用フロッピーの作成

1 「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。

複数のコンピュータを選択できます。

2 「起動イメージの設定」メニューから「ブート／セットアップ設定」を選択します。

セットアップの種類を選択する画面が表示されます。



3 「ClientWizard 用」を選択し、「次へ」をクリックします。

クライアント情報ファイルの作成画面が表示されます。



4 フロッピーディスクをセットし、「次へ」をクリックします。

 Point

- 初期化されていないフロッピーディスクの場合は「初期化する」をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーを使用してください。

クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると、クライアントブート設定画面に戻ります。

作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名 (ClientWizard 用)」と記述しておいてください。

5.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更

クライアントの起動設定を行った後、クライアントのインストール方法などの情報を変更する場合は、一度登録した情報を削除して、再度 [FD 作成 Wizard] を行ってください。

1 変更対象のコンピュータを選択します。

2 [起動イメージの設定] メニューから [削除] を選択します。

確認のメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックします。

情報が削除されます。再度 [FD 作成 Wizard] でクライアント起動設定を行なってください。

6 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更

Note

- 背景が黄色で表示されているアカウントはすでに登録済みであることを表します。登録済みのアカウントを変更する場合は[変更]をクリックして、修正をしてください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。
- 背景が白色で表示されているアカウントは、[適用] または [OK] をクリックすると登録されます。

1 WizardConsole 画面で[グループ / ユーザ / 共有資源] タブを選択し、[クライアント情報の追加／変更] をクリックします。

クライアント情報の追加／変更画面が表示され、[ユーザの設定] タブ画面が表示されます。各タブをクリックすると[グループの設定] タブ画面、[共有資源の設定] タブ画面に切り替わります。



2 各タブをクリックして設定します。

- ▶ 設定方法⇒「6.1 ユーザの追加／変更」(P.106) 参照
「6.2 グループの追加／変更」(P.108) 参照
「6.3 共有資源フォルダの追加／変更」(P.109) 参照

6.1 ユーザの追加／変更

[ユーザの設定] タブが表示されていることを確認してください。

Point

- あらかじめ複数のユーザの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておくと、[ファイル] - [CSV ファイル取込み] でファイルを取り込むことによって、まとめてユーザを登録することができます。また、登録したユーザの情報は [ファイル] - [CSV ファイル出力] で CSV 形式のファイルに書き出すことができます。

▶ CSV ファイルの記述方法 ⇒ 「付録 D CSV ファイルフォーマットについて」(P.206)

1 ユーザの情報を設定します。

新規にユーザを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか「追加」をクリックします。2048 件まで設定できます。

ユーザの追加画面が表示されます。

2 追加するユーザの情報を設定します。

項目	説明
ユーザ名	コンピュータ上のユーザ名を入力します。20 文字以内（半角の場合）で入力してください。 " /, ¥ = + < > ; * ? [:] の 15 種類の文字は使用できません。また、すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じ名前を使用できません。
フルネーム	ユーザのフルネームを入力します。64 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。
説明	ユーザに対する説明を入力します。48 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。
パスワード	ログオン時のパスワードを設定します。半角 14 文字以内で入力してください。全角文字は入力できません。ここで設定したパスワードは、ユーザがサーバログオン時に任意に変更できます。
確認入力	「パスワード」で入力した文字列を、確認のために再度入力します。
次回ログイン時に変更する	設定したパスワードをユーザが次回サーバ接続時に変更する場合にチェックします。
パスワードを変更できない	ここで設定したパスワードを固定し、変更できないようにする場合にチェックします。
パスワードを無期限にする	ここで設定したパスワードを、無期限に利用する場合にチェックします。
アカウントを無効にする	アカウントを無効にする場合にチェックします。

3 「追加」をクリックします。

ユーザが追加されます。追加するユーザの情報を続けて設定できます。

4 すべてのユーザの追加が終わったら「OK」をクリックします。

クライアント情報の追加／変更画面に戻ります。

Point

- ユーザ情報の変更
- 変更するユーザを選択して [変更] をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。ユーザの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- ユーザの削除
- 削除するユーザを右クリックし [削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

Note

Windows NT の [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] の [ユーザマネージャ]、または Windows 2000 の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [管理ツール] の [Active Directory ユーザとコンピュータ] を使用してユーザを追加、変更した場合、2048 件以上の情報を正常に反映できない場合があります。

6.2 グループの追加／変更

1 [グループの設定] タブをクリックします。

[グループの設定] タブ画面が表示されます。



Point

- あらかじめ複数のグループの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておくと、[ファイル] - [CSV ファイル取込み] でファイルを取り込むことによって、まとめてグループを登録することができます。また、登録したグループの情報は [ファイル] - [CSV ファイル出力] で CSV 形式のファイルに書き出すことができます。
 ▶ CSV ファイルの記述方法 ⇒ 「付録 D CSV ファイルフォーマットについて」(P.206)

2 グループの情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、[追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。グループの追加画面が表示されます。



3 追加するグループの情報を設定します。

項目	説明
グループ名	ユーザグループ名を入力します。 20 文字以内（半角の場合）で入力してください。 " / , ¥ = + < > ; * ? [:] の 15 種類の文字は使用できません。すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じグループ名は使用できません。
説明	作成したグループに対する説明を入力します。64 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。

I-3

4 [追加] をクリックします。

グループが追加されます。追加するグループを続けて設定できます。

5 すべてのグループの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

クライアント情報の追加／変更画面に戻ります。

Point

- **グループ情報の変更**
変更するグループを選択して [変更] をクリックするか、変更するグループをダブルクリックします。グループの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- **グループの削除**
削除するグループを右クリックし、[削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

Note

Windows NT の [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] の [ドメインユーザマネージャ]、または Windows 2000 の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [管理ツール] の [Active Directory ユーザとコンピュータ] を使用してグループを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を、正常に反映できないことがあります。

6.3 共有資源フォルダの追加／変更

1 [共有資源の設定] タブをクリックします。

[共有資源の設定] タブ画面が表示されます。



Point

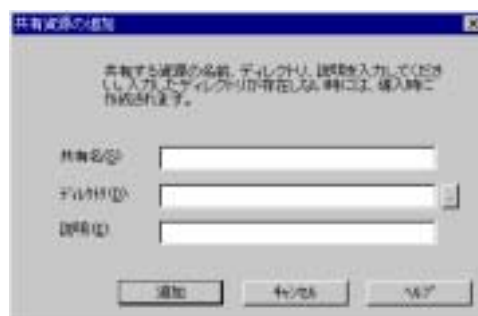
- あらかじめ複数の共有資源の情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておく、[ファイル] - [CSV ファイル取込み] でファイルを取り込むことによって、まとめて共有資源を登録することができます。また、登録した共有資源の情報は [ファイル] - [CSV ファイル出力] で CSV 形式のファイルに書きだすことができます。

▶ CSV ファイルの記述方法 ⇒ 「付録 D CSV ファイルフォーマットについて」(P.206)

2 共有資源の情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか [追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。

共有資源の追加画面が表示されます。



3 追加する共有資源の情報を設定します。

項目	説明
共有名	共有するディスク資源を入力します。80 文字以内（半角の場合）で入力してください。 WizardConsole であらかじめ予約されている共有名（SVWIZARD）は使用できません。8.3 形式（xxxxxxx.xxx）以上の長さで入力した場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。
ディレクトリ	共有する資源のディレクトリ名を入力します。246 文字まで（半角の場合）入力できます。"/ : ? < > * ￥ の 9 種類の文字は使用できません。絶対パスで入力してください。[...] ボタンをクリックして、ディレクトリー一覧から選択することもできます。
説明	共有資源に対する説明を入力します。48 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。

4 [追加] をクリックします。

共有資源が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。

5 すべての共有資源の追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

クライアント情報の追加／変更画面に戻ります。

Point

- 共有資源情報を変更する
変更する共有資源を選択して [変更] をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。共有資源の変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- 共有資源を削除する
削除する共有資源を右クリックし、[削除] を選択します。[Delete] キーを押しても削除できます。

Note

- 共有資源の "SVWIZARD" とユーザ名の "SWClientSetupUser" は、WizardConsole でクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。
登録中は、この共有資源を削除したり、アクセス権の変更、ユーザのパスワード変更等を行わないでください。
インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard ですべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。
- デスクトップ設計をお使いになる場合は、共有資源を削除しないでください。
- 32 件以上の共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 32 件までしか登録できません。
- Windows NT の [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] の [ドメインユーザマネージャ]、または Windows 2000 の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [管理ツール] の [Active Directory ユーザとコンピュータ] を使用して共有資源を追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。

続いてユーザ、グループ、共有資源の関連付けの操作を行います。

6.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け

1 クライアント情報の追加／変更画面で [OK] をクリックします。

追加変更画面が閉じて、クライアントシステム設計画面が表示されます。

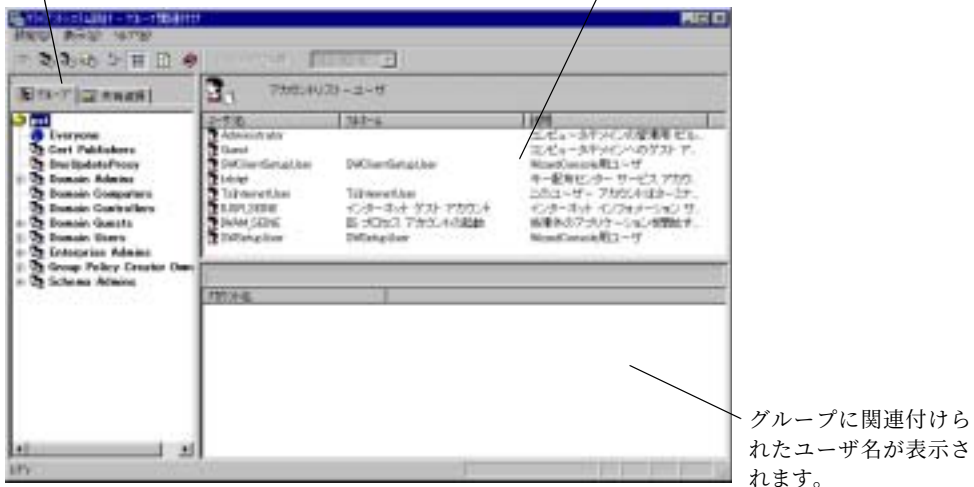
ユーザのグループ構成、およびユーザ／グループ単位で利用できる共有資源の関連付けをします。

● ユーザの所属グループの設定

ユーザをグループに関連付けます。

[グループ] / [共有資源] タブをクリックすると表示が切り替わります。

選択可能なユーザ名が表示されます。ユーザ名を右クリックすると、その関連付けられているグループ共有資源を確認できます。



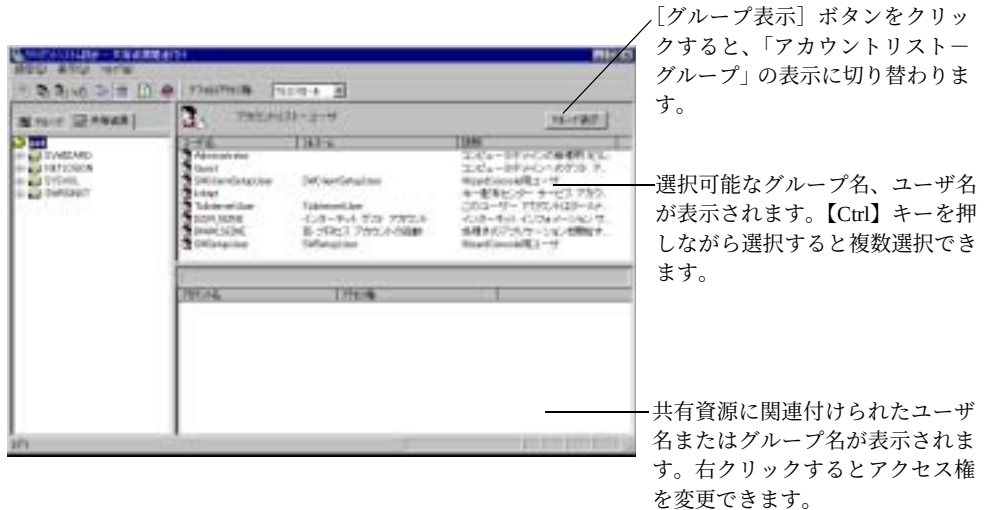
Point

- OU 設定時、ビルトイングループとして ActiveDirectory にあらかじめ登録されているグループは、Bold 表示されます。

1 設定したいユーザを選択し、「アカウントリスト - ユーザ」から左側の「グループ」タブ内の目的のグループ、または右下側の「グループ xx」に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします (xx は選択されているグループ名)。

● 共有資源の設定（ユーザ／グループ単位）

グループ、ユーザを共有資源に関連付けます。



- 1 設定したいユーザまたはグループを選択し、「アカウントリスト」から左側の「共有資源」タブ内の目的の共有資源、または右下側の「共有資源 xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします（xx は選択されている共有資源名）。

選択状態の共有資源に関連付けられたユーザ、またはグループのアクセス権は次の方法で変更できます。

- 2 「関連付け一覧」からアクセス権を変更したいアカウントをダブルクリックするか、右クリックします。

アクセス権の変更ダイアログが表示されます。



3 変更したいアクセス権を選択し、[OK] をクリックします。

Point

- ツールバーのアクセス権を変更すると、デフォルトのアクセス権を変更できます。
- アカウントの関連付けをキー操作で行うこともできます。
 - 1) 「アカウントリスト」の目的のアカウントをクリックし、【Ctrl】+【C】キーを押します。
 - 2) 左側の「グループ」または「共有資源」タブ内の目的のアカウントをクリックする。
 - 3) 【Ctrl】+【V】キーを押します。
- ユーザ、またはグループの関連付けを確認したい場合は、アカウントを選択し右クリックのポップアップメニューから「関連付け確認」を選択します。関連付け確認ダイアログが表示されます。

Note

クライアントシステム設計での設定を反映するには、[適用] をクリックするか、[設定] メニューの [適用] を選択してください。

● クライアントシステム設計画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



● クライアントシステム設計画面のメニュー

項目	説明
[設定] メニュー	
追加／変更	追加／変更には以下のサブメニューがあります。 コンピュータ：使用しません。 グループ：グループ情報を追加、または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。
デフォルトアクセス権	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読み込みのみ：読み込みのみ行えます。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
適用	クライアントシステム設計で設定した内容を保存します。
終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存するかを確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、設定内容を保存してクライアントシステム設計を終了します。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
デフォルトアクセス権	ツールバー上のデフォルトアクセス権の表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
関連付け画面切替え	グループと共有資源の画面を切り替えます。 グループ：関連付けのツリーをグループに切り替えます。 共有資源：関連付けのツリーを共有資源に切り替えます。
アカウントリスト切替え	共有資源タブ選択中に、アカウントリストの表示をユーザとグループに切り替えます。 ユーザー一覧：アカウントリストにユーザのリストを表示します。 グループ一覧：アカウントリストにグループのリストを表示します。
関連付け一覧表示切替え	画面右下の関連付けられたアカウントの表示方法を切り替えます。 小さいアイコン：関連付けられたアカウントを小さいアイコンで表示します。 詳細：関連付けられたアカウントの詳細情報を表示します。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
クライアントシステム設計のバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

7 クライアントのデスクトップ環境を設定する

サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。業務に必要な機能のみをクライアントのデスクトップに表示することで、ユーザが業務に集中しやすい環境を作ります。また、システムに習熟していないユーザによる偶発的な事故を防ぐこともできます。

■ デスクトップ環境設定の準備



Note

- Windows 2000 SV の場合は、WizardConsole のインストール時に必ず OU を設定してください。OU を指定しなかった場合は、デスクトップ環境設定でクライアント環境制御は行えません。
- デスクトップ環境設定は、Windows Me クライアントのデスクトップ制御をサポートしていません。Windows Me クライアントを使用する場合は、デスクトップ環境設定によるデスクトップ制御を行わないでください。
- またサーバ側で設定したポリシー情報の変更は、必ずデスクトップ環境設定を使用してください。デスクトップ環境設定により作成したポリシーをデスクトップ環境設定を使用せずに変更、削除すると、誤動作の原因となります。

1 WizardConsole 画面で[グループ/ユーザ/共有資源]タブを選択し、「デスクトップ環境設定」をクリックします。

デスクトップ環境設定ウィンドウが表示されます。



▶ 操作方法について⇒「7.1 デスクトップ環境設定ウィンドウでの操作」(P.118) 参照

項目	説明
デスクトップ環境一覧	設定されているデスクトップ環境の一覧が表示されます。一覧の上にあるほど優先度が高くなります。デスクトップ環境は 15 個まで作成できます。
[設定 .. (Enter)]	選択しているデスクトップ環境の設定を変更します。クリックまたは、【Enter】キーを押すとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度変更	選択しているデスクトップ環境の優先度を【Ctrl】+【↑】【↓】キーで変更します。
デスクトップ環境を有効とするグループ	デスクトップ環境一覧で選択されているデスクトップ環境を使用するグループを表示します。
グループ一覧	存在しているグループの一覧が表示されます。この一覧から「デスクトップ環境を有効とするグループ」へ追加することができます。グレー表示になっているグループは他のデスクトップ環境に割り当てられているので、追加することはできません。

● デスクトップ環境設定画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



● デスクトップ環境設定画面のメニュー

デスクトップ環境設定画面には、次のメニューがあります。

項目	設定
[デスクトップ環境] メニュー	
追加	デスクトップ環境を追加します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
コピー	デスクトップ環境をコピーします。
削除	デスクトップ環境を削除します。
設定	デスクトップ環境の設定を変更します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度上へ	デスクトップ環境の優先度を 1 つ上げます。
優先度下へ	デスクトップ環境の優先度を 1 つ下げます。
終了	デスクトップ環境設定画面を閉じます。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	デスクトップ環境設定のヘルプが表示されます。
バージョン情報	デスクトップ環境設定のバージョン情報が表示されます。

7.1 デスクトップ環境設定ウィンドウでの操作

デスクトップ環境設定ウィンドウでの操作について説明します。

● デスクトップ環境の優先順位を設定する

デスクトップ環境はドメインのグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）に対して割り当てを行います。ユーザは複数のグローバルグループに所属することが可能です。そのためユーザが所属するグローバルグループそれぞれにデスクトップ環境設定が割り当てられている場合、ユーザにはデスクトップ設定が複数割り当てられていることになります。

そこでデスクトップ環境設定の優先順位を決める必要があります。

1 「デスクトップ環境一覧」より優先順位を変更したいデスクトップ環境を選択します。

2 [デスクトップ環境] メニューより [優先度上へ] / [優先度下へ] を選択します。
画面上の [↑上へ] / [↓下へ] ボタンをクリックしても順位を変更できます。

■ デスクトップ環境設定の追加変更

● 追加

[デスクトップ環境] メニューから [追加] を選択するか、[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。デスクトップ環境の設定画面が表示されますので、設定を行ってください。

● 複写

複写するデスクトップ環境名をクリックし、[デスクトップ環境] メニューから [コピー] を選択するか、[デスクトップ環境のコピー] アイコンをクリックします。

● 削除

削除するデスクトップ環境名をクリックし、[デスクトップ環境] メニューから [削除] を選択するか、[デスクトップ環境の削除] アイコンをクリックします。

■ デスクトップ環境設定を適用するグループの設定

デスクトップ環境を適用するグループを設定します。

● 適用グループを追加する

「グループ一覧」から追加したいグループを選択し [←追加] ボタンをクリックするか、グループ名をダブルクリックします。

● 適用グループを解除する

「デスクトップ環境を有効とするグループ」から削除したいグループを選択し [削除→] ボタンをクリックするか、グループ名をダブルクリックします。

● Point

- 「グループ一覧」にはグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）の一覧が表示されています。淡色表示になっているグループは他のデスクトップ環境設定に割り当てられているので追加することはできません。
- 「アカウントリスト」ボタンで、グローバルグループの追加が行えます。

7.2 デスクトップ環境の設定

各デスクトップ環境の詳細設定を行います。初期メニュー、各種設定、操作性、キー抑止に関する設定ができます。各項目の詳細説明は、[ヘルプ] をクリックすると表示されます。

1 デスクトップ環境設定画面で、次のいずれかの操作をします。

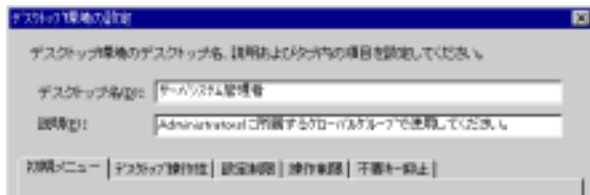
●設定を変更する場合

- ・デスクトップ環境名を選択し、[設定] をクリックする。
- ・デスクトップ環境名をダブルクリックする。

●追加する場合

- ・[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックする。
- ・[デスクトップ環境] メニューから [追加] を選択する。

デスクトップ環境の設定画面が表示されます。



項目	説明
デスクトップ名	変更、追加するデスクトップ環境名を入力します。
説明	デスクトップ環境の使用基準などの説明を入力します。
初期メニュータブ	「7.3 デスクトップ環境の設定－[初期メニュー] タブ」(P.120) 参照
デスクトップ操作性タブ	「7.4 デスクトップ環境の設定－[デスクトップ操作性] タブ」(P.121) 参照
設定制限タブ	「7.5 デスクトップ環境の設定－[設定制限] タブ」(P.122) 参照
操作制限タブ	「7.6 デスクトップ環境の設定－[操作制限] タブ」(P.123) 参照
不要キー抑止タブ	「7.7 デスクトップ環境の設定－[不要キー抑止] タブ」(P.124) 参照

Point

- デスクトップ環境設定に関する詳細やトラブルシューティングについては、ヘルプを参照してください。

2 デスクトップ環境の設定をして [OK] をクリックします。

デスクトップ環境が変更、設定されます。

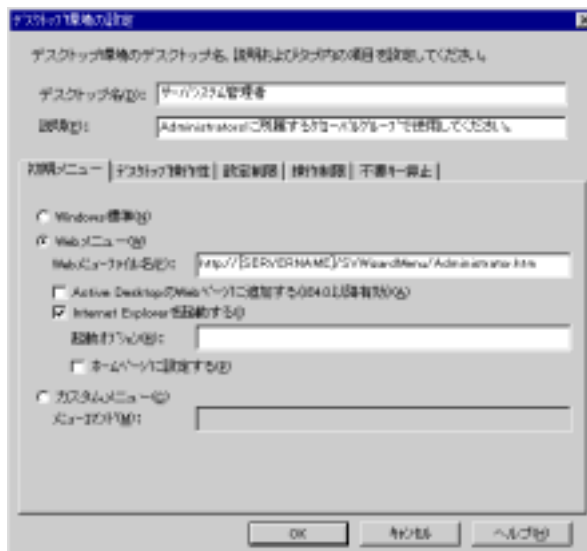
3 デスクトップ環境設定を終了します。

デスクトップ環境の変更、設定は、デスクトップ環境設定の終了時に適用されます。

7.3 デスクトップ環境の設定－【初期メニュー】タブ

1 【初期メニュー】タブをクリックします。

初期メニュータブ画面が表示されます。クライアントのログオン直後に表示される初期メニューの設定を行います。



2 各項目を設定します。

▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

Point

- Web メニュー（WizardMenu）は、インターネットエクスプローラ上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。Web メニュー上のボタンは、WizardMenu 作成ツールを使用して、大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成することができます。WizardMenu 作成ツールを起動するには、WizardConsole インストール終了後に [スタート]－[プログラム]－[ServerStart]－[WizardMenu 作成ツール] を選択します。
- Web メニュー、WizardMenu 作成ツールについての詳細は、それぞれのヘルプを参照してください。

Note

IIS が構成されていない状態で WizardConsole をインストールすると、WizardMenu が利用できません。その場合は、以下の操作を行ってください。

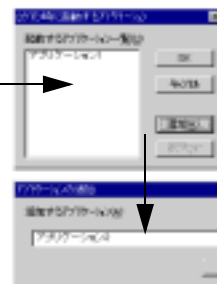
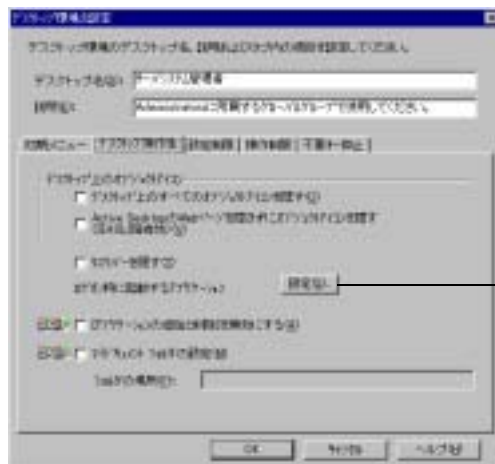
- 1) サーバ上に IIS (バージョン 3.0 以上) を構成します。
- 2) スタートメニューの「プログラム」→「Microsoft インターネット サーバー (共通)」(Windows2000 では「管理ツール」)→「インターネット サービス マネージャ」を起動します。
- 3) WWW サービスのプロパティを開き、「ディレクトリ」タブから、以下の 3 つのフォルダに対し、エイリアスを追加します。
 - ① c:\WZCNLS\desktop\CGI ⇒ エイリアス名 「SVWizardMenu\APPS」
 - ② c:\WZCNLS\desktop\Controls⇒ エイリアス名 「SVWizardMenu\Controls」
 - ③ c:\WZCNLS\desktop\inetpub⇒ エイリアス名 「SVWizardMenu」
- 4) WWW サービスを再起動します。
- 5) デスクトップ環境設定の「初期メニュー」タブで「Web メニュー」を選択します。

I-3

7.4 デスクトップ環境の設定－[デスクトップ操作性] タブ

1 [デスクトップ操作性] タブをクリックします。

デスクトップ操作性タブ画面が表示されます。デスクトップの操作性に関する制限を行います。



[追加] をクリックするとアプリケーションの追加画面が表示されます。

2 各項目を設定します。

» 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

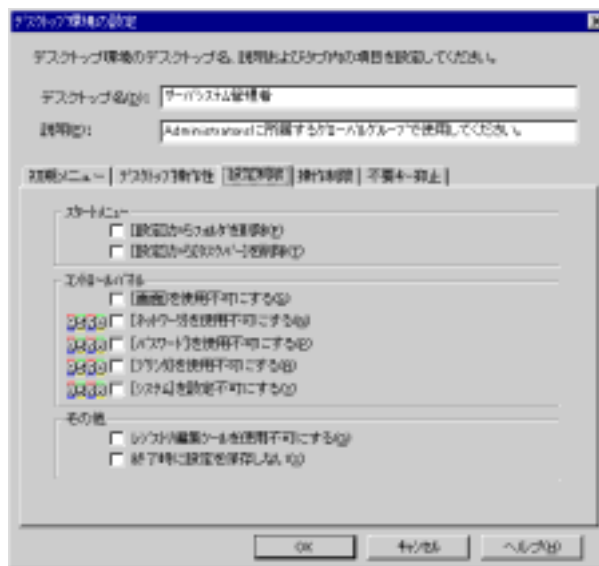
 Note

- ・「タスクバーを隠す」をチェックすると、スタートメニューからのログオフ操作ができなくなります。この項目を設定する場合には、メニューにログオフの項目を追加するなど、ログオフを行う手段を必ず用意してください。
 - ・ログオフを行うには、「ExitWin.exe」コマンドを実行してください。
 - ・「ExitWin.exe」コマンドは、システムフォルダ配下（NT の場合 "C:\Winnt\system32"）に格納されています。
 - ・チェックボックスの横に表示されるアイコンは、設定が有効になる OS の種類を示します。各アイコンは以下の OS を示します。アイコンが表示されていない項目は、すべてのクライアント OS に設定が反映されます。
- | | | |
|---------------------|----------------------|-------------------|
| 2K：Windows 2000 Pro | NT：Windows NT WS 4.0 | XP：Windows XP Pro |
| 95：Windows 95 | 98：Windows 98 | |

7.5 デスクトップ環境の設定－〔設定制限〕タブ

1 〔設定制限〕タブをクリックします。

設定制限タブ画面が表示されます。各種設定に関する制限を行います



2 各項目を設定します。

▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

7.6 デスクトップ環境の設定－ [操作制限] タブ

1 [操作制限] タブをクリックします。

操作制限タブ画面が表示されます。ユーザの操作に関する制限を行います。



2 各項目を設定します。

» 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

7.7 デスクトップ環境の設定－「不要キー抑止」タブ

1 「不要キー抑止」タブをクリックします。

不要キー抑止タブ画面が表示されます。入力操作を無効にするキーの設定を行います。



2 各項目を設定します。

▶ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

8 クライアントへのインストール

8.1 クライアントに OS がインストールされていない場合

リモート OS セットアップで設定した情報を使って、クライアントコンピュータに OS をインストールします。

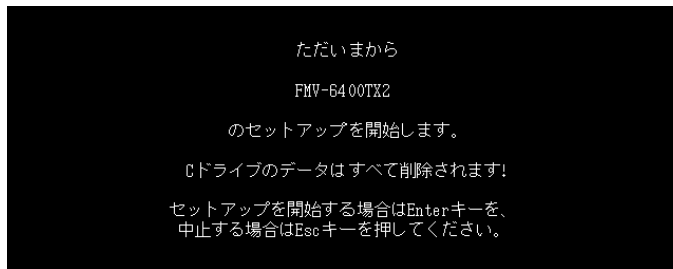
Note

あらかじめクライアントブート設定を行い、リモート OS セットアップ用フロッピーを作成してください。

▶ 「5.2 OS セットアップ用」(P.100) 参照

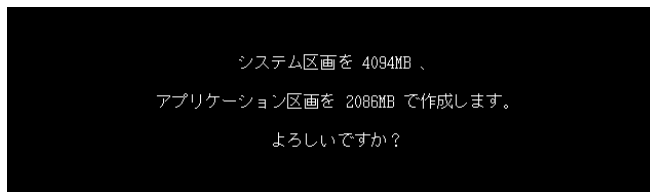
1 クライアント起動用フロッピーをセットして、コンピュータの電源を入れます。

OS セットアップ起動画面が表示されます。



2 登録名が正しいことを確認して【Enter】キーを押します。

「ユーザ情報の設定」ダイアログで指定した区画サイズを設定できない場合、区画サイズを調整する旨の確認の画面が表示されます。



3 表示された区画サイズで区画を作成する場合は【Enter】キーを押します。

Cドライブのフォーマットに続いて、セットアップに必要なファイルがコピーされ、OS のインストールが開始されます。

OS のインストール終了後、必要に応じてクライアントセットアップ機能をインストールしてください。

■ クライアントセットアップ機能のインストール

Windows NT WS 4.0/Windows 2000 Pro のインストール終了後、デスクトップ上にある「クライアントセットアップ機能のインストール」アイコンをダブルクリックします。

クライアントセットアップ機能がインストールされます。

セットアップを正しく行うには管理者権限が必要です。また、クライアントセットアップ機能を有効にするには、インストール終了後、再起動してください。

Point

- セットアップ中に「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、初期化に失敗しました。」というメッセージが表示されることがありますが、運用上の支障はありません。
- クライアントにセットアップ資源をインストールするタイミングを設定する場合は、「8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」(P.131)を参照してください。

Note

セットアップする機種によってはインストール中に Internet Explorer や ServicePack の CD の挿入をうながすメッセージが表示されることがあります。これらの CD は、ドライバやアプリケーションを正しく動作させるのに必要ですのでメッセージに従って CD を挿入してください。CD を挿入せずに操作を進めた場合、以降のセットアップが正しく行われない可能性があります。その他の注意点に関して、リモート OS セットアップを開始する前に本体添付のマニュアルの「システムの修復と再インストール」の説明などをご確認ください。」

8.2 クライアントに OS がインストールされている場合

インストールモデルなど、すでに OS がインストール済みのクライアントコンピュータのセットアップを行います。クライアントセットアップで設定した内容もセットアップされます。

Note

- ・ クライアントのインストールを行う前に、起動中のアプリケーションをすべて終了しておいてください。Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro または Windows XP Pro を使用している場合は、管理者用アカウントでログオンしてください。
- ・ あらかじめクライアントブート設定を行って、ClientWizard 用のフロッピーを作成してください。

▶ 「5.3 ClientWizard 用フロッピーの作成」(P.103) 参照

1 セットアップを行うクライアントコンピュータに、ClientWizard 用フロッピーをセットします。

フロッピーは、書き込み可能な状態にしておいてください。

2 エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。



- 3 [CWizard] をダブルクリックします。
ClientWizard が起動します。



- 4 「クライアントの登録」をクリックします。
コンピュータ選択画面が表示されます。



接続するサーバ情報が表示されます。
サーバ名、IP アドレス、ドメイン名（ワークグループ）は変更できません。

- 5 セットアップするコンピュータを選択します。

項目	説明
コンピュータの選択	▼ をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。ご使用のコンピュータと同じ OS が設定されているコンピュータ名のみ表示されます。
IP アドレス	IP アドレスの種別が表示されます。変更はできません。

6 「次へ」をクリックします。 設定の確認画面が表示されます。



セットアップが開始されます。

すでにドメインに参加していて、かつコンピュータ名を変更するときは、コンピュータ名の変更ダイアログが表示されます。

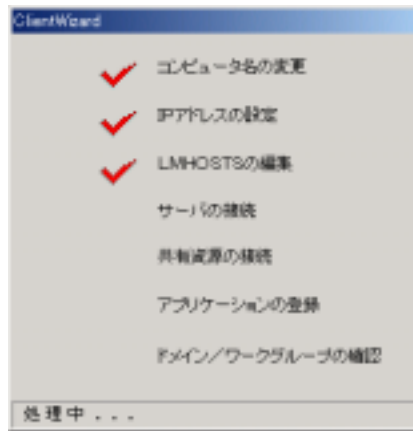
[OK] をクリックし、画面の記述に従って、コンピュータ名を変更します。

Note

クライアントが Windows 2000 Pro または Windows XP Pro の場合、ドメイン参加中にコンピュータ名を変更することができません。以下の操作を行って、ワークグループに変更し、もう一度最初（ClientWizard の起動）からやり直してください。

1. 「システムのプロパティ」ダイアログで [ネットワーク ID] (Windows XP Pro は [コンピュータ名]) タブをクリックします。
2. [プロパティ] (Windows XP Pro は [変更]) をクリックします。
3. 「識別の変更」 (Windows XP Pro は「コンピュータ名の変更」) ダイアログの「次のメンバ」で「ワークグループ」を選択します。
4. ワークグループ名 (WORKGROUP など) を入力し、[OK] をクリックします。
5. 画面の指示にしたがって、再起動します。

- 7 **「実行」をクリックします。**
セットアップが開始されます。



セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

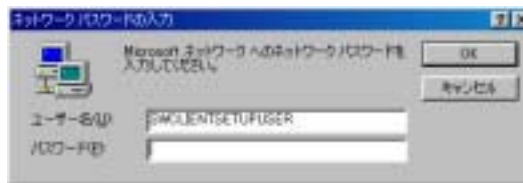
- 8 **LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。その場合は、フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。**
再起動され、ログオン画面が表示されます。

Windows 95 / 98 / Me の場合は、手順 9 ～手順 12 を操作してください。

Windows NT WS 4.0 / Windows 2000 Pro / Windows XP Pro の場合は、手順 13 ～手順 16 を操作してください。

- 9 **(Windows 95 / 98 / Me の場合)**

ユーザ名はデフォルトで表示されますので、ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで [OK] をクリックします。



Point

- はじめてサーバにログオンする場合、パスワードの確認画面が表示されますが、何も入力せずに [OK] をクリックしてください。

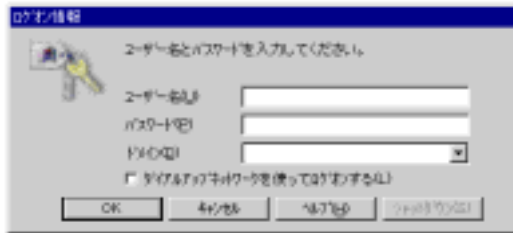
- 10 **アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は次の画面が表示されます。**



- 11 ClientWizard 用フロッピーを再度挿入して [OK] をクリックします。**
セットアップが終了すると、システムが再起動されます。

- 12 ClientWizard 用フロッピーを取り出して [OK] をクリックします。**
手順 17 へ進んでください。

- 13 (Windows NT WS 4.0 / Windows 2000 Pro / Windows XP Pro の場合)**
管理者用アカウントでログオンしてください。



以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、▼をクリックしてローカルコンピュータアカウントを指定してください。引き続きセットアップの処理が行われます。

- 14 アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は次の画面が表示されます。**



- 15 フロッピーディスクを再度挿入して [OK] をクリックします。**
セットアップが終了すると、システムが再起動されます。

- 16 ドメイン名変更要求の画面が表示されたら [OK] をクリックします。**
ネットワークパネルが表示されるので、ドメイン名を指定どおり変更して再起動してください。再起動後、ログオン画面が表示されます。



- 17 実際にログオンするユーザ名、パスワードを入力して [OK] をクリックします。**
パスワードの確認画面（変更）が表示されます。

Point

- ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認してください。

18 「パスワード」「パスワード確認」を入力して [OK] をクリックします。

ログオン画面が表示されます。

19 パスワードを入力して [OK] をクリックします。

OS の起動画面が表示されます。

クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。



Note

クライアントセットアップによるクライアントへの資源自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログオン時に一度だけ行われます。ただし、この時にセットアップ指示がない場合は、セットアップ指示が設定された後の最初のログオン時に一度だけ行われます。クライアントに資源がセットアップされるタイミングを設定する場合は、「8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」(P.131) を参照してください。



Point

- 一度セットアップしたコンピュータ名は、ClientWizard 用フロッピーから削除されます。
- セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OS を再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsole で一度コンピュータ名を削除してください。その後、新しくコンピュータを追加し、ClientWizard 用フロッピーを作成し、セットアップを行ってください。
- Windows 95 / 98 でデスクトップ環境設定を使用する場合は、自動的にユーザプロファイルを有効とする環境に設定されます。ユーザプロファイルが有効になると、それぞれのユーザが独自のデスクトップ環境を保持できるようになります。
- この設定は、「コントロールパネル」の「パスワード」画面の「ユーザ別の設定」タブで確認することができます。
- ActiveDirectory にログオンするクライアントは、ネットワークの DNS サーバの設定を行ってください。正しく設定を行わなかった場合、デスクトップ環境設定で行ったポリシー設定をクライアントに適用できません。
- ActiveDirectory に Windows 2000 Pro または Windows XP Pro クライアントから Administrator アカウントでログオンする場合、デフォルトではポリシー設定は適用されません。管理者にもポリシー設定を反映させる場合は、管理者用のアカウントを「クライアント情報の追加／変更」で作成し、そのアカウントが属するグループに対してポリシー設定を行ってください。

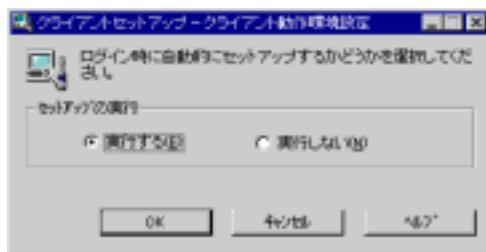
8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング

セットアップ資源をクライアントにインストールするタイミングを指定します。初期状態は、次にクライアントがログインした時にセットアップ資源がインストールされるように設定されています。

セットアップを行ったクライアントコンピュータで操作します。

1 [スタート] をクリックし、[プログラム] - [WizardConsole Client] - [クライアントセットアップ-クライアントセットアップ動作環境] を選択します。

クライアント動作環境設定ダイアログが表示されます。



⇒ 各項目の詳細説明 ⇒ 「ヘルプ」をクリック

2 クライアントログイン時に自動的にインストールするかを選択して [OK] をクリックします。

「実行する」を選択した場合は、次回クライアントコンピュータのログイン時にセットアップ資源が自動的にインストールされます。

Note

セットアップ資源のインストールに失敗した場合、クライアントセットアップウィンドウで設定したセットアップ情報が間違っていることが考えられます。セットアップ情報を見直してください。

Point

- 以下のような場合、セットアップ資源が再インストールされます。再インストールを行いたくない場合は、クライアントセットアップウィンドウのクライアント一覧に表示されるクライアントコンピュータを非選択状態にしてください。
 - サーバに同一製品が異なる資源識別名で登録された場合
 - サーバで同一製品を再登録した場合
 - クライアントの OS を入れ替えたことにより、クライアントセットアップを使用してインストールした資源の情報が削除されてしまった場合

第 4 章

インストール後の操作

4

1	バックアップディスクを作成する（フロッピービルダ）...	134
2	サーバ運用前の留意事項	136
3	メンテナンス区画について	139
4	同様のシステムを構築するとき（コンフィグレーションファイルの作成）..	140
5	WizardMenu によるデスクトップメニューの作成について ..	141
6	WizardConsole のアンインストール	145

1 バックアップディスクを作成する (フロッピービルダ)

ServerStart の CD-ROM には、サーバ本体に標準添付されているバックアップディスクや、各種デバイスに添付されるドライバディスク、アプリケーションが収められています。ServerStart では、バックアップディスクの作成を簡単に行えるようにフロッピービルダ機能を提供しています。

フロッピービルダを使用すると、作成したいバックアップディスクのリンクをクリックするだけで、簡単にバックアップディスクを作成することができます。フロッピービルダでバックアップディスクを作成する場合は、新しいフロッピーディスク（2HD）を作成に必要な枚数分用意してください。

フロッピービルダは、サーバ機で ServerStart CD-ROM からシステムを起動した場合や、クライアントコンピュータで ServerStart システムを起動した場合に利用できます。

 Note

お使いの Windows マシン上でフロッピービルダ機能を利用する場合、あらかじめ ServerStart 本体、およびシェル拡張機能をインストールする必要があります。ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットすると、自動的にインストールが開始されます。自動的にインストールされない場合は、CD-ROM の \Launcher.exe を実行してください。

- 1 ServerStart の CD-ROM からシステムを起動します。
- 2 ServerStart の画面で「フロッピービルダ」をクリックします。



- 作成したいドライバの種類をクリックします。
- 作成するバックアップディスクをクリックします。
メッセージに従ってフロッピーディスクをAドライブに挿入してください。

5 【Enter】キーを押します。

自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。

バックアップディスクの作成は自動で行われます。作成完了後、フロッピービルダ画面に表示されているドライバ、ツール名を書いたラベルを作成し、フロッピーディスクに貼ってください。引き続きバックアップディスクを作成する場合は、手順 3～5 を繰り返してください。サーバ機種によって画面および作成できるバックアップディスクは異なります。

Note

バックアップディスク作成中は、画面下のプログレスバーに作成状況が表示されます。プログレスバーが右端まで行き、表示が消えたら、フロッピーディスクを取り出してください。

2 サーバ運用前の留意事項

サーバの運用を始める前に、以下の設定を行ってください。

各設定については『Windows NT Server ファーストステップガイド』を参照してください。

- LAN カードを増設する場合、本体に添付の取扱説明書を参照してドライバをインストールしてください。
- SCSI 外部オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を接続する場合、本体に添付の取扱説明書を参照して接続してください。
- インストールした添付アプリケーションの設定を、各アプリケーションの取扱説明書を参照して行ってください。

2.1 Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて

Windows 2000 のインストールが完了した後に、デバイスマネージャを表示すると、「その他のデバイス」として、デバイスが正しく認識されない場合があります。

この場合、次の手順で確認して正しく構成する必要があります。

■ 確認方法

- 1 管理者または Administrator グループのメンバとしてログオンします。
- 2 コントロールパネルを起動し、[システム] アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
- 4 「その他のデバイス」が存在するか確認します。

■ 構成方法

- 1 ServerStart の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
このとき、ServerStart 事前設定モードが起動した場合は、ServerStartを終了してください。
- 2 [エクスプローラ] を起動し、CD-ROM の次のフォルダ内の INF（拡張子 *.inf）を OS インストールフォルダ（例 C:\Winnt）配下の inf フォルダ内にコピーします。
 - ・ Adaptec Management SCSI Processor Device の場合
 \Drivers\SCSI\Dpt\W2k
- 3 デバイスマネージャを起動し、「その他のデバイス」を選択します。
- 4 右クリックして、[プロパティ] を表示します。
- 5 [不明なデバイスのプロパティ] の [ドライバの再インストール...] をクリックしてデバイスドライバのアップグレードウィザードを実行します。

2.2 不要なファイルについて

OS のインストールが完了した後に Runonce および Runonce2 というフォルダがそれぞれ、次のドライブに残る場合があります。これらのフォルダはご利用になるうえで必要ありませんので削除してください。

Runonce フォルダ : OS をインストールしたドライブ

Runonce2 フォルダ : C ドライブ

2.3 CD-ROM からの自動実行機能について

サーバインストール後に、CD-ROM からの自動実行機能の設定を変更するには、以下の操作を行ってください。

1 レジストリを編集できる状態にし、以下のレジストリキーの Autorun の値を以下のように変更します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\CDRom

自動実行を設定する場合は Autorun の値を 1 にします。自動実行しない場合は 0 にします。

2 マシンを再起動します。



Note

Autorun のセットアップ内容は、セットアップがすべて完了した後、システムを再起動すると反映されます。

2.4 Windows 2000 インストール後に発生するイベントログのエラーについて

Windows 2000 のインストールが完了した後に、イベントビューアのシステムログに次のイベントが表示されることがあります。本現象は、Windows 2000 Service Pack2 で修正されています。現象が発生した場合は、Windows 2000 Service Pack2 を適用してください。

種類	: エラー
イベント ID	: 9
説明	: デバイス xxxxx はタイムアウト期間内に応答しませんでした。
種類	: エラー
イベント ID	: 15
説明	: デバイス xxxxx はまだアクセスできる状態ではありません。

2.5 インストールタイプをお使いの方へ

■ インストール環境

インストールタイプでの OS のインストール環境は以下のとおりです。

項目	Windows NT	Windows 2000
インストールドライブ	C ドライブ	C ドライブ
ドライブの容量	4GB (C ドライブ)	4GB (C ドライブ)
ファイルシステム	NTFS	NTFS
ディレクトリ名	WINNT	WINNT
ディスプレイの設定 (解像度／色数)	800 × 600 ピクセル／ High Color (16 ビット)	800 × 600 ピクセル／65536 色*
メンテナンス区画	150MB	150MB

* Windows 2000 の場合、ディスプレイの設定のリフレッシュレートは 60Hz になります。ただし、接続されたディスプレイによって設定が異なります。

■ SCSI アレイカード搭載モデルをお使いの場合

インストールタイプの SCSI アレイコントローラカードが搭載されているモデルで、導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、SCSI アレイコントローラカードの管理ソフトウェアはインストールされません。サーバ本体、または SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照して、管理ソフトウェアをインストールしてください。

■ 複数の LAN アダプタを搭載した場合

複数の LAN アダプタを搭載したプレインストールタイプを開封する際、ServerStart では 1 つの LAN アダプタに対してのみネットワークプロトコルを設定することができます。他の LAN アダプタについては、開封処理終了後、手動でネットワークの設定を行ってください。また、オプション LAN カードを搭載している場合は、ドライバが自動インストールされないことがあります。フロッピービルダを使って、搭載しているオプション LAN カード用のドライバディスクを作成し、手動でドライバをインストールしてください。詳細は、「1 バックアップディスクを作成する (フロッピービルダ)」(P.134) を参照してください。

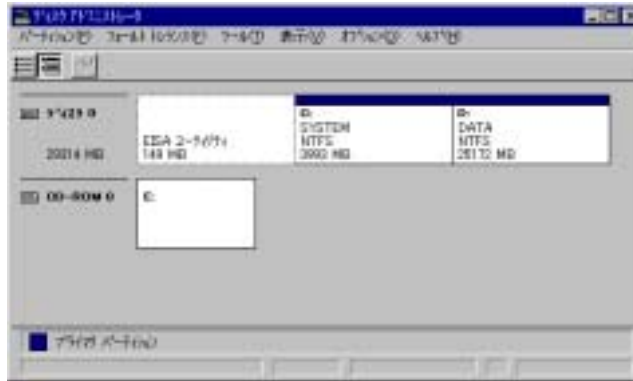
■ Windows NT Server のインストールに失敗したとき

ServerStart からサーバへのインストールを行っている途中で失敗があった場合は、再インストールを行う必要があります。インストール時に使用していたコンフィグレーションファイルは、再インストールには利用できません。一度フロッピーディスクを初期化して最初からやり直してください。

3 メンテナンス区画について

ServerStart でのインストール時に、メンテナンス区画を作成すると指定した場合は、メンテナンス区画が 150MB で作成されます。

Windows NT のディスクアドミニストレータを使用した場合は、メンテナンス区画は「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま、削除せずに使用してください。



4 同様のシステムを構築するとき (コンフィグレーションファイルの作成)

WizardConsole で追加、変更した設定情報をフロッピーディスク、またはハードディスクに保存します。コンフィグレーションファイルは、別のサーバ構築時に使用できます。

Note

- コンフィグレーションファイルに保存される情報は、以下のものだけです。
 - コンピュータアカウント
 - インストール時に作成したユーザアカウント、グループ、共有資源の設定
 - デスクトップ設計情報
- パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、コンフィグレーションファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップには使用できません。
システムのバックアップは専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

- 1 WizardConsole 画面で [コンフィグレーションファイルの作成] を選択します。
ファイル名を付けて保存画面が表示されます。
- 2 サーバ情報ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。

Note

ファイル名には、任意の名前を使用できますが、SerStartBatch.ini という名前のファイルのみ OS のインストールが可能です。

- 3 [保存] をクリックします。
コンフィグレーションファイルが作成され、WizardConsole 画面に戻ります。

Note

- WizardConsole で作成したコンフィグレーションファイルは、そのまま複製モードでインストールできません。必ず ServerStart ガイドモードまたは事前設定モードでコンフィグレーションファイルの内容を確認し、適切に修正してから上書き保存してご使用ください。
- Windows NT、Windows 2000 および WizardConsole で予約されているグループ、ユーザ、共有資源の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は更新されません。再インストール後、WizardConsole で設定しなおしてください。

5 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成について

WizardMenu とは、クライアントコンピュータに表示するアプリケーション起動ツールです。ボタンにアプリケーションの起動を割り当てたり、画像を利用して自由に作成することができます。

WizardMenu は、IE 上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。WizardMenu 上のボタンは、WizardMenu 作成ツールを使用して作成します。ボタンの大きさを変更したり、画像データをボタンにはり付けたり、自由な形式で作成することができます。

■ メニュー作成例



WizardMenu を作成するには、「WizardMenu 作成ツール」を使用します。WizardMenu 作成ツールは、サーバインストール終了後に [スタート] ボタンから [プログラム] - [ServerStart] - [Wizard Menu 作成ツール] を選択して起動します。

5.1 動作環境

項目	説明
動作 OS	Windows NT SV 4.0 / Windows 2000 SV
必須ソフトウェア (WWW サーバ)	Microsoft® Internet Information Server 3.0 以降 未インストールの場合、Wizard Menu が正しく表示されません。
必須ソフトウェア (WWW クライアント)	Microsoft® Internet Explorer 3.02 以降
選択ソフトウェア	WizardMenu 作成ツールで作成した Web メニューを編集するときには必要です。 - Microsoft® FrontPage® Express (Microsoft インターネット エクスプローラ 4.0 に添付) - Microsoft® FrontPage® - Microsoft® Visual InterDev™

5.2 WizardMenu を作成する

WizardMenu 作成ツールで作成した WizardMenu は、HTML ファイルとして指定のディレクトリに格納します。なお、WizardMenu 作成ツールでは、HTML ファイルとしての保存はできませんが、再度、その HTML ファイルを編集することはできません。

編集する場合は、WizardMenu 作成ツールの [ファイル] メニューの [WizardMenu 形式] (拡張子 .SWM) で保存してから編集操作を行ってください。

- 1 [スタート] ボタンから [プログラム] - [ServerStart] - [WizardMenu 作成ツール] を選択します。
- 2 [ファイル情報] タブを選択し、HTML ファイルの格納先、ファイル名を指定します。

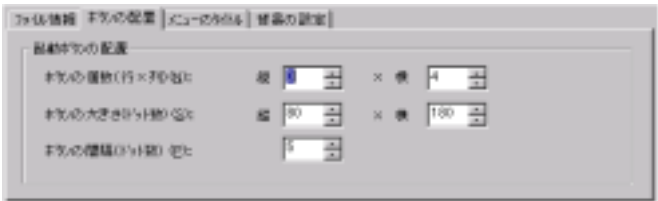


項目	説明
ファイル名	保存するファイル名を指定します。指定できる文字列長は、保存先と合わせて 259 バイトまでです。
保存先	保存するファイルのディレクトリを指定します。指定できる文字列長は、ファイル名と合わせて 259 バイトまでです。
[参照]	ファイル名を指定するダイアログが表示されます。ファイル名を指定すると「ファイル名」と「保存先」に情報が表示されます。

Point

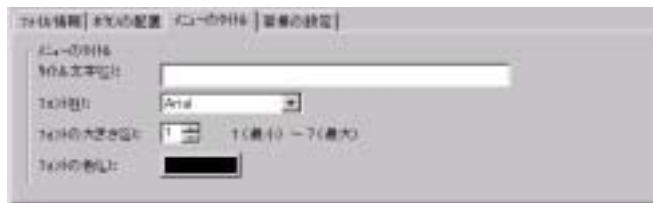
- ファイル名と保存先に情報を入力するまで、他のタブ情報 (ボタンの配置 / メニューのタイトル / 背景の設定) を表示することはできません。

- 3 [ボタンの配置] タブを選択し、表示するボタンの情報を設定します。

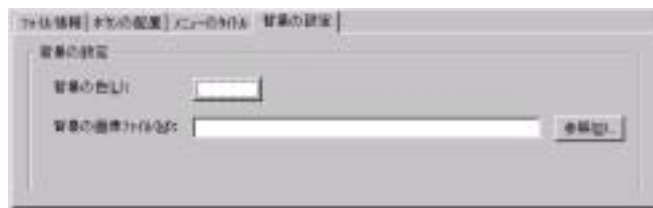


項目	内容
ボタンの個数	ボタンの個数を縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 4、横は 3 が設定されています。ボタンの個数（縦と横）は、カーソルが次のフィールドへ移動した時点で反映されます。個数に変更がある場合は、行が追加または削除されるメッセージが表示されます。指定できる範囲は、1 ～ 20 です。
ボタンの大きさ	ボタンの大きさを縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 80、横は 180 が設定されています。指定できる範囲は、縦が 20 ～ 200、横が 20 ～ 600 です。
ボタンの間隔	ボタンとボタンの間隔をドット単位で指定します。デフォルトでは、5 が設定されています。指定できる範囲は、1 ～ 100 です。

4 [メニューのタイトル] タブを選択し、表示するメニュータイトルのフォントの大きさや色を設定します。

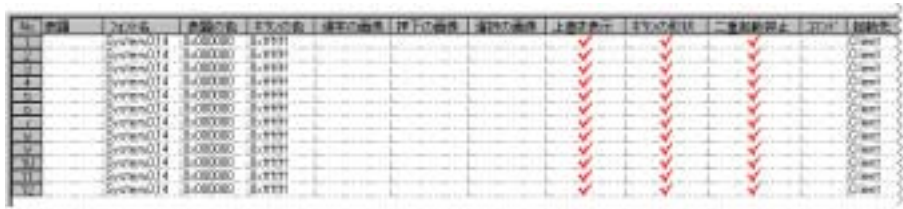


5 [背景の設定] タブを選択し、表示する背景の情報を設定します。



項目	内容
背景の色	背景の色を指定します。デフォルトは、白です。ボタンを選択すると、色を選択するダイアログが表示され、色を変更できます。
背景の画像ファイル	背景で表示する画像ファイルを指定します。[参照] ボタンを選択すると、ファイル名を指定するダイアログが表示されます。ファイル名を指定するダイアログでファイルを選択すると、ファイル名が表示されます。指定できる画像データは、BMP、GIF、JPG です。

6 各ボタンの設定をします。



項目	内容
表題	ボタンに表示する表題を指定します。指定可能な文字列長は、64 文字です。表題は、ボタン上にセンタリングされて表示されます。そのため、ボタンの大きさより長い文字列を指定すると、文字列の両端が欠けたように表示されます。
フォント名	表題のフォント名を指定します。
表題の色	表題の文字の色を指定します。
ボタンの色	ボタンの色を指定します。
通常時の画像ファイル	ボタンが選択されていないとき表示する画像データを指定します。
押下時の画像ファイル	ボタンが選択されているとき表示する画像データを指定します。
フォーカス時の画像ファイル	ボタンにフォーカスが当たっているとき表示する画像データを指定します。
上書き表示	ON にすると表題の文字を画像データの上に表示します。
ボタンの形状	ON にすると立体タイプ、OFF にすると平面タイプのボタンを表示します。
二重起動抑止	ON にすると起動するコマンドの二重起動を抑止します。
コマンド	ボタンを押したときに起動するコマンドを指定します。
起動先	
ClientWeb	Web メニューが表示されているクライアントコンピュータで指定したコマンドを起動します。
Server	サーバで指定したコマンドを起動します。
起動ホスト名	起動するサーバ名を指定します。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
タイムアウト	サーバとの通信タイムアウト時間をしています。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
ユーザ認証	
指定なし	ユーザ名、パスワードの指定をしません。
1 回のみ	ボタンを選択した 1 回目だけにユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。
必ず指定	ボタンを選択する度に、必ずユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。

7 [ファイル] - [WizardMenu 形式] - [保存] を選択します。

WizardMenu を WizardMenu 形式（拡張子 .SWM）で保存します。

6 WizardConsole のアンインストール

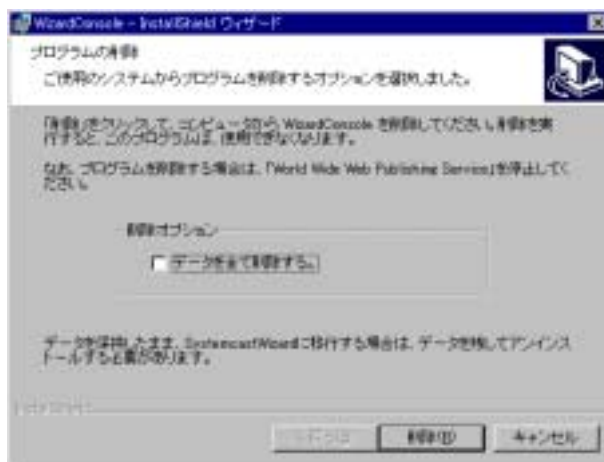
WizardConsole のアンインストール方法について説明します。

WizardConsole 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

Note

WizardConsole のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

- 1 コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2 「WizardConsole」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
次の画面が表示されます。

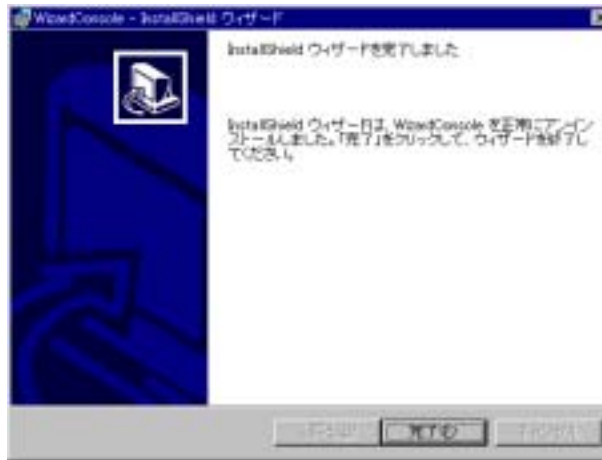


Point

- 「データを全て削除する」をチェックした場合は、クライアントセットアップ、リモート OS セットアップなどにより既に取り込み済みのデータ全てが削除されます。チェックしない場合は、削除されません。削除する場合は手動でデータフォルダを削除してください。

3 「削除」をクリックします。

アンインストールが行われ、次の画面が表示されます。



4 「完了」をクリックします。

システムを再起動します。

Note

アンインストール後は、必ずシステムを再起動してください。

Point

- アンインストール後、インストール時に自動的に作成されるユーザアカウント (SWClientSetupUser、SWSetupUser) が必要ない場合は、以下の手順に従ってアカウントを削除してください。
 - < Windows NT ドメインコントローラ >
「プログラム」の「管理ツール (共通)」 - 「ドメインユーザマネージャ」を起動し、「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
 - < Windows 2000 ドメインコントローラ >
コントロールパネルの「管理ツール」 - 「Active Directory ユーザとコンピュータ」を起動し、作成した OU または User から「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
- アンインストール後、次のフォルダが残る場合があります。エクスプローラなどを利用して、手動で削除してください。
 - C:\WZCNSL
 - C:\WZCNSL\desktop フォルダが残っている場合は、「World Wide Web Publishing Service」を停止してからフォルダを削除してください。

第2部 運用編 高信頼ツールについて

PRIMERGY に添付されているサーバ監視ツール、システム診断ツールなどの概要とインストール方法について説明しています。

内 容

第1章	高信頼ツールについて	149
第2章	サーバ監視ツール [ServerView]	159
第3章	その他の支援ツール	175

第 1 章

高信頼ツールについて

高信頼ツールの概要について説明しています。

1	高信頼ツールの紹介	150
2	サーバ監視ツールの概要 [ServerView]	153
3	高信頼ツールの導入	158

1 高信頼ツールの紹介

高信頼ツールは、サーバの管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧までを次の各ツールが役割を分担します。

- サーバ監視ツール
- 運用管理支援ツール
- システム診断支援ツール
- 遠隔保守支援ツール

1.1 サーバ監視ツール

サーバ監視ツールとは、管理者に代わってハードウェアの状態を監視し、異常発生時には管理者に通知を行うツールのことです。次の2つの役割があります。

役割	サーバ監視ツール
サーバ異常の早期発見	ServerView
ディスク異常の早期発見	RAID 管理ツール

■ サーバ異常の早期発見 [ServerView]

ServerView は、サーバの大切な資源を保護するために、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバのハードウェアが常時監視下に置かれ、万一トラブルの原因となり得る異常が検出された場合には、管理者にリアルタイムに通知されるため早期発見ができます。これにより、サーバの管理者は早期に対応してシステムの異常を取り除き、トラブルを未然に防ぐことができます。

▶ ServerView の概要⇒「2 サーバ監視ツールの概要 [ServerView]」(P.153) 参照

■ ディスク異常の早期発見 [RAID 管理ツール]

RAID 管理ツールは、ディスクアレイの監視を行うソフトウェアです。RAID 管理ツールは Windows NT/Windows 2000 システムのサービスとして動作し、イベントが発生した場合、イベントビューアのアプリケーションログにイベントログを残し、同時にウィンドウがポップアップしてハードディスクの故障、リビルド状況などを表示して知らせます。

■ 定期交換部品の状況監視 [RAS 支援サービス]

RAS (Reliability, Availability, Serviceability) 支援サービスは、サーバの定期交換部品である電源／ファン／ SCSI アレイコントローラカード上のバッテリー／ UPS のバッテリーの状況を監視し、定期交換部品の交換時期になったときに通知する機能を持ったソフトウェアです。



Note

RAS 支援サービスは、ServerStart を使用して新規インストールを行うと自動的にインストールされます。

RAS 支援サービスは、高信頼ツールメニューからはインストールできません。手動でインストールを行う場合は、サーバ本体の取扱説明書の記述にしたがってインストールしてください。

1.2 運用管理支援ツール

運用管理支援ツールとは、サーバの運用が常にうまく行われるようにするための装置の管理を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役割	運用管理支援ツール
テープ装置の管理	Tape Maintenance Checker
効率的な電源制御	Power MANagement for Windows

■ テープ装置の管理 [Tape Maintenance Checker]

テープ装置のクリーニング間隔を監視し、クリーニングが必要な場合に管理者へ通知することにより、確実なバックアップを実現します。

■ 効率的な電源制御 [Power MANagement for Windows]

コンソール側のソフトウェア（電源制御）から Wakeup On LAN 対応機のエージェントの電源を投入および切断（自動シャットダウン）します。

1.3 システム診断支援ツール

システム診断支援ツールとは、通常の運用時や万一のトラブル発生時などのシステム状態の診断を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役 割	システム診断支援ツール
システムの健康診断	FM Advisor
トラブル原因の早期発見	PROBEPRO、DSNAP

■ システムの健康診断 [FM Advisor]

FM Advisor は、お使いのコンピュータの動作環境を調査し、アドバイスするべき情報がないかをチェックするアプリケーションです。また、コンピュータの動作環境取得ツールとしてもお使いいただくことができ、これらの情報を利用して、問題の解決に役立てることができます。

■ トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO / DSNAP]

● PROBEPRO

PROBEPRO は、お客様の Windows NT/Windows 2000 システムでトラブルが発生した際に、弊社サポート技術者がトラブル発生前後のシステム環境の変更点や特異点を客観的に特定し、トラブル解決をより迅速に行うことを目的としたトラブル解決支援プログラムです。

PROBEPRO は、Windows NT/Windows 2000 システムのトラブル発生に備えて、システム稼動中にシステム情報（モジュール情報、レジストリ情報、パフォーマンス情報）を収集します。収集したパフォーマンス情報から、システム全体やプログラム単位のメモリ使用量をグラフ作成することができます。

● DSNAP

DSNAP は、障害調査用資料を一括して採取するコマンドラインユーティリティです。システムファイルの構成情報や主要なレジストリの設定、イベントログをコマンドライン操作で容易に採取できます。

DSNAP は、お客様の Windows NT/Windows 2000 システムに問題が発生した際に、弊社サポート技術者がお客様のシステム・ソフトウェア構成および設定状況を正確に把握し、調査を円滑に進めるために使用します。メモリダンプと共に弊社サポート技術者にお渡しください。

1.4 遠隔保守支援ツール

遠隔保守支援ツールとは、遠隔地からのサーバの保守を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役割	遠隔保守支援ツール
サーバの遠隔操作	SystemWalker / LiveHelp® Client V5.2
サポートサービス	REMCS エージェント

■ サーバの遠隔操作 [SystemWalker/LiveHelp® Client V5.2]

SystemWalker / LiveHelp® Client V5.2 (以下 LiveHelp Client と略します) は、離れた場所に設置されたサーバをリモート操作するためのソフトウェアです。LiveHelp Client を使うことにより、サーバの管理者は自席に居ながら、離れた場所に設置されたサーバを自由に操作できます。

▶ 操作などについて⇒第3章

「6 サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]」(P.185) 参照

■ サポートサービス [REMCS エージェント]

弊社サポートセンタとの連携サービス (リモート保守サービス) をご利用になる際に使用するソフトウェアです。

REMCS エージェントを使用するには、動作環境として「ServerView」が必要です。

▶ REMCS エージェントについて⇒「REMCS エージェント 運用ガイド」参照

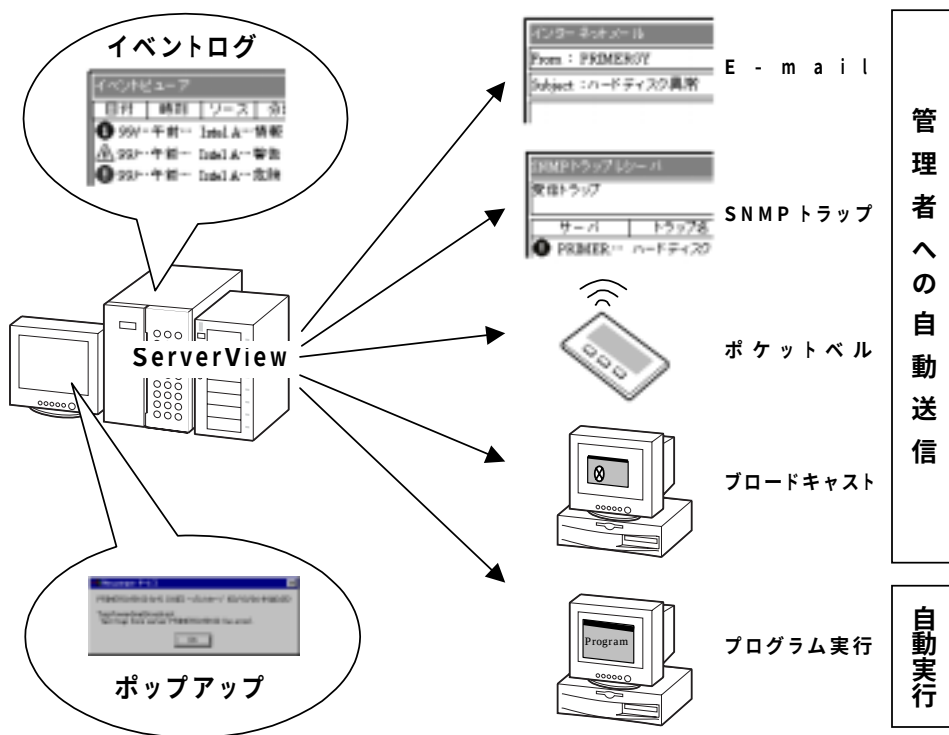
2 サーバ監視ツールの概要 [ServerView]

サーバ監視ツール「ServerView」は、ネットワーク上の各サーバのハードウェアの状態を常時監視するとともに、管理者がすべてのサーバの状態を一手に確認できるコンソールを提供します。また、万一異常が発生した場合には、早期対応が図れるように、管理者にリアルタイムに知らせてくれるソフトウェアです。

2.1 異常発生のお知らせ

ServerView は、サーバのハードウェアの監視により異常を発見すると、リアルタイムにさまざまな方法で管理者に通知します。異常の通知方法は、次の図のとおり豊富に用意されています。サーバの管理者はどこにいてもすぐに通知を確認することができます。

■ 万一サーバで異常が発生すると ...



2.2 ハードウェアの監視

ServerView は、管理者に代わってサーバのハードウェアの状態が正常かどうかを常時監視します。サーバのハードウェアの各部からサーバに搭載されたオプション装置にいたるまで必要な監視を行います。ServerView で監視できるサーバのハードウェアおよびオプション装置は次のとおりです。

■ サーバ

監視できるハードウェア	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	CPU・筐体内の温度
CPU	エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファンの障害
筐 体	筐体の開閉
メモリ	エラー
電 源	故 障

■ オプション装置

監視できるオプション装置	監視概要
オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスクユニット	デバイス情報の表示
SCSI カード	カード情報の表示
SCSI アレイコントローラカード	ドライブ一覧の表示 カード情報の表示 デバイス情報の表示
LAN カード	インターネット情報の表示 イーサネット MAC 統計情報の表示

2.3 ハードウェアの状態の表示

サーバの管理者は、ServerView により監視されたサーバの現在のハードウェアの状態を、管理コンソールに表示させて確認できます。

ServerView には次の 3 つのソフトウェアがコンポーネントされており、それぞれには、役割の異なる管理コンソールが含まれています。

ServerView の コンポーネント	含まれている管理コンソール	
	表示できる場所	役割
ServerView Basic*1	監視対象サーバ	自サーバのみの状態を表示
ServerView Full*1	監視対象サーバ	すべての監視対象サーバの状態を一括表示（集中管理）
ServerView Console*2	任意のパソコン	すべての監視対象サーバの状態を一括表示（管理端末で集中管理）

* 1 サーバの監視機能と管理コンソールがセットで含まれています。

* 2 管理コンソールのみが含まれ、パソコンにのみインストールできます。

ServerView で、ネットワークを管理しやすい最適な監視システムを構築するには、これらの管理コンソールを、目的に応じてご使用いただく必要があります。

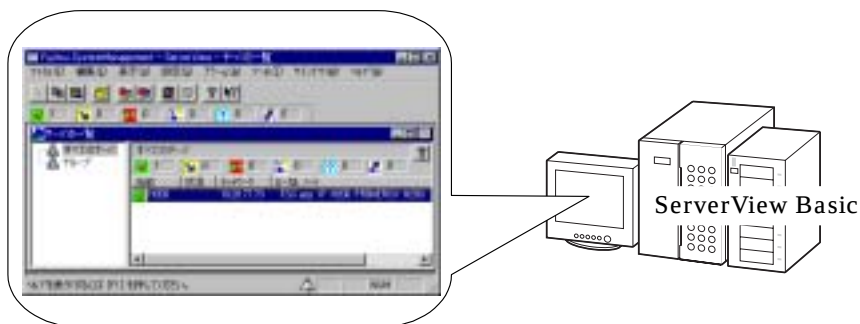
次に示すように、それぞれの場合に応じてご使用いただくと最適な結果が得られます。ただし、ServerView Basic/Full には共通のサーバの監視機能もいっしょに含まれていますので、監視対象のサーバには、どちらかをインストールする必要があります。

▶▶ ServerView のインストールについて⇒第 2 章「サーバ監視ツール [ServerView]」(P.159) 参照

■ ServerView Basic に含まれている管理コンソール

この管理コンソールは、監視対象のサーバ上で、自サーバの状態のみを表示できます。

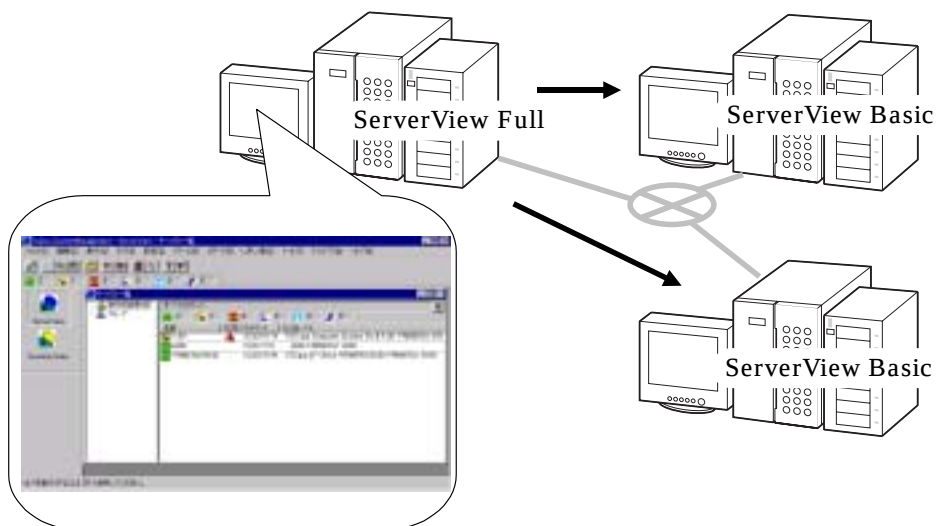
管理するネットワークが小規模で監視対象のサーバがすべて管理者の近くにある場合などには、この管理コンソールだけで足りてしまうこともあります。



■ ServerView Full に含まれている管理コンソール

この管理コンソールは、任意の監視対象のサーバ上で、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。

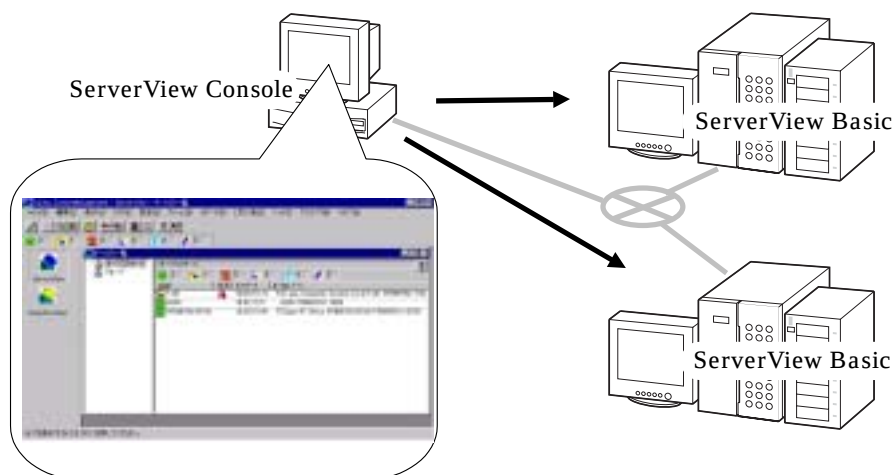
任意の監視対象のサーバが管理者の近くにあり、他の監視対象のサーバが管理者から離れた場所にある場合などに最適です。



■ ServerView Console（管理コンソールのみ含まれる）

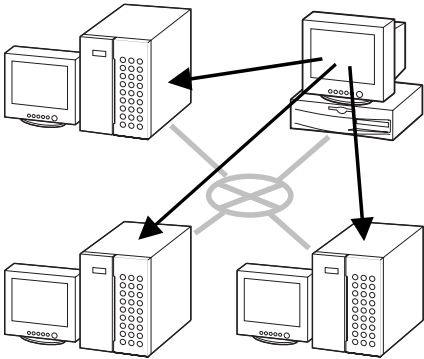
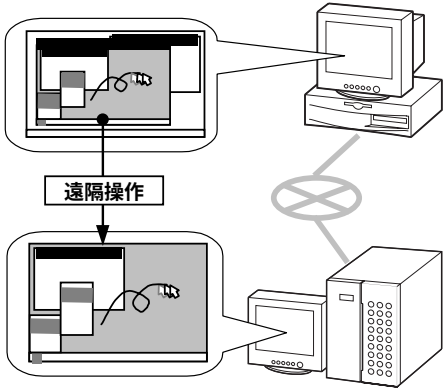
この管理コンソールは、任意のパソコン上で、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。

任意の監視対象のサーバが管理者の近くでない場合、あるいは、大規模なネットワークを管理する場合などに最適です。この管理コンソール（ServerView Console）がインストールされたパソコンは、管理端末と呼ばれます。



2.4 集中管理 / 遠隔操作 / サーバダウン時の通知

これまでに紹介された基本的な機能の他に、運用時のヒントとなる集中管理 / 遠隔操作 / サーバダウン時の通知について、次の表に示します。

重要な機能	運用時のヒント
集中管理 	- 管理端末、あるいは ServerView Full がインストールされたサーバの管理コンソールに、複数のサーバの状態を一括表示させ、一括管理できる。 - LiveHelp^{*1} と ServerView Basic のみを併用した場合には、任意のサーバまたはパソコンから複数のサーバの状態を、一台ずつ単独でディスプレイに表示させての管理となる。 - SystemWalker と ServerView Full を併用すると、集中管理するサーバに、各サーバ（LAN 内）のイベントログを収集できる。
遠隔操作 	LiveHelp^{*1} と ServerView を併用すると、万一異常発生のお知らせを受けた場合などに、サーバの画面を遠隔操作できるため早期対応が図れる。また、ネットワークの規模が小さい場合には、管理端末の代わりに遠隔操作で管理できる（上記の集中管理を参照）。
サーバダウン / OS ハング時の通知	サーバにリモートサービスボード（PG-RSB101：オプションハードウェア製品）を搭載することにより可。

*1 サーバ本体には、監視される側のサーバにインストールする LiveHelp Client V5.2 が標準で添付されています。LiveHelp の機能をご使用いただくためには、サーバを監視する側のパソコンにインストールするソフトウェアを別途ご購入いただく必要があります。詳細については「第 3 章」の「6 サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]」（P.185）を参照してください。

3 高信頼ツールの導入

PRIMERGY に添付の高信頼ツールは、各ツールの標準のインストーラで導入する方法のほか、PRIMERGY に添付のサーバ導入支援ツール「ServerStart」により簡単に導入する方法が提供されています。高信頼ツールは、次のいずれかの方法で導入できます。

- ServerStart により OS 導入時に一括インストールする
- ServerStart の高信頼ツールメニューからインストールする
- 各ツールの標準のインストーラによりインストールする

PRIMERGY では、高信頼ツールを ServerStart により導入することを推奨しています。ここでは、それぞれのインストール方法について説明しています。

3.1 ServerStart により OS 導入時に一括インストールする

ServerStart は、サーバの導入時に高信頼ツールを一括してインストールする導入支援機能を提供しています。

▶▶ サーバの導入時の一括インストールについて⇒「第1部 導入編」(P.1) 参照



- 一括インストールは、Tape Maintenance Checker、Power MANagement for Windows を除く高信頼ツールについて行えます。

▶▶ Tape Maintenance Checker / Power MANagement for Windows のインストール方法
⇒第3章「その他の支援ツール」(P.175) 参照

- 高信頼ツールを ServerStart で一括インストールした場合には、ServerView および PROBEPRO についてのみ、継続して標準のインストーラによるインストール / 設定作業が必要です。

▶▶ ServerView の継続作業について⇒「第2章」(P.159) 参照

▶▶ PROBEPRO の継続作業について⇒第3章「4 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO] –サーバ環境の更新履歴の確認」(P.180) 参照

- RAID 管理ツールは、RAID カードが搭載されている場合に自動でインストールされます。

3.2 各ツールの標準のインストーラによりインストールする

高信頼ツールには、各ツールごとにそれぞれ標準のインストーラが添付されています。各ツールはこのインストーラを使用してインストールすることもできます。標準のインストーラを使用したインストール方法については、各ツールの章を参照してください。

▶▶ 第2章「サーバ監視ツール [ServerView]」(P.159) 参照

▶▶ 第3章「1 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]」(P.176) 参照

▶▶ 第3章「2 クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]」(P.177) 参照

▶▶ 第3章「3 システム環境の診断機能 [FM Advisor]」(P.178) 参照

▶▶ 第3章「4 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO] –サーバ環境の更新履歴の確認」(P.180) 参照

▶▶ 第3章「5 トラブル原因の早期発見 [DSNAP] –サーバ環境情報の一括取得」(P.184) 参照

▶▶ 第3章「6 サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]」(P.185) 参照

第 2 章

サーバ監視ツール [ServerView]

ServerView を標準のインストーラでインストール/アンインストールする方法について説明しています。

1	インストールの準備	160
2	サーバに ServerView をインストールする	165
3	ServerView の管理端末を構築する	167
4	インストール後のサーバの設定について	168
5	管理端末から管理コンソールをアンインストールする ..	171
6	サーバから ServerView をアンインストールする	173
7	オプション装置を追加監視する	174

1 インストールの準備

ServerView は、OS 導入時に、ServerStart により OS や他の高信頼性ツールと同時に一括インストールすることができます。ただし、ServerStart でインストールできるのは、ServerView Basic のみです。ServerView Full および ServerView Console をインストールする場合には、OS 導入後に、添付されている ServerView 標準インストーラを使用する必要があります。標準のインストーラには、次の 5 つがあり、ServerView の各ソフトウェアをインストール / アンインストールできます。

- ServerView Basic のインストーラ
- ServerView Full のインストーラ
- ServerView Console のインストーラ
- Server View Basic/Full 共通のアンインストーラ
- ServerView Console のアンインストーラ

ServerView をインストールする前に、インストールが正しく行われるように準備をしておく必要があります。

1.1 必要なシステム

● サーバ

サーバのシステム	動作条件
使用メモリ	32MB 以上
ハードディスク	空き領域が 130MB 以上
ディスプレイ	SVGA (800 × 600) 以上の解像度 (推奨: 1024 × 768)
LAN カード	必要 (オンボード LAN でも可)
マウス	必要
モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。サポートしているモデムについては、弊社の「PRIMERGY システム構成図」をご覧ください。
ネットワーク OS	・ Windows 2000 ServicePack1 以降 ・ Windows NT SV 4.0 ServicePack 6a 以降 ・ Windows NT Server/ E 4.0 ServicePack 6a 以降
プロトコル	TCP/IP が動作していること。
サービス	SNMP (サービスおよびトラップ) が動作していること。
アプリケーション	Microsoft Internet Explorer 4.0 以降 (推奨 Microsoft Internet Explorer 5.5)。また、Microsoft Virtual Machine 機能は必須です。
アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること。

● 管理端末

パソコンのシステム	動作条件
パソコン	IBM PC 互換機
プロセッサ	Pentium® 以上
メモリ	32MB 以上
ハードディスク	空き領域が 130MB 以上
ディスプレイ	SVGA (800 × 600) 以上の解像度 (推奨: 1024 × 768)
LAN カード	必要 (オンボード LAN でも可)
マウス	必要
モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由でサーバ監視を通知する場合にのみ必要
ネットワーク OS	• Windows 2000 ServicePack1 以降 • Windows NT WS 4.0 ServicePack 6a 以降
プロトコル	TCP/IP が動作していること
サービス	SNMP (サービス及びトラップ) が動作していること
アプリケーション	Microsoft Internet Explorer 4.0 以降 (推奨 Microsoft Internet Explorer 5.5) Microsoft Virtual Machine 機能必須
アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること (Windows NT、Windows 2000 の場合に必要)

1.2 動作環境を設定する (TCP/IP プロトコル、SNMP サービスの設定)

ServerView が正しく動作するためには、監視機能をインストールするサーバに、TCP/IP プロトコル、SNMP サービスが正しく設定されている必要があります。

TCP/IP プロトコル、SNMP サービスを設定するには、サーバの OS により、次のそれぞれの手順で操作します。

■ Windows NT の場合

- 1 Windows NT のコントロールパネルから「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ネットワーク」ダイアログボックスで、「プロトコル」タブを選択します。
- 3 「ネットワークサービス」ボックスのリストの中に「TCP/IP」が表示されていない場合には、次の操作で TCP/IP をインストールします。
 1. [追加] をクリックします。
 2. 「ネットワークサービス」ボックスのリストの中から「TCP/IP」を選択し、[OK] をクリックします。
 3. メッセージにしたがって操作します。
- 4 「ネットワーク」ダイアログボックスで、「サービス」タブを選択します。
- 5 「ネットワークサービス」ボックスのリストの中に「SNMP サービス」が表示されていない場合には、次の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. [追加] をクリックします。
 2. 「ネットワークサービス」ボックスのリストの中から「SNMP サービス」を選択し、[OK] をクリックします。
 3. メッセージにしたがって操作します。
- 6 「ネットワークサービス」ボックスのリストの中の「SNMP サービス」を選択して「プロパティ」をクリックします。
- 7 「トラップ」タブを選択します。
- 8 コミュニティ名ボックスに「public」を入力して「追加」をクリックします。
- 9 「追加 ...」をクリックします。
- 10 コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、「追加」をクリックします。
- 11 「セキュリティ」タブを選択します。
- 12 次のいずれかの操作を行います。
- ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」、権利「READ_CREATE」が存在する場合、SNMP のプロパティウィンドウを閉じて終了します。
 - ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在するものの、権利が「READ_CREATE」でない場合は、次の操作で権利を変更します。
 1. コミュニティ「public」を選択します。
 2. [編集] をクリックします
 3. 「コミュニティ権利」コンボボックスから「READ_CREATE」を選択します。
 4. [OK] をクリックします。
 - ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在しない場合は、次の操作でコミュニティを追加します。
 1. [追加] をクリックします。
 2. 「コミュニティ権利」コンボボックスから「READ_CREATE」を選択します。
 3. 「コミュニティ」ボックスに「public」と入力します
 4. [追加 ...] をクリックします。

 Note

Windows NT のインストールの際に、サービスパックを適用してから SNMP サービスをインストールした場合は、再度サービスパックを適用してください。

■ Windows 2000 の場合

- 1 Windows 2000 コントロールパネルから「ネットワークとダイヤルアップ接続」アイコンをダブルクリックします。
- 2 メニューバーの「詳細設定」より、「オプションネットワークコンポーネント」を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - ・「オプションネットワークコンポーネントウィザード」において「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合は、「管理とモニタツール」を選択し、[詳細] をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」がサブコンポーネントとしてチェックされているかを確認してください。チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 4 に進んでください。
 - ・「オプションネットワークコンポーネントウィザード」において「管理とモニタツール」がチェックされていない場合は、次の操作で SNMP サービスをインストールします。
 1. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」のチェックボックスをクリックして選択します。
 2. [詳細] をクリックし、「管理とモニタツール」のサブコンポーネントとして「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
 3. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で [次へ] をクリックします。
 4. メッセージにしたがって操作します。
- 4 コントロール パネルから [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 5 [コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。
- 6 コンソール ツリーで、[サービスとアプリケーション] - [サービス] をクリックします。
- 7 詳細情報のウィンドウ領域で [SNMP Service] をクリックします。
- 8 [操作] メニューのプロパティをクリックします。
- 9 「トラップ」タブをクリックします。
- 10 コミュニティ名ボックスに「public」と入力して [追加] をクリックします。
- 11 [追加 ...] をクリックします。
- 12 コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、[追加] をクリックします。

13 「セキュリティ」タブを選択します。

14 次のいずれかの操作を行います。

- ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在するものの、権利が「READ_WRITE」でない場合は、次の操作で権利を変更します。
 1. コミュニティ「public」を選択します。
 2. [編集] をクリックします。
 3. 「コミュニティ権利」コンボボックスから「READ_WRITE」を選択します。
 4. [OK] をクリックします。
- ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在しない場合は、次の操作でコミュニティを追加します。
 1. [追加] をクリックします。
 2. 「コミュニティ権利」コンボボックスから「READ_WRITE」を選択します。
 3. 「コミュニティ」ボックスに「public」と入力します。
 4. [追加 ...] をクリックします。
- ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」権利「READ_WRITE」が存在する場合、SNMP のプロパティウィンドウを閉じて終了します。

2 サーバに ServerView をインストールする

サーバに ServerView をインストールするには、ServerView Basic / Full のどちらをインストールする場合にも、次の操作を行います。

▶ServerView Basic / Full について⇒第 1 章「2.3 ハードウェアの状態の表示」(P.154) 参照

Note

- ・作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けておいてください。
- ・ServerStart で ServerView をインストールした場合など、サーバに ServerView Basic がインストール済のサーバには、ServerView Full を追加インストールすることはできません。ServerView Full に変更したい場合には、一度 ServerView Basic をアンインストールしたあとで、新規に ServerView Full をインストールしてください。

▶ServerView Basic のアンインストール方法について
⇒「6 サーバから ServerView をアンインストールする」(P.173) 参照

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 3 ServerView の CD-ROM から、次のいずれかの操作を行います。
 - ・「ServerView Full」をインストールする場合
ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。
<CD-ROM のドライブ>:\SVMANAGE\JAPANESE\SV_FULL.EXE
 - ・「ServerView Basic」をインストールする場合
ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。
<CD-ROM のドライブ>:\SVMANAGE\JAPANESE\SV_BASIC.EXE
 ServerView System Requirements が表示されます。
- 4 インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。
「Install Options」ダイアログが表示されます。
- 5 オプション装置を追加監視するために必要なエージェントを追加します。追加するエージェントを選択して、[OK] をクリックします。
ServerView Hints が表示されます。

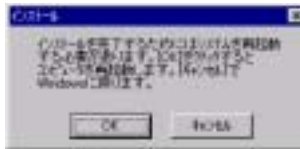
Note

何も選択せずに [OK] をクリックすると、基本のエージェント機能のみがインストールされます。

▶ オプション装置の監視に必要なエージェントについて
⇒ ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」参照

- 6 インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。

- 7 インストールを完了すると、システム再起動メッセージが表示されます。すぐに再起動する場合は [OK] を、あとから再起動を行う場合は [キャンセル] をクリックします。



 Note

- 途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。
- ServerView をインストールすると、同時に管理コンソールとアラームサービスがインストールされます。アラームサービスは、監視対象のサーバから SNMP トラップで受け取った状態をモニタしたり、受け取る情報を選択したりするサービスです。
 - ▶ 使用方法⇒ ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」参照

3 ServerView の管理端末を構築する

ServerView の監視システムで管理端末を使用したい場合には、管理端末に使用したい任意のパソコンに ServerView Console をインストールします。

ServerView Console をインストールするには、次の操作を行います。

▶ ServerView Console について⇒第 1 章「2.3 ハードウェアの状態の表示」(P.154) 参照

Note

新規に管理端末を構築する前に、必ず動作環境の設定を行ってください。

▶ 動作環境の設定について⇒「1 インストールの準備」(P.160) 参照

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。
<CD-ROM のドライブ>:\SVMANAGE\JAPANESE\CONSOLE.EXE
- 4 ServerView System Requirements が表示されます。インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。
- 5 ServerView Hints が表示されます。インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。
- 6 インストールを完了すると、システム再起動メッセージが表示されます。すぐに再起動する場合は [OK] を、あとから再起動を行う場合は [キャンセル] をクリックします。



Note

- 途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。
- 管理コンソールをインストールすると、同時にアラームサービスがインストールされます。アラームサービスは、監視対象のサーバから SNMP トラップで受け取った状態をモニタしたり、受け取る情報を選択したりするサービスです。

▶ 使用方法⇒ ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」参照

4 インストール後のサーバの設定について

ServerView をインストールしたあとは、ServerView を正しく運用できるように、サーバを以下のとおり設定する必要があります。

4.1 Service Pack を適用する

ServerView を使用する前に、サーバに Service Pack の適用を行ってください。

- Windows NT4.0 の場合、Service Pack 6a 以降を適用します。
- Windows 2000 の場合、Service Pack 1 以降を適用します。



Service Pack の適用は必ず行ってください。Service Pack を適用しない場合には、動作は保証されません。

4.2 Microsoft Virtual Machine を設定する

ServerView を使用する前に、次の設定処理の適用を必ず行ってください。

1 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライバ>:\SVMANAGE\TOOLS\VMSETUP.EXE

MicroSoft Virtual Machine がインストールされます。インストールされている場合は、バージョン / レベルを確認し、古い場合にはアップデートを行います。

4.3 ServerView の監視機能を設定する

サーバに、監視処理の機能を設定する必要があります。

▶ ServerView の使用方法⇒ ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」参照

4.4 管理ユーザを設定する

監視機能は、インストールすると、デフォルトで ServerView の管理権限をもつグループ (FUJITSU SVUSER) が設定されます。このグループに属するユーザのみが ServerView で監視対象サーバの設定変更、シャットダウンなど行えます。このグループに属するユーザは自動的に作成されませんので、監視対象サーバごとに ServerView の管理者を FUJITSU SVUSER グループに追加します。

FUJITSU SVUSER グループにユーザを追加するには、次の操作を行います。

 Point

- FUJITSU SVUSER グループに、(グローバル) グループを追加しても、追加されたグループに含まれているユーザには管理権限は与えられません。FUJITSU SVUSER グループには、ユーザのみを追加してください。

■ Windows NT WS 4.0 の場合

- 1 スタートメニューから [プログラム] - [管理ツール (共通)] - [ユーザー マネージャ] を選択します。
- 2 [ユーザー マネージャ] ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。
- 3 [ユーザー] メニューの [プロパティ] をクリックします。
ユーザー アカウントのフル ネームを表示するには、[フル ネームで表示] をクリックします。
ローカル グループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。
- 4 新しいメンバーを追加するには、[追加] をクリックし、[ユーザーとグループの追加] ダイアログ ボックスで必要な情報を設定します。

■ Windows NT SV 4.0 の場合

- 1 スタートメニューから [プログラム] - [管理ツール (共通)] - [ドメイン ユーザー マネージャ] を選択します。
- 2 [ユーザー] メニューの [ドメインの選択] を選択します。
- 3 「\\ コンピュータ名」を入力し、[OK] をクリックします。
- 4 [ドメイン ユーザー マネージャ] ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。
- 5 [ユーザー] メニューの [プロパティ] をクリックします。
ユーザー アカウントのフル ネームを表示するには、[フル ネームで表示] をクリックします。
ローカル グループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。
- 6 新しいメンバーを追加するには、[追加] をクリックし、[ユーザーとグループの追加] ダイアログ ボックスで必要な情報を設定します。

■ Windows 2000 の場合

- 1 [コントロール パネル] から [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。
- 3 [コンソール ツリー] で、[ローカル ユーザーとグループ] の [グループ] をクリックします。
- 4 FUJITSU SVUSER をクリックします。
- 5 [操作] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 6 [追加] をクリックします。
- 7 追加するユーザーまたはグループの名前を下のボックスに入力するか、ユーザーまたはグループを上ボックスで選択して [追加] をクリックします。
- 8 追加するユーザー名またはグループ名を確認する場合は、[名前の確認] をクリックします。
- 9 必要なすべてのユーザーを追加したら、[OK] をクリックします。

5 管理端末から管理コンソールをアンインストールする

管理端末を他のパソコンに切り替えて使用する場合、あるいは ServerView をレベルアップする場合などには、管理端末から現在の管理コンソールをアンインストールする必要があります。アンインストールは、次の操作で行えます。

Note

- 管理コンソールをアンインストールする前に、アラームサービスおよび管理コンソールが実行中の場合には、必ず終了させてください。アラームサービスおよび管理コンソールが起動している状態でアンインストールが実行した場合、その後の OS 動作が保証されません。
- 下記のアンインストールの操作は、途中で中断したり、操作説明から外れた操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。

- 1 スタートボタンからプログラムを選択し、Fujitsu ServerView 内の UNINSTALL を実行します。



- 2 「Automatic」を選択し、[Next] をクリックします。

Note

ここでは、必ず「Automatic」を選択し実行してください。「Custom」を選択すると、アンインストールを行いたいファイル、レジストリの選択ができますが、一部のファイルやレジストリをアンインストールした場合に、その後の動作が保証されません。



3 [Finish] をクリックします。

アンインストールが開始し、進行状況が表示されます。

アンインストールが完了すると、アンインストール画面が自動的に終了します。

6 サーバから ServerView をアンインストールする

サーバをレベルアップしてサーバの監視システムを再構築する場合などには、サーバから現在の ServerView Basic / Full をアンインストールする必要があります。アンインストールは、次の共通操作で行えます。

Note

アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。

3 管理コンソールをアンインストールします。

▶ 操作方法⇒「5 管理端末から管理コンソールをアンインストールする」(P.171) 参照
(記述中の「管理端末」を「サーバ」に読み替えてください)

4 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライブ>:\SVMANAGE\JAPANESE\UNAGENT.BAT

ServerView のエージェント機能のアンインストールを開始するメッセージが表示され、アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、システムの再起動を促すメッセージが表示されます。

いずれかのキーを押して、アンインストール処理を終了してください。

7 オプション装置を追加監視する

サーバに搭載 / 接続されているオプション装置の監視機能を有効にする場合には、各オプション装置の監視ソフトウェアをインストールする必要があります。

オプション装置の監視ソフトウェアのインストールについては、各オプション装置に添付の取扱い説明書をお読みにになり、正しく行ってください。オプション装置によりインストール方法などに違いがありますのでご注意ください。

Note

- ServerStart で ServerView をインストールした場合は、「ServerView ユーザーズガイド」に従い、オプション装置の追加処理を行ってください。
- 途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。

▶ 使用方法⇒ ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」参照

第 3 章

その他の支援ツール

各ツールに添付の標準のインストーラでインストールする方法について説明しています。

1	テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]	176
2	クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]	177
3	システム環境の診断機能 [FM Advisor]	178
4	トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO] –サーバ環境の更新履歴の確認	180
5	トラブル原因の早期発見 [DSNAP] –サーバ環境情報の一括取得	184
6	サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]	185

1 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]

Tape Maintenance Checker を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

Note

- ・インストールする際には、メンテナンス対象のテープ装置がサーバに装着されていることを確認してから行ってください。
- ・インストールする際には、すべてのプログラム（ウィルスワクチンプログラムなど）を終了してください。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerStart の CD-ROM を挿入します。
- 3 [スタート] をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\PROGRAMS\Japanese\TMCHECK\Setup.exe
- 5 インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

2 クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]

Power MANagement for Windows を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerStart の CD-ROM を挿入します。
- 3 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\PROGRAMS\Japanese\PMAN\AGENT\SETUP.EXE
- 5 インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

3 システム環境の診断機能 [FM Advisor]

FM Advisor を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerStart の CD-ROM を挿入します。
- 3 スタートメニューから [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 「<CD-ROM ドライブ>:\PROGRAMS\Japanese\FMADV\SETUP.EXE」を入力し、[OK] をクリックします。
インストーラが起動します。画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。インストール終了後、システムを再起動します。

3.1 診断方法

FM Advisor を起動すると自動的に調査が開始され、調査結果が表示されます。

- 1 スタートメニューから [プログラム] - [FM Advisor] を選択します。

FM Advisor が起動します。

起動すると、自動的に定義ファイルが読みこまれ、調査が実行されます。

調査の状況はウィンドウのグラフに表示され、進行状況をチェックすることができます。なお、ファイルの検索をキャンセルしたい場合は、[キャンセル] をクリックしてください。ファイルの検索をキャンセルしても、次のシステム情報の取得が行われます。

- 2 ファイルの検索が終了すると、自動的にシステム情報の取得を実行します。

調査結果が表示されます。[OK] をクリックして、詳細情報を確認します。

Point

- [ファイル] メニューから [調査の実行] を選択してもチェックが行われます。

Note

一部、表示されない情報があります。詳細は、留意事項をご覧ください。

3.2 定義ファイルの入手方法

最新の定義ファイルは当社のホームページ "FMWORLD" の「ソフトウェアライブラリ」で公開されています。コンピュータを正確に診断するには、定義ファイルは非常に重要な役割を担います。最新の定義ファイルをご利用ください。

FM Advisor の最新バージョンの定義ファイルは、Windows 95/98 用、Windows 2000/NT 用の 2 種類があります。各 OS に対応した定義ファイルをご利用ください。異なった定義ファイルを使用した場合、FM Advisor は、正確にコンピュータを診断することができません。

FM WORLD の URL : <http://www.fmworld.net/>

ソフトウェアライブラリの URL : http://www.fmworld.net/index_down.html

3.3 留意事項

● システム情報の表示について

[表示] メニューの [システム情報の表示] で表示する環境情報において、[コンピュータ] タブ内の [機種情報] の内容が正しく表示されない場合があります。

この場合は、サーバ監視ツール「ServerView」およびサーバ本体に添付されている取扱説明書などで機種名を確認してください。

4 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO] ーサーバ環境の更新履歴の確認

標準のインストーラを使用して PROBEPRO をインストールする方法と PROBEPRO の動作環境の定義について説明します。ServerStart から PROBEPRO をインストールした場合には、PROBEPRO の動作環境の定義だけを行ってください。

▶▶ PROBEPRO の動作環境を定義する⇒「4.2 動作環境を定義する」(P.181) 参照

4.1 インストール方法

PROBEPRO を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 次のどちらかの場合にだけ、シンボルの準備を行います。
▶▶ シンボルの準備⇒「4.5 シンボルファイルの準備」(P.182) 参照
 - ・ ログオンしたサーバが Windows NT/Windows 2000 の場合
 - ・ パフォーマンス情報の収集で、メモリ情報を採取対象にする場合
- 3 CD-ROM ドライブに ServerStart の CD-ROM を挿入します。
- 4 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行画面が表示されます。
- 5 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\PROGRAMS\Japanese\PROBEPRO\SETUP.EXE
インストーラが起動します。
- 6 画面のメッセージに従ってインストールします。
PROBEPRO のインストールが終了すると、動作環境の定義を行うかどうかを問い合わせるメッセージボックスが表示されます。
- 7 [はい] をクリックします。
定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。
- 8 定義ウィザードを操作して、動作環境を定義します。
▶▶ 定義ウィザードの操作方法⇒「4.2 動作環境を定義する」(P.181) 参照

Point

- PROBEPRO を再インストールする場合は、一度、PROBEPRO をアンインストールしてから行ってください。

▶▶ アンインストールの方法⇒「4.4 アンインストール方法」(P.182) 参照

4.2 動作環境を定義する

PROBEPRO をご使用になるには、PROBEPRO の動作環境が定義されている必要があります。動作環境の定義は、標準のインストーラでのインストール時、または PROBEPRO がインストール済みの場合に、定義ウィザードを操作して行えます。ServerStart で PROBEPRO をインストールした場合は、インストール時には動作環境が定義できないので、インストール後に定義ウィザードを起動して動作環境を定義する必要があります。

定義ウィザードを起動して動作環境を定義するには、次の操作を行います。

1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。

2 次のどちらかの場合にだけ、シンボルの準備を行います。

▶ シンボルの準備⇒「4.5 シンボルファイルの準備」(P.182) 参照

- ・ ログオンしたサーバが Windows NT/Windows 2000 の場合
- ・ パフォーマンス情報の収集で、メモリ情報を採取対象にする場合

3 「スタート」→「プログラム」→「PROBEPRO V2.0L20」→「PROBEPRO 定義ウィザード」の順にクリックします。

定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。

4 [次へ] をクリックします。

PROBEPRO で収集できる情報の種類が表示されます。

5 収集したい情報を選択します。

Point

- パフォーマンス情報の収集では、メモリ情報まで採取したい場合に、「プロセス情報のみを収集する」のチェックを外します。

6 [次へ] を順にクリックします。

手順5で「プロセス情報のみを収集する」のチェックを外した場合、Windows NT/Windows 2000 のサーバでは、シンボルパス名の設定画面が表示されます。「シンボルパス名」ボックスに、現在のシステムレベルに対応したシンボルファイルが格納されるディレクトリを入力してください。

7 [次へ] を順にクリックします。

8 定義内容の設定確認画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

ログオンしたサーバが Windows NT/Windows 2000 の場合には、Pool Enhancements のインストール、およびシステムの再起動が行われます。

4.3 初回インストール時の初期設定について

■ システム情報の収集契機

機能	収集契機
モジュール情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
レジストリ情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
パフォーマンス情報の収集	30 分インターバル

■ 出力先ディレクトリ

PROBEPRO が収集したシステム情報は以下のディレクトリに出力されます。

C:\Program Files\FUJITSU\PROBEPRO\Data

4.4 アンインストール方法

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 「スタート」－「プログラム」－「PROBEPRO V2.0L20」－「PROBEPRO アンインストール」を選択します。
アンインストーラが起動します。
- 3 画面のメッセージに従ってアンインストールを行います。

4.5 シンボルファイルの準備

1 シンボルファイルを入手します。

●WindowsNT の場合

シンボルファイルは、次のいずれかより入手できます。

- ・ Windows NT インストール用 CD-ROM
サービスパックを適用していない場合にご用意ください。通常「\SUPPORT\DEBUG」配下に収められています。
- ・ サービスパックの CD-ROM
サービスパックを適用している場合にご用意ください。変更モジュールに対応するシンボルファイルが同時提供されていますので、該当する SP のシンボルで上書きしてください。
- ・ Microsoft Web サイト
上記の CD-ROM がない場合でも、次の URL からダウンロードできます。
URL : http://www.microsoft.com/japan/products/ntupdate/fixlist_tmp/
インストール先の OS のバージョン、SP のレベルのシンボルファイルを選択して入手してください。

●Windows 2000 の場合

Windows 2000 のシンボル情報は 次のいずれかより入手できます。

- Windows 2000 Customer Support and Diagnostics Tools CD-ROM
- Microsoft Web サイト

次の URL からダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/windows2000/downloads/tools/symbols/default.asp>

インストールの方法については、次の URL を参照してください。

<http://www.microsoft.com/JAPAN/support/kb/articles/J054/0/84.htm>

なお、上記 URL などは変更されることもあります。あらかじめご了承ください。

2 システムレベルに対応するシンボルファイルを任意のディレクトリにコピーします。

ディレクトリ名の最後は、必ず「\Symbols」としてください。

5 トラブル原因の早期発見 [DSNAP] ーサーバ環境情報の一括取得

\PROGRAMS\Japanese\DSNAP には、以下のファイルが ServerStart の CD-ROM に含まれています。

ハードディスク内のフォルダに複写してください。

- DSNAP.EXE
- README.TXT

6 サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]

SystemWalker®/LiveHelp® Client V5.2 を標準のインストーラでインストールする方法および操作などについて説明します。

6.1 インストール方法

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログインします。
- 2 CD ドライブに ServerStart の CD-ROM を挿入します。
- 3 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\PROGRAMS\Japanese\LIVEHELP\INSTALL
- 5 インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

6.2 操作概要

PRIMERGY に添付の ServerStart の CD-ROM では、サーバにインストールする LiveHelp Client ソフトウェアが標準で添付されていますので、サーバをリモート操作する側のパソコンに、LiveHelp Expert ソフトウェア^{*1}または SystemWalker/CentricMGR^{*2}を購入してインストールする必要があります。

LiveHelp では、リモート操作されるサーバをクライアント (Client) と呼びます。サーバをリモート操作する人をエキスパート (Expert) と呼びます。クライアントとエキスパートが通信している状態をセッションと呼びます。



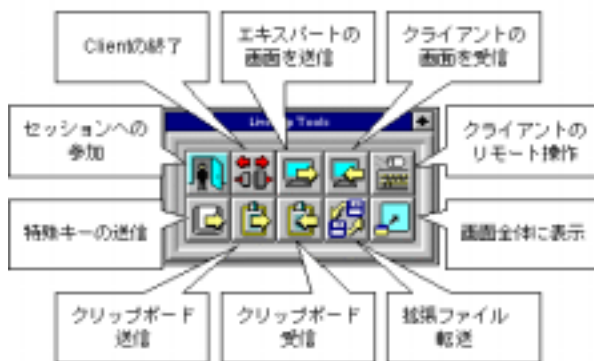
[Client] プログラムの起動

操作対象のサーバで [Client] プログラムを起動します。[Client セットアップ] プログラムで [Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定すると、Windows NT 4.0 や Windows 2000 へのログイン前からリモート操作が行えます。[Expert] プログラムとの通信方式も [Client セットアップ] プログラムで選択します。



[Expert] プログラムの起動

リモート操作しようとするエキスパートは、LiveHelp の [Expert] アイコンをダブルクリックして、[Expert] プログラムを起動します。エキスパートは、次に示す、[Expert] ツールバーを使ってセッションを管理します。



サーバへの接続

エキスパートは、[セッションへの参加] ボタンをクリックします。エキスパートは、クライアントを選択してサーバに接続します。これでセッションが始まります。



画面受信、リモート操作

セッションが始まるとすぐに、これらのボタンが自動的にクリックされ、エキスパートはサーバの画面内容を見たり、サーバをリモート操作することができます。

セッション中はツールバーやメニューコマンドを使って LiveHelp のさまざまな機能を利用できます。



画面を全体に表示

画面を全体に表示すると、操作が楽になります。この場合、ツールバーは画面にフロート化されて常に他の画面より手前に表示されます。



特殊キーの送信

[Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定すると、[特殊キーの送信] ボタンをクリックして [Ctrl+Alt+Del] キーを送信することで、Windows NT 4.0 や Windows 2000 へのログオン操作が行えます。

[特殊キーの送信] ボタンでは、[Ctrl+Alt+Del]、[Ctrl+Esc]、[Print Screen]、[Alt+Print Screen] キーをサーバに送信します。[Ctrl+Alt+Del] キーを送信すれば、サーバへリモートログオン、ログオフ、シャットダウンもできます。



クリップボード送信

エキスパート側のパソコンのクリップボード内容は、[クリップボード送信] ボタンをクリックすることで転送して、サーバ側にコピーできます。



クリップボード受信

サーバのクリップボード内容は、[クリップボード受信] ボタンをクリックすることで転送して、エキスパート側のパソコンにコピーできます。



ファイル転送

複数のファイルをエキスパートのパソコンとサーバの間で一括転送ができます。また、問題解析情報の取得やシステム修復が簡単にできます。



Client の終了

サポートが終了したら、[Client の終了] ボタンをクリックして、動作中の LiveHelp Client を終了することができます。

Note

- サーバをリモート操作する場合、LiveHelp Client を終了すると [Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定していない限り、再度接続することができなくなります。
- [Client の終了] ボタンをクリックせずに LiveHelp Expert を終了すると、LiveHelp Client はサーバで動作を続け、接続待ちの状態になります。

6.3 その他の機能

LiveHelp には前述の操作概要で説明した機能のほか、次のような機能を備えています。

■ 複数人のエキスパートによるリモート操作

サーバの画面やマウスの動きを、複数人のエキスパートがリアルタイムで受信し、同時に状況を把握できます。また、複数人のエキスパートが交代で、自分のキーボードとマウスでサーバを操作、非定型的な操作も自由に行えます。

■ 接続のパスワード

LiveHelp Client の起動時にパスワードを設定できます。この場合、サポート部門の専門家がサーバへ接続する時に同じパスワードの入力が必要になります。[Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定してあれば、この後、Windows NT 4.0 や Windows 2000 へのログオンを行うことになります。

■ エンドユーザのサポート

LiveHelp Client ソフトウェア *3 をエンドユーザのパソコンにインストールすると、サーバのリモート操作と同様に、同じ LiveHelp Expert を使って、エンドユーザサポートのためにパソコンをリモート操作できます。

■ インターネットのサポート

LiveHelp のインターネット対応は、オプション製品 SystemWalker®/LiveHelp® Connect V5.2^{*4}（以降、LiveHelp Connect と略します。）を DMZ に設置されるサーバ上で動作させることが必須です。LiveHelp Connect は、LiveHelp Client や LiveHelp Expert がファイアウォールで守られている場合でも、両者に共通のアクセスポイントとなって Expert と Client 間のデータパケットの中継を行うことにより通信可能にします。また、転送されるデータの暗号化もサポートしました。詳細は、LiveHelp Connect の CD に格納されている「LiveHelp Connect 管理者ガイド」を参照してください。

*1 製品名称 :SystemWalker®/LiveHelp Expert V5.2、製品型名 : B298C1600

*2 製品名称 :

SystemWalker/CentricMGR EE V5.0 マネージャ、製品型名 : B293C4491

SystemWalker/CentricMGR EE V5.0 エージェント、製品型名 : B293C74F0

SystemWalker/CentricMGR SE V5.0 マネージャ、製品型名 : B293C1515

SystemWalker/CentricMGR SE V5.0 エージェント、製品型名 : B293C74D0

*3 製品名称 : SystemWalker/LiveHelp Client V5.2、製品型名 : B298C1610

*4 製品名称 : SystemWalker/LiveHelp Connect V5.2、製品型名 : B293C80U0

付録

付録

以下の機能、操作などの説明を記載しています。
必要に応じてお読みください。

内 容

付録 A	こんなときは (Q&A)	191
付録 B	トラブルシューティング	196
付録 C	留意事項	199
付録 D	CSV ファイルフォーマットについて	206
付録 E	デザインシート	208

付録 A こんなときは (Q&A)

Q. モデムを追加するには？

次の手順で追加してください。

- 1 Windows NT を起動し、管理者権限を持ったユーザアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 [モデム] アイコンをダブルクリックします。
新しいモデムのインストール画面が表示されます。
- 4 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 5 「製造元」からモデムメーカーを、「モデル」から該当するモデムを選択し、[次へ] をクリックします。

Point

- モデムにデバイスドライバが添付されている場合は、A ドライブに挿入して「ディスク使用」をクリックし、該当するモデムを選択します。また、一覧表にモデム名が表示されず、モデムにもドライバが添付されていない場合は、「Windows NT Server Version 4.0 Disc1」を CD-ROM ドライブにセットして、該当するモデムを選択します。
- 6 「選択したポート」をクリックし、表示されている [COMn] をクリックして [次へ] をクリックします。
 - 7 所在地の設定を行い、[次へ] をクリックします。

項目	説明
国名	現在パソコンを使用している国を入力します（例：日本）。
市外局番	現在パソコンを使用している場所の市外局番を入力します（例：03）。
外線発信番号	内線を使用している場合、外線にかけるときに必要な番号を入力します（例：0）。
ダイヤル方法	電話の契約がプッシュ回線の場合は「トーン」、ダイヤル回線の場合は「パルス」を選択します。

- 8 [完了] をクリックします。
- 9 [閉じる] をクリックします。

Q. プリンタを追加するには？

次の手順で追加してください。

- 1 「スタート」－「設定」－「プリンタ」をクリックします。
- 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
プリンタの追加ウィザード画面が表示されます。
- 3 「このコンピュータ」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 「利用可能なポート」を選択して「LPT:1」をチェックして、[次へ] をクリックします（通常は LPT1 ですが、使用プリンタによっては別のポートを選択します）。
- 5 「製造元」からプリンタメーカーを、「プリンタ」から該当するプリンタを選択して、[次へ] をクリックします。

Point

- プリンタにデバイスドライバが添付されている場合は A ドライブにフロッピーを挿入して「ディスク使用」をクリックし、該当するプリンタを選択します。また、一覧表にもプリンタ名が表示されず、プリンタにもドライバが添付されていない場合は、「Windows NT Server Version 4.0 Disc1」を CD-ROM ドライブに挿入して、該当するプリンタを選択します。
- 6 「プリンタ」でプリンタ名を入力し、[次へ] をクリックします。
すでに他のプリンタドライバがインストールされている場合は、Windows アプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、[次へ] をクリックします。
 - 7 プリンタを共有しない場合は「共有しない」を、共有する場合は「共有する」を選択してから「共有名」を付けて [次へ] をクリックします。
 - 8 テストページを印刷するかどうかを指定して、[完了] をクリックします。

■ FMLBP シリーズ、FMPPR シリーズをお使いの場合

デバイスフォントの白色を使用した場合、印刷結果が画面と異なることがあります。白色で印刷する場合は、デバイスフォント以外で印刷してください。

■ FMLBP225PS、FMLBP211PS をお使いの場合

- ドキュメント画面ボックスー [ドキュメントのオプション] の [プリンタの機能] の [標準に戻す] ボタンをクリックしても、変更前の設定状態には戻りません。
- ドキュメント画面ボックスー [ハーフトーンカラーの調整] で「明るさ」や「コントラスト」などを調整しても、印刷には反映されません。
- 用紙の種類で「A4 横」のような「××横」の用紙では正しく印刷できません。
このようなデータを印刷する場合は、用紙の種類で「A4」印刷の向きを「横」に指定して印刷してください。

■ 富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合

富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合は、REGEDT32.EXE コマンドを使って、レジストリの以下のキーの値を変更し、システムを再起動してください（この例ではプリンタが接続されているポートが "LPT4" とします）。

```
キー  : \HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\PARALLEL SETUP INFO\LPT4
値     : Escp : REG_BINARY : 01 00 00 00
                        ↑ここを 00 から 01 に変更
```

■ 任意の用紙サイズを設定する場合

富士通 FM シリーズ用シリアルプリンタでフォームを使用する場合、使用できるフォームのサイズはそれぞれのドライバによって以下の範囲となっています。この範囲外のものは使用できません。

■ 用紙サイズの設定

プリンタの [ファイル] メニューから [サーバのプロパティ] をクリックし、[用紙] タブの [新しい用紙を作成する] をチェックして作成します。任意の用紙サイズを設定できます。詳細については、Windows NT のマニュアルおよびオンラインヘルプを参照してください。

幅：50 ～ 345.4mm (1.79 ～ 13.6 インチ) 高さ：50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) のドライバ [136 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR 180"

"FUJITSU FMPR 180 (Color) "

"FUJITSU FMPR -353G2"

"FUJITSU FMPR -353A2"

"FUJITSU FMPR -361"

"FUJITSU FMPR -372"

"FUJITSU FMPR -671"

"FUJITSU FMPR -654"

"FUJITSU FMPR -359F1"

"FUJITSU FMPR -455"

"FUJITSU FMPR -456"

"FUJITSU FMPR -371A"

"FUJITSU FMPR -374"

"FUJITSU FMPR -366 (Monochrome) "

"FUJITSU FMPR -373 (Color) "

"FUJITSU FMPR -366 (Color) "

"FUJITSU FMLP -351"

"FUJITSU FMPR -373 (Monochrome) "

"FUJITSU FMPR -672"

幅：50 ～ 203.2mm (1.79 ～ 8 インチ) 高さ：50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) のドライバ [80 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR -302G2"

"FUJITSU FMPR -302A2"

"FUJITSU FMPR -204B"
 "FUJITSU FMPR -204W"
 "FUJITSU FMPR -101W"
 "FUJITSU FMPR -101B"
 "FUJITSU FMPR -102G"
 "FUJITSU FMPR -601"
 "FUJITSU FMPR -303G"
 "FUJITSU FMJP -101G"
 "FUJITSU FMPR -221G"

幅：50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) 高さ：50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) のドライバ
 "FUJITSU FMPR -360"
 "FUJITSU FMPR -360 (Color) "
 "FUJITSU FMJP -211"

幅：25.4 ～ 345.4mm (1 ～ 13.6 インチ) 高さ：25.4 ～ 558.8mm (1 ～ 22 インチ) のドライバ
 [ESC/P シーケンス]
 "FUJITSU ESC/P"
 "FUJITSU FMPR -375E"
 "FUJITSU FMPR -371E"
 "FUJITSU FMP -PR121G"

Q. RAID を構築するときの注意点は？

次の点に留意してください。

■ ハード構成

条件	内容
サポートする SCSI アレイコントローラカード枚数	1 枚
SCSI アレイコントローラカードとして使用できる条件	本体マニュアルに記述してある所定のスロット位置に装着されていること
ハードディスクの条件	(1) 本体内蔵のみ (2) 必ず同形式および同容量のハードディスクを使用すること (3) RAID レベルにより設定できる台数は以下のとおりです。 RAID レベル 0 – 2 ～ 16 台 RAID レベル 1 – 2 台 RAID レベル 5 (推奨) – 3 ～ 16 台 ※ただし、本体の最大搭載数を超過して設定しないでください。本体の最大搭載数は本体マニュアルを参照してください。 ※ SCSI アレイコントローラカードの最大搭載数より多い数は設定できません。カードの最大搭載数は、カードのマニュアルを参照してください。 (4) ホットスワップ (スタンバイディスク) なし／あり (1 台まで、RAID レベル 0 を除く)

 Note

ホットスベアを「あり」に指定した場合は、実際に搭載するハードディスク台数は上記（3）の設定台数+1台としてください。

■ アレイ構成

項目	内容										
フィジカルバック数	1										
システムドライブ数	1										
最大システムドライブ容量	1TB										
ハードディスクのバック順	ハードディスクに設定された SCSI ID の小さい順で Channel 0 と Channel 1 を交互にバックする。（2 チャンネルの場合） 例（2 チャンネルの場合） <table border="0"> <tr> <td>バック A-1</td> <td>Channel 0 SCSI ID 0</td> </tr> <tr> <td>バック A-2</td> <td>Channel 1 SCSI ID 0</td> </tr> <tr> <td>バック A-3</td> <td>Channel 0 SCSI ID 1</td> </tr> <tr> <td>バック A-4</td> <td>Channel 1 SCSI ID 1</td> </tr> <tr> <td>バック A-5</td> <td>Channel 0 SCSI ID 2</td> </tr> </table> ホットスベアを指定した場合は、ホットスベアのハードディスクは一番小さいチャンネル番号で SCSI ID が最小のハードディスクとなります。（通常は Channel 0 で SCSI ID 0 のハードディスク）	バック A-1	Channel 0 SCSI ID 0	バック A-2	Channel 1 SCSI ID 0	バック A-3	Channel 0 SCSI ID 1	バック A-4	Channel 1 SCSI ID 1	バック A-5	Channel 0 SCSI ID 2
バック A-1	Channel 0 SCSI ID 0										
バック A-2	Channel 1 SCSI ID 0										
バック A-3	Channel 0 SCSI ID 1										
バック A-4	Channel 1 SCSI ID 1										
バック A-5	Channel 0 SCSI ID 2										

■ ディスク台数

- 設定した台数（ホットスベアありの場合は+1台）より実際に装着されている台数が少ない場合、ServerStart はエラーとなり、セットアップは中断されます。
- 設定した台数（ホットスベアありの場合は+1台）より実際に装着されている台数が多い場合、設定どおりになり、余ったディスクはスタンバイディスクとなります。また、後からフィジカルバックを追加することもできます。詳しくは SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

Q. スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか？

以下の方法でフォーマットしてください。

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、Windows NT で認識できないことがあります。

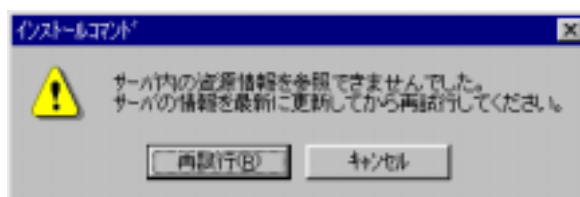
光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合には、光磁気ディスクユニット添付のデバイスドライバ内の「MO フォーマッタ」を使用してください。

詳しくは、光磁気ディスクユニットのマニュアルを参照してください。

付録 B トラブルシューティング

■ 「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」と表示された場合

サーバ側でクライアントセットアップウィンドウの操作中にクライアント側でログインすると、以下のダイアログが表示されます。



操作中のクライアントセットアップウィンドウで  をクリックするか、[表示] メニューから「最新に更新」を選択した後、「インストールコマンド」ダイアログの [再試行] をクリックしてください。

■ クライアントコンピュータへのインストール中に「セットアップに失敗した資源があります」と表示された場合

サーバのクライアントセットアップを起動し、「クライアント一覧」で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。確認時は、「表示」の「最新に更新」を実行してください。

「登録済みセットアップ資源一覧」でセットアップを行った資源を選択し、クライアント一覧のセットアップ状態が「エラー」の場合は、その登録資源についてセットアップ情報を見直し、正しい設定で資源の再登録を行ってください。

ただし、資源の再登録を行った場合はセットアップが完了しているクライアントの状態も未完了となりますので、セットアップが完了しているクライアントについては、対象クライアントの選択を解除してください。

■ デスクトップ環境設定画面を閉じる時に「システムポリシーファイルの作成中に異常が発生しました。」とエラーメッセージが表示された場合

Windows 2000 のドメインコントローラ上でデスクトップ環境設定を使用する場合、デスクトップ環境設定を起動した管理者ユーザが「Enterprise Admins」グループに属していないと、このメッセージが表示されます。

この場合、ポリシーの変更は失敗しており、設定は保存されていません。管理者ユーザを「Enterprise Admins」グループに追加して再起動し、デスクトップ環境設定をやり直してください。

■ ログオン時に自動的にインターネットエクスプローラが起動する場合

WizardConsole をインストールしたサーバ、または起動用フロッピーでセットアップしたクライアントコンピュータにログオンした直後に、インターネットエクスプローラが起動することがあります。

WizardMenu を使用しない場合は、サーバ側で WizardConsole の「デスクトップ環境設定」を起動し、「初期メニュー」タブで「Windows 標準」を選択します。

また、WizardMenu を使用する場合は、IIS がサーバ上に構成されていない状態のとき、インターネットエクスプローラが起動する際にエラーとなります。WizardMenu を使用するには、以下の操作を行ってください。

- 1 サーバ上に IIS（バージョン 3.0 以上）を構成します。**
- 2 [スタート] – [プログラム] – [Microsoft インターネットサーバー（共通）]（Windows 2000 では [管理ツール]）– [インターネットサービスマネージャ] を起動します。**
- 3 WWW サービスのプロパティを開き、以下の 3 つのフォルダに対して、「ディレクトリ」タブからエイリアスを追加します。**
 - c:\WZCNSL\af12\CGI：エイリアス名「SVWizardMenu/APPS」
 - c:\WZCNSL\af12\Controls：エイリアス名「SVWizardMenu/Controls」
 - c:\WZCNSL\af13\inetpub：エイリアス名「SVWizardMenu」
- 4 WWW サービスを再起動します。**
- 5 デスクトップ環境設定の「初期メニュー」タブで「Web メニュー」を選択します。**

■ リモート OS セットアップ中に発生する可能性のあるエラーについて

エラーコード	原因と対策
10	原因 区画が作成できませんでした。 対策 OS セットアップを実行して区画サイズを変更してフロッピーを作成し直してください。
11	サーバと通信できなかった場合に発生します。以下の原因と対策があります。 原因 1 LAN ケーブルが正しく接続されていない。 対策 1 LAN ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 原因 2 サーバ上で TFTP サービスが実行されていない。 対策 2 コントロールパネルより「サービス」の「Fujitsu Systemcast Wizard/ServerStart TFTP Service」が開始されているか確認してください。 原因 3 サーバとクライアントが同じネットワーク上にいない。 対策 3 サーバとクライアントの IP アドレスとサブネットマスクを確認してください。同じネットワークにいない場合はゲートウェイアドレスを設定してください。 原因 4 指定されたファイルがサーバ上で見つからない。 対策 4 OS セットアップ実行後にファイルが削除された可能性があります。もう一度 OS セットアップを実行してドライバーズ CD をコピーし直してください。
12	原因 情報ファイル Cwizard.ini の内容が正しくありません。 対策 OS セットアップを実行して、フロッピーを作成し直してください。
15	説明 ファイルの書き込みが出来ませんでした。 原因 ディスクが利用可能でない可能性があります。
16	説明 Windows NT の無人セットアップスクリプト Unattend.txt が正しくありません。 原因 ドライバーズ CD から正しくコピーされなかった可能性があります。
20	説明 クライアントのコンピュータ情報が取得できませんでした。 対策 WizardConsole からクライアント導入フロッピーを再作成してください。

■ 電源スイッチを押しても電源が切断できない場合

セットアップ中、PCI カードのコンフィグレーションチェックでエラーがあった場合、エラーメッセージを表示後に電源スイッチを押しても電源が切断できなくなることがあります。この場合、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切断して、エラー要因を取り除いてください。

付録 C 留意事項

C.1 ServerStart でサポートするオプションカード

ServerStart がサポートするオプションカードは、PRIMERGY がサポートするものの中で、PCI に対応したものです。カードの搭載枚数や搭載位置については、サーバの取扱説明書を参照してください。

ServerStart でサポートするオプションカードは、以下のとおりです。サポートするカードはサーバの機種により異なりますので、サーバの取扱説明書を参照してください。

【表 C.1 ドライバ自動インストール対応する拡張カードとオンボード I/O】

名称	型名	バス	ドライバ自動インストール
オンボード FDD/IDE	—	—	○
オンボード SCSI	—	PCI	○
オンボード IDE RAID	—	PCI	○
オンボード LAN	—	PCI	○
オンボード Video	—	PCI	○
LAN カード	PG-183	PCI	○
	PG-185	PCI	○
	PG-1871/1871L	PCI	○
	PG-188	PCI	○
	PG-189	PCI	○
SCSI カード	PG-123	PCI	○
	PG-126	PCI	○
	PG-128	PCI	○
	PG-129	PCI	○
	PG-130L	PCI	○
ファイバチャネルカード	PG-FC102	PCI	×
	PG-FC103	PCI	×
SCSI アレイコントローラカード	PG-141B	PCI	○
	PG-142B/142C	PCI	○
	PG-143B	PCI	○
	PG-144B	PCI	○
ISDN 接続 G3/G4 FAX 通信カード	GP-5-161	PCI	×
RS-232C カード	GP5-162	PCI	Windows NT SV 4.0 × Windows 2000 SV ○
通信カード ISDN	GP5-165	PCI	×
通信カード V/X	GP5-163	PCI	×
FAX モデムカード	FMV-FX533	PCI	×
リモートサービスボード	PG-RSB101	PCI	×

C.2 ServerStart で対応する自動インストール

【表 C.2_1 ドライバの自動インストールに対応するデバイス】

名称	型名	ドライバ自動インストール	備考
内蔵 FDD/HDD/CD-ROM	—	○	
外付 CD-ROM	FMCD-411	○	
内蔵 RAID	—	○備考参照	ブートデバイスとしての設定を行う
外付 RAID	—	○備考参照	PG-142B/142C の場合、ブートデバイスとしての利用可
内蔵 DAT/MO/ テープデバイス	DDS3, CAT4e 等	×	
外付 DAT/MO/ テープデバイス	FMPD-241 等	×	
Power Control Box	FMRP-201/202	×	
UPS	GP5SUP101 等	×	

【表 C.2_2 添付されているアプリ及びサービス】

※サイレントインストールは解除可能です。

名称	サイレントインストール	備考
各種サービス	○	
Internet Information Server	○	サービスパックをあてた時点で IIS3.0 となる
各種プロトコル	○	
サービスパック	○	
ServerView	○	オプション装置の監視モジュールの導入は手動
PROBEPRO	○	サービスの起動は手動
DSNAP	○	
FM Advisor	○	
LiveHelp® Client	○	
RAID 管理ツール	○	サイレントインストール解除不可
Tape Maintenance Checker	×	
Power Management for Windows	×	
RAS 支援サービス	○	サイレントインストール解除不可

C.3 バックアップドメインコントローラ（BDC）に関する 留意事項（NT SV 4.0 の場合）

バックアップドメインコントローラ（以下、BDC）のサーバに WizardConsole をインストールして使用する場合には、以下の注意が必要です。

● グループ、ユーザアカウントについて

作成したグループとユーザアカウントは Domain 全体で使用されます。

そのため、プライマリドメインコントローラ（以下、PDC）に WizardConsole をインストールして使用している場合には、BDCで作成したアカウントは、PDCでも管理することができます。

● コンピュータアカウントについて

作成したコンピュータのアカウントは、WizardConsole がインストールされているサーバごとに管理されます。ある BDC で作成したコンピュータは、PDC や他の BDC では管理できません。同様に、PDC で作成したコンピュータは、他の BDC では管理できません。

● クライアントセットアップ情報について

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

BDC で資源の読み込みを行っても、読み込みを行った BDC 以外のサーバ（PDC や他の BDC）で使用することはできません。

クライアントコンピュータは、最初に登録したサーバに接続し、資源をコピーします。複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで資源を取り出すサーバ名を変更することもできます。

● デスクトップ環境設定について

作成したデスクトップ設計の情報は、WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで設計情報を取り出すサーバ名を変更することもできます。

● リモート OS セットアップについて

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

資源を他のコンピュータで管理することはできません。

● コンフィグレーションファイルについて

BDC では WizardConsole でコンフィグレーションファイルを作成することはできません。

C.4 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項

クライアントセットアップ機能で定義された資源は、ServerStart または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。

WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」を行ったクライアントについては、デフォルトでセットアップ資源のインストール対象になります。追加／変更したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行わない場合は、WizardConsole のクライアントセットアップを起動し、インストール対象から解除してください。

C.5 クライアントセットアップに関する留意事項

■ 同時インストールできる台数

クライアントセットアップで、同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は 15 台です。15 台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を 15 台単位で行ってください。

■ 標準対応製品をインストールする際の注意事項

● 標準対応製品のインストール可能 OS とインストール条件

標準対応製品によってインストールできる OS は異なります。また、インストール時の条件も各標準対応製品で異なります。下記表を参照し、適切なインストール対象クライアントを選択してください。

● 標準対応製品のインストールに必要なハードディスク容量

各標準対応製品がインストールに必要なハードディスク容量は下記表のとおりです。ハードディスク空き容量が不十分なクライアントへのインストールは、アプリケーションエラーを引き起こす場合があります。クライアント環境の違いにより、インストールに必要なハードディスク容量は異なりますので、十分な空き容量があることを確認してからインストールの設定を行ってください。

※ ServicePack を SP と略記しています。

No.	対応製品一覧	動作確認済のインストール可能 OS 及び条件	インストールに必要なハードディスク HD 容量（目安）
1	Bookshelf Basic2.0	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0 ディスプレイ：640 × 480 / 256 色以上。	15MB
2	環境調査プログラム (FM Advisor)	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 3.51 Windows NT Version 4.0	5MB
3	FM-Menu	Windows 98 Windows NT Version 4.0 (SP3 以降)	5MB
4	診断プログラム	Windows 98 Windows NT Version 4.0 (SP3 以降) ディスプレイ：256 色以上	5MB

No.	対応製品一覧	動作確認済のインストール可能 OS 及び条件	インストールに必要な ハードディスク HD 容 量 (目安)
5	一太郎 9 花子 9 パック	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	最小…150MB 標準…325MB 最大…410MB
6	Lotus 1-2-3 2000	Windows 95 (SP1 以降) Windows 98 Windows NT Version 4.0 (SP3 以降)	最小…70MB 標準…90MB カスタム最大 120MB
7	Microsoft Excel 97	Windows 95 Windows 98 Windows NT Workstation Version 4.0 (SP3 以降) Windows NT Version 3.51 (SP5)	オプション→ Excel のみ …25MB オプション→すべて… 75MB
8	Microsoft IME 98	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0 (SP3 以降)	35MB
9	Microsoft Office2000 Personal	Windows 95 ※ Internet Explorer 4.01 SP1 以上が必要 Windows 98 Windows NT Workstation 4.0 (SP3 以降) ※一部の機能については SP4 以上が必要、 Internet Explorer 4.01 SP1 以上が必要。	IE5 を標準インストール する場合 230MB IE5 を最小インストール する場合 220MB IE をアップグレードしな い場合…215MB
10	Microsoft Word 98	Windows 95 Windows 98 Windows NT Workstation Version 4.0 (SP3 以降) Windows NT Version3.51 (SP5)	オプション→ Word のみ …30MB オプション→すべて… 120MB
11	Microsoft Draw 98	最低一つ以上の Office97 製品が必要で、 Office97 製品は SP3 以上が必要。	5MB
12	OASYS V6.0 (V6.0 L10 rel.10F)	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 3.51 Windows NT Version 4.0	最小…140MB 標準…160MB カスタム最大 250MB
13	OASYS V6.0 アップ デートパック	OASYS V6 に対してのみ使用可	5MB
14	BIG 販売管理 32 for Windows V2.2	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	70MB
15	BIG 給与計算 32 V2.4 インストールモデル用	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	45MB
16	BIG 財務会計 32 for Windows V2.2	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	40MB
17	TOP 勘定奉行 98 B シ ステム 富士通プレ インストール版 Ver.101	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB
18	TOP 蔵奉行 98 ForWindows98/95/ NTSuper システム	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB
19	TOP 給与奉行 98 [富 士通版]	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB
20	TOP 商奉行 98 ForWindows98/95/NT Super システム	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB

■ クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

● アプリケーションの削除方法

クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションは、クライアントセットアップ機能を使用して削除することはできません。アンインストール方法については、アプリケーションに添付されているマニュアルを参照してください。

● アンインストールが失敗する場合

クライアントセットアップで登録されたアプリケーションをサーバで削除した場合、アプリケーションのアンインストール時にエラーが発生する場合があります。
エラーが発生した場合は、アプリケーション媒体を使用してアンインストールを行ってください。

■ スクリプトに関する留意事項

● スクリプトを使用してインストールする場合

標準対応製品等でスクリプトを使用してインストール実行中は、マウス・キーボードに触らないでください。スクリプトが停止し、サイレントインストールが失敗する原因となります。

● アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするには、アプリケーションをインストールするマシンと同一環境でスクリプト採取することを推奨します。

- 1 クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
- 2 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、Windows 上で動作する自動化ツール(注 1)を使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。
- 3 インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。
- 4 採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせ編集し(注 2)、必要に応じてコンパイルします。なお、コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。
- 5 インストールする製品の機能上、システムに対してリブートを要求してくる場合はリブートを実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

注 1)

Windows 上で動作する自動化ツールとは、Windows 上で利用者が行った操作をファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して操作を再現するツールです。

例) 米国 Rational SoftWare Corporation の Rational Visual Test®

注 2)

採取したスクリプトはイベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタマイズする必要があります。

①不要関数の削除

イベント採取で不要なイベントを採取した場合は不要な処理や関数を削除します。

②画面待ち合わせ

採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるため、スクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合 わせている個所は、待ち合わせ時間を長くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。

③画面の切り分け

インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一ループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対処できるようにカスタマイズします。

C.6 その他の留意事項

- テープデバイスに関しては、自動検出を行いコントロールパネルの出力までを行います。ドライバをインストールする必要がある場合には手動で行ってください。
- プリンタのセットアップには対応していません。セットアップ終了後にインストールを行ってください。

付録 D CSV ファイルフォーマットについて

使用する CSV ファイルの形式は、カンマで区切ったテキストのファイル形式です。ファイルは登録する画面にあわせてそれぞれ作成してください。

それぞれ第 1 フィールド以外は空白にすることができます。ただし、入力必須項目は CSV ファイル取込みを行った後、入力を行ってください。

Point

- CSV ファイルの作成は、表計算ソフトを使用すると簡単に作成できます。

コンピュータ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド	第 4 フィールド	第 5 フィールド
入力項目	コンピュータ名	OS 種別	IP アドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ
設定値	(半角 15 文字以内)	1-Windows95 2-WindowsNT4.0WS/SV (MEMBER) 3-Windows98 4-WindowsNT 4.0 SV (BDC) 5-Windows 2000 Pro/SV (MEMBER) 6-Windows Me 7-Windows XP Pro	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx (第 1 オクテットは 1 ～ 223)	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx (第 1 オクテットは 1 ～ 223)

例 1) Computer1,2,0,0,0

例 2) Computer2,3,100.10.10.3,255.255.255.0,100.10.10.1

例 3) Computer3,5,100.10.10.4,255.255.255.0,

例 4) Computer4,,0,,

グループ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド
入力項目	グループ名	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内

例 1) PG Group1,PG グループ

例 2) CT Group2,CT グループ

ユーザ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	ユーザ名	フルネーム	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内	半角 48 文字以内

例 1) fuji,taro fuji, 富士太郎

例 2) nonaka,,

例 3) tanaka,keisuke tanaka,

共有資源用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	共有資源名	ディレクトリ名	説明
設定値	半角 80 文字以内	半角 246 文字以内	半角 48 文字以内

例 1) tool,c:\tool, ツール用

例 2) work_fol,c:\work\work_folder,

例 3) test_fol,c:\work\test_folder, テスト用フォルダ

付録 Eデザインシート

RAID ウィザード

設定項目		選択項目
RAID の構成 (RAID 構成時のみ)		
構成モード		☐ 非 RAID ☐ 自動 ☐ 手動
手動、自動 設定時のみ	RAID コントローラ	☐ PG-141B/142B/142C ☐ PG-143B/144B ☐ IDE RAID
	コントローラ番号	(デフォルト=0)
手動設定時 のみ	RAID レベル	☐ RAID0 ☐ RAID1 ☐ RAID5
	ディスク数	台 (RAID0 時 2 ~ 8 台、RAID1 時 2 台、RAID5 時 3 ~ 8 台)
	ホットスベア	☐ 使用する ☐ 使用しない
手動、自動 設定時のみ	既存の RAID アレイ	☐ 削除する

ディスクウィザード

設定項目	選択項目
ディスクの構成	
コントローラタイプ	☐ RAID ☐ SCSI ☐ IDE
ディスク番号	(デフォルト=0)
ファイルシステム	☐ NTFS ☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する ☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト=SYSTEM)
区画サイズ	☐ 自動設定 ☐ MB
区画タイプ	☐ 拡張区画 ☐ 基本区画
区画の利用形態	☐ BOOT ☐ OS ☐ DATA
ファイルシステム	☐ NTFS ☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する ☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト=DATA)
区画サイズ	☐ 自動設定 ☐ MB
区画タイプ	☐ 拡張区画 ☐ 基本区画
区画の利用形態	☐ BOOT ☐ OS ☐ DATA
ファイルシステム	☐ NTFS ☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する ☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト=DATA)
区画サイズ	☐ 自動設定 ☐ MB
区画タイプ	☐ 拡張区画 ☐ 基本区画
区画の利用形態	☐ BOOT ☐ OS ☐ DATA
ファイルシステム	☐ NTFS ☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する ☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト=DATA)
区画サイズ	☐ 自動設定 ☐ MB
区画タイプ	☐ 拡張区画 ☐ 基本区画
区画の利用形態	☐ BOOT ☐ OS ☐ DATA
表示されているディスクの すべての区画を削除する	☐ 削除する
起動ディスクにメンテナンス区画を作成する	☐ 作成する

※ 複数のディスクを搭載する場合は、コピーしてください。

OS ウィザード (Windows NT 4.0 インストールウィザード)

設定項目		選択項目
コンピュータ情報		
コンピュータ種別	☐ ワークグループサーバ ☐ ドメインサーバ ☐ プライマリドメインコントローラ ☐ バックアップドメインコントローラ	
ワークグループまたはドメイン名	(デフォルト-WORKGROUP)	
コンピュータアカウントを 作成するユーザアカウント	ユーザ名	
	パスワード	
ライセンスモード	☐ 接続クライアント数 ☐ 同時使用ユーザ数	
同時接続数	(同時使用ユーザ数選択時のみ)	
インストール先ディレクトリとタイムゾーン		
インストール先ドライブ	☐ 既定値を使用する ☐ ドライブ名	
ドライブ名		
インストール先ディレクトリ	☐ 一意の名前を作成する ☐ インストール時に指定する ☐ インストール先を指定する	
ディレクトリ		
ファイルシステムを NTFS へ変換する	☐ する	
タイムゾーンの選択	(デフォルト-(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツク)	
ユーザ情報		
ユーザ名	(英数半角 50 文字まで 全角使用可)	
組織名	(英数半角 50 文字まで 全角使用可)	
コンピュータ名	(英数半角 50 文字まで)	
プロダクト ID / CD キー	☐ —OEM— —	☐ —
画面の設定		
ログオン後に画面設定を行う	☐ 行う	
色数	☐ 16 色 ☐ 256 色 ☐ High Color (16 ビット) ☐ True Color (24 ビット) ☐ True Color (32 ビット)	
デスクトップ領域 (ピクセル)	☐ 640 * 480 ☐ 800 * 600 ☐ 1024 * 768 ☐ 1156 * 864 ☐ 1280 * 1024 ☐ 1600 * 1200	
リフレッシュレート (Hz)	☐ 60 ☐ 70 ☐ 72 ☐ 75 ☐ 80 ☐ 85 ☐ 100	

(続く)

設定項目		選択項目		
ネットワークプロトコル				
手動でネットワークの設定を行う		☐ 行う		
プロトコル		☐ NetBEUI プロトコルのインストール ☐ NWLink IPX/SPX 互換互換トランスポートのインストール ☐ TCP/IP プロトコルのインストール ☐ DLC プロトコルのインストール ☐ RAS Point to Point Tunneling プロトコルのインストール ☐ Streams 環境のインストール		
TCP/IP パラメータ (TCP/IP プロトコルのインストール選択時)				
DHCP を使用する		☐ する		
ネットワーク インター フェイス	1	NetBios over TCP/IP 用 コンピュータスコープ識別子		
		DHCP を使用する未選択時のみ	IP アドレス	
			サブネットマスク	
			デフォルトゲートウェイ	
			DNS サーバ 1	
			DNS サーバ 2	
			DNS サーバ 3	
			WINS プライマリ	
			WINS セカンダリ	
	DNS ドメイン名			
	2	NetBios over TCP/IP 用 コンピュータスコープ識別子		
		DHCP を使用する未選択時のみ	IP アドレス	
			サブネットマスク	
			デフォルトゲートウェイ	
			DNS サーバ 1	
			DNS サーバ 2	
			DNS サーバ 3	
			WINS プライマリ	
WINS セカンダリ				
DNS ドメイン名				

※ 3 枚以上のネットワークカードを利用する場合は、コピーしてください。

(続く)

設定項目		選択項目
サービスの設定		
サービス	☐ SNMP サービス ☐ リモートアクセスサービス ☐ Microsoft DHCP サーバー ☐ Microsoft DNS サーバー ☐ Windows インターネットネームサービス ☐ 簡易 TCP/IP サービス ☐ SAP エージェント ☐ ネットワークモニタツールとエージェント ☐ Microsoft TCP/IP 印刷 ☐ Gateway (and Client) Services for NetWare	
SNMP の設定 (選択時のみ)		
トラップ	コミュニティ名	
	トラップ送信先	
セキュリティ	認証トラップを送信する	☐ する
	受け付けるコミュニティ名	(デフォルト—public)
	すべてのホストから SNM パケットを受け付ける	☐ 受け付ける
	次のホストから SNM パケットを受け付ける	
エージェント	連絡先	
	場所	
	サービス	☐ 物理層 ☐ データリンク / アプリケーション ☐ エンド ツー エンド ☐ アプリケーション ☐ インターネット

(続く)

設定項目		選択項目
リモートアクセスサービスの設定 (選択時)		
ポート使用の 構成	ポート	☐ COM1 ☐ COM2 ☐ COM3-COM25
	デバイス	☐ Modem
	ポートの使い方	☐ ダイヤルアウトのみ ☐ 着信のみ ☐ ダイヤルアウトと着信
RAS サーバの設定	次のリモートクライアントを許可する	☐ TCP/IP ☐ IPX ☐ NETBEUI ☐ ALL
	リモート NetBEUI クライアントにアクセスを許可する	☐ ネットワーク全体 ☐ このコンピュータのみ
	リモート TCP/IP クライアントにアクセスを許可する	☐ ネットワーク全体 ☐ このコンピュータのみ
リモート TCP/IP クライアントのアドレス割り当てに DHCP を使う		☐ 使う
使う 未 選択 時	静的アドレスプールの開始アドレス StaticAddressBegin	
	静的アドレスプールの終了アドレス StaticAddressEnd	
	割り当て範囲除外	
リモートクライアントに事前で定めた IP アドレスの要求を許可する		☐ 許可する
リモート IPX クライアントにアクセスを許可する		☐ ネットワーク全体 ☐ このコンピュータのみ
自動的にネットワーク番号を割り当てる		☐ 割り当てる
ネットワークの開始番号		(割り当てる未選択時)
すべての IPX クライアントに同じネットワーク番号を割り当てる		☐ 割り当てる
リモートクライアントに IPX ノード番号での接続を許可する		☐ 許可する
Microsoft Internet Information Server		
Internet Information Server のインストール		☐ する
ディレクトリ		(デフォルト—C:¥Inetsrv)
FTP サービスのインストール		☐ する
ルートディレクトリ		(デフォルト—C:¥Inetsrv¥FTPRoot)
Word Wide Web サービスのインストール		☐ する
ルートディレクトリ		(デフォルト—C:¥Inetsrv¥WWWRoot)
Gopher サービスのインストール		☐ する
ルートディレクトリ		(デフォルト—C:¥Inetsrv¥GopherRoot)
WWW サービスサンプルのインストール		☐ する
インターネットサービスマネージャのインストール		☐ する
HTMLA のインストール		☐ する

OS ウィザード (Windows 2000 インストールウィザード)

設定項目	選択項目
Windows2000 のインストール	
インストール先ドライブ	☐ 既定値を使用 ☐ ドライブ名
ドライブ名選択時	☐ C: ☐ D: ☐ E: ☐ F: ☐ G: ☐ H: ☐ I: ☐ J: ☐ K: ☐ L: ☐ M: ☐ N: ☐ O: ☐ P: ☐ Q: ☐ R: ☐ S: ☐ T: ☐ U: ☐ V: ☐ W: ☐ X: ☐ Y: ☐ Z:
Administrator 用パスワード	
プロダクト ID	— — — —
コンピュータ識別情報	
導入 OS	☐ Windows 2000 Server ☐ Windows 2000 Advanced Server
参加先	☐ ワークグループ ☐ ドメイン
ワークグループまたはドメイン名	(デフォルト—MYUSERGROUP)
コンピュータを作成する ユーザアカウント	ユーザ名 パスワード
ライセンスモード	☐ 接続クライアント数 ☐ 同時使用ユーザ数
同時接続数	(同時使用ユーザ数選択時のみ)
インストール先ディレクトリとタイムゾーン	
インストール先ディレクトリ	☐ 既定値を使用する ☐ インストール中に指定する ☐ あらかじめ指定する
インストール先	(デフォルト—¥winnt)
タイムゾーンの選択	(デフォルト—(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京)
ユーザ情報	
ユーザ名	
組織名	
コンピュータ名	
プロダクト ID	☐ — — — —
画面の設定	
画面の領域	☐ 640 * 480 ☐ 800 * 600 ☐ 1024 * 768 ☐ 1156 * 864 ☐ 1280 * 1024 ☐ 1600 * 1200
リフレッシュレート	☐ 60 ☐ 70 ☐ 72 ☐ 75 ☐ 80 ☐ 85 ☐ 100
画面の色	☐ 16 色 ☐ 256 色 ☐ High Color (16 ビット) ☐ True Color (24 ビット) ☐ True Color (32 ビット)

(続く)

設定項目		選択項目		
ネットワークプロトコル				
インストール方法		☐ 自動でインストール ☐ 手動でインストール		
ネットワークプロトコルのプロパティ (自動でインストール選択時)				
アダプタ 1	接続名			
	このアダプタにバインドするプロトコル		☐ TCP/IP ☐ NWIPX ☐ NetBEUI ☐ Apple Talk ☐ DLC ☐ NetMon	
	DHCP を使用する (TCP/IP 選択時)		☐ 使用する	
	使用する 未選択時のみ	IP アドレス		
		サブネットマスク		
		デフォルトゲートウェイ		
		IP アドレス (追加)		(追加する時のみ)
		サブネットマスク (追加)		(追加する時のみ)
		デフォルトゲートウェイ (追加)		(追加する時のみ)
		DNS ドメイン名		(指定する時のみ)
		DNS サーバアドレス		(指定する時のみ)
		WINS を使用する		☐ 使用する
	WINS サーバアドレス		(使用する選択時のみ)	
	NetBIO オプション		☐ NetBIOS の設定を、DHC サーバから取得する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用しない	
	NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x	
		ネットワーク番号	0x	
フレームの種類				
アダプタ 2	接続名			
	このアダプタにバインドするプロトコル		☐ TCP/IP ☐ NWIPX ☐ NetBEUI ☐ Apple Talk ☐ DLC ☐ NetMon	
	DHCP を使用する (TCP/IP 選択時)		☐ 使用する	
	使用する 未選択時のみ	IP アドレス		
		サブネットマスク		
		デフォルトゲートウェイ		
		IP アドレス (追加)		(追加する時のみ)
		サブネットマスク (追加)		(追加する時のみ)
		デフォルトゲートウェイ (追加)		(追加する時のみ)
		DNS ドメイン名		(指定する時のみ)
		DNS サーバアドレス		(指定する時のみ)
		WINS を使用する		☐ 使用する
	WINS サーバアドレス		(使用する選択時のみ)	
	NetBIO オプション		☐ NetBIOS の設定を、DHC サーバから取得する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用しない	
	NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x	
		ネットワーク番号	0x	
フレームの種類				

※ 複数のアダプタをインストールする場合は、コピーしてください。

(続く)

設定項目		選択項目
ソフトウェアコンポーネント		
インストール方法の選択		☐ 標準コンポーネントをインストールする ☐ インストールするコンポーネントを選択する
インストールするコンポーネントを選択する時のみ	サービス	☐ インターネットインフォメーションサービス (IIS) ☐ オンラインヘルプ ☐ FTP (File Transfer Protocol) サーバー ☐ インターネット サービス マネージャ (HTML) ☐ インターネット インフォメーション サービス スタック イン ☐ NNTP Service ☐ SMTP Service ☐ WWW (World Wide Web) サーバー ☐ リモート インストール サービス ☐ リモート記憶域 ☐ ターミナル サービス ライセンス ☐ ターミナル サービス ☐ ターミナル サービス クライアント ☐ インデックス サービス ☐ COM インターネット サービス プロキシ ☐ FrontPage 2000 Server Extensions ☐ 証明書サービス ☐ 証明書サービスWEB 登録のサポート ☐ 証明書サービスCA
	FTP のルート (FTP 選択時のみ)	(デフォルト—\Inetpub\Ftproot)
	WWW のルート (WWW 選択時のみ)	(デフォルト—C:\Inetsrv\WWWRoot)
	通信	☐ ハイパーターミナル ☐ ターミナル ☐ チャット ☐ メッセージキューサービス ☐ その他のネットワークファイルと印刷サービス
	マルチメディア	☐ CD プレーヤー ☐ メディアプレーヤー ☐ ユービダサウンド設定 ☐ サウンドレコーダー ☐ ホリュームコントロール ☐ サンプルサウンド
	アクセサリ	☐ ユーザー補助の設定ウィザード ☐ 文字コード表 ☐ 電卓 ☐ ペイント ☐ ワードパッド ☐ ドキュメントテンプレート ☐ スクリプトエディタ ☐ オブジェクトパッカー ☐ デスクトップの壁紙 ☐ マウスインテ
ゲーム	☐ フリーセル ☐ マインスイーパー ☐ ビンゴ ☐ ソリティア	
サービス		
サービス		☐ 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) ☐ ドメイン ネーム システム (DNS) ☐ 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) ☐ Windows インターネット ネーム サービス (WINS) ☐ 簡易 TCP/IP サービス ☐ ネットワーク モニタ ツール ☐ インターネット認証サービス ☐ Site Server IIS サービス ☐ UNIX 用印刷サービス ☐ Macintosh 用印刷サービス ☐ 接続マネージャコンポーネント ☐ Macintosh 用ファイル サービス

(続く)

設定項目		選択項目
SNMP の詳細 (選択時のみ)		
トラップ	コミュニティ名	
	トラップ 送信先	
セキュリティ	認証トラップを送信する	
	受け付けるコミュニティ名 (コミュニティ名: 権利)	
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける	☐ 受け付ける
	ホスト名	(指定する場合のみ)
エージェント	連絡先	
	場所	
	サービス	☐ 物理 ☐ データリンクとサブネットワーク ☐ End-to-End ☐ アプリケーション ☐ インターネット
Active Directory の詳細設定		
Active Directory をインストールする		☐ インストールする
☐ ドメインツリーの新しいフォレストを作成する ☐ 既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する ☐ 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する ☐ 既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する		
データベースの場所		
ログの場所		
SysVol フォルダの場所		
Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可		☐ 許可する
ドメインツリーの新しいフォレストを作成する		
新しいツリーの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
ドメインの完全な DNS 名		
既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
親ドメイン名		
子ドメイン名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
新しいドメインの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		

アプリケーションウィザード

設定項目	選択項目
アプリケーション	☐ WizardConsol ☐ Windows NT 4.0 / Windows 2000 サービスパック ☐ ServerView ☐ FM Advisor ☐ DSNAP ☐ ProbePro ☐ LiveHelp

サーバアプリケーションセットアップウィザード

設定項目	選択項目
サーバアプリケーション	☐ PowerChute plus ☐ ServerProtect ☐ ARCserveIT ☐ ARCserve 2000 ☐ NetpowerView F

クライアント一括導入ウィザード（クライアントシステム設計）

設定項目	選択・指定項目
OU の指定	☐ OU を作成する
作成する場合	組織名 (OU 名)
コンピュータ アカウント の作成	コンピュータ名
	OS
	IP アドレス
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ DHCP ☐ 手動設定 サブ ネットマスク デフォルトゲートウェイ
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ DHCP ☐ 手動設定 サブ ネットマスク デフォルトゲートウェイ
グループの作成	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
	☐ Win95 ☐ Win98 ☐ WinMe ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Win2K ☐ WinXP
グループの作成	グループ名
	説明

※上記では次のように表記しています。

Windows 95 → Win95

Windows 98 → Win98

Windows Me → WinMe

Windows NT WS → NTWS

Windows NT SV (バックアップドメインコントローラの場合) → NT BDC

Windows 2000 → Win2K

Windows XP → WinXP

(続く)

設定項目	選択・指定項目		
ユーザアカウント の作成	ユーザ名	フルネーム	説明
共有資源の設定	共有名	ディレクトリ名	説明

＊グループの作成、ユーザアカウントの作成、共有資源の設定における " 説明 " は省略できます。
 ＊ユーザアカウントの作成における " フルネーム " は省略できます。
 ＊共有資源の設定における " ディレクトリ " は必ず設定してください。

クライアント一括導入ウィザード（クライアントセットアップ）

設定項目			選択・指定項目		
動作環境設定					
共有ディレクトリ			(デフォルトー [SwApDrv] \Swrsinst)		
共有名			(デフォルトー SWRSINST)		
セットアップ資源の登録			☐ システム導入時に ServerStart から資源を登録		
			☐ システム導入後に WizardConsole から資源を登録		
セットアップ情報の設定					
セットアップ資源の追加			☐ アプリケーション ☐ ファイル ☐ 実行コマンド		
アプリケーション	一覧から選択		☐ する ☐ しない		
	する 選択時	資源識別名			
		説明			
		サーバドライブ指定		☐ する ☐ しない	
		する 選択時	資源格納元フォルダ名		
			ボリュームラベルチェック		☐ する ☐ しない
			する 選択時	ボリュームラベル名	
		する 選択時	特定ファイルチェック		☐ する ☐ しない
			する 選択時	ファイル名	
			複数媒体の使用		☐ する ☐ しない
		する 選択時	媒体枚数		
			媒体ごとにサブフォルダを作成	☐ する ☐ しない	
		UNC パス指定		☐ する ☐ しない	
	する 選択時	資源格納元 UNC パス名			
		ユーザ名			
		パスワード			
	アプリケーション固有情報				
	しない 選択時	説明			
		サーバドライブ指定		☐ する ☐ しない	
		する 選択時	資源格納元フォルダ名	(デフォルトー [CD-ROM])	
ボリュームラベルチェック			☐ する ☐ しない		
する 選択時			ボリュームラベル名		
する 選択時		特定ファイルチェック		☐ する ☐ しない	
		する 選択時	ファイル名		
		複数媒体の使用		☐ する ☐ しない	
する 選択時		媒体枚数			
		媒体ごとにサブフォルダを作成	☐ する ☐ しない		

(続く)

設定項目		選択・指定項目		
アプリケーション	しない選択時	UNCパス指定	☐ する ☐ しない	
		する選択時	資源格納元 UNC パス名	
			ユーザ名	
			パスワード	
		インストーラタイプ		☐ 従来インストーラ製品 ☐ Windows インストーラ製品
		従来インストーラ製品選択時	インストーラ起動コマンド	
			インストーラ起動パラメタ	
			インストーラ起動コマンドフォルダを作業フォルダとして実行	☐ する ☐ しない
			セットアップ時にスクリプトを使用する	☐ する ☐ しない
			する選択時	スクリプトファイル名
		起動方法		(デフォルトー mtrun [SW_COMMAND])
		Windowsインストーラ製品選択時	Windows インストーラパッケージ	
			インストール ユーザインタフェース	☐ 進行状況とエラーだけを表示
	☐ 対話インストール			
ファイル	ファイル資源識別名			
	説明			
	資源格納元情報	☐ ファイル ☐ フォルダ配下のすべてのファイル		
	ファイル格納元パス	(デフォルトー [CD-ROM])		
	セットアップ先パス名			
	同一ファイルが存在している場合	☐ 置換する ☐ 置換しない ☐ ファイルの後ろに追加する		
実行コマンド	実行コマンド資源識別名			
	説明			
	実行コマンド格納元パス名	(デフォルトー [CD-ROM])		
	起動方法	(デフォルトー mtrun [SW_COMMAND])		

《留意事項》

クライアントセットアップ機能の使用を " しない " と選択した場合はその時点で終了です。
 ここでクライアント機能の使用を " する " と選択しないと、クライアントセットアップ機能は使用できません。
 クライアントセットアップ機能を使用する場合は必ずセットアップ資源を追加しなくてはなりません。
 追加できるセットアップ資源は 64 個までです。

クライアント一括導入ウィザード（デスクトップ設計）

設定項目		選択項目
デスクトップ名		
説明		
グループ一覧から有効とする グループ名		
初期メニュー		
Windows 標準		☐ する ☐ しない
Web メニュー		☐ する ☐ しない
する 選択 時の み	Web メニューファイル名	
	Active Desktop の Web ページを追加 する (IE4.0 以降有効)	☐ する ☐ しない
	Internet Explorer を起動する	☐ する ☐ しない
	起動オプション	
する選択 時のみ	ホームページに設定す る	☐ する ☐ しない
カスタムメニュー		☐ する ☐ しない
する選択時の み	メニューコマンド	
デスクトップ操作性		
デスクトップ上のすべての オブジェクトアイコン		☐ デスクトップ上のすべてのオブジェクトアイコンを隠す ☐ Active Desktop の Web ページを隠さずにオブジェクトアイコンを隠す (IE4.0 以降有効)
タスクバーを隠す		☐ する ☐ しない
ログオン時に起動するアプリケーション		☐ する ☐ しない
する選択時の み	起動するアプリケーション	
[アプリケーションの追加と削除] を無効 にする		☐ する ☐ しない
マイドキュメントフォルダの設定		☐ する ☐ しない
する選択時の み	フォルダの場所	
設定制限		
スタートメニュー		☐ [設定] からフォルダを削除 ☐ [設定] から [タスクバー] を削除
コントロールパネル		☐ [画面] を使用不可にする ☐ [ネットワーク] を使用不可にする ☐ [パスワード] を使用不可にする ☐ [プリンタ] を使用不可にする ☐ [システム] を使用不可にする
その他		☐ レジストリ編集ツールを使用不可にする ☐ 終了時に設定を保存しない

(続く)

設定項目	選択項目
操作制限	
スタートメニュー	☐ [ファイル名を指定して削除] を削除 ☐ [検索] コマンドを削除 ☐ 共通プログラムグループを削除
ファイルアクセス操作	☐ [マイコンピュータ] からドライブを隠す ☐ [ネットワークコンピュータ] を隠す ☐ [ネットワークドライブ] の割り当て] と [ネットワークドライブ] の切断] を削除
実行操作	☐ [MS-DOS プロンプト] を使用不可にする ☐ タスクマネージャを使用不可にする ☐ 許可されたプログラムだけ実行
プログラム	(許可されたプログラムだけ実行選択時のみ)
不要キー抑止	
抑止設定キー一覧	

《留意事項》

デスクトップ環境を設定した後、グループ一覧から有効とするグループを選択してください。

索引

B

BIOS セットアップユーティリティ 11

C

CD イメージ 83

D

DSNAP 151, 184

F

FM Advisor 151, 178

Full 165

L

LiveHelp® Client V5.2 152, 185

M

Microsoft Virtual Machine を設定 168

MS-DOS 65

MS-DOS LAN マネージャ 65

MS-DOS イメージの作成 98

O

OS インストールウィザード 53

OS インストールタイプの開封 8

P

Power MANagement for Windows .. 151, 177

PROBEPRO 151, 180

R

RAID 7, 12

RAID ウィザード 30

RAID 管理ツール 150

RAID 構成ウィザード 51

RAID の初期化 16

RAS 支援サービス 150

REMCS エージェント 152

S

SCSI コンフィグレーションユーティリティ 11

ServerStart 4

ServerStart の機能 7

ServerView 150, 153, 159

Service Pack を適用 168

インストール 165

インストールの準備 160

管理端末を構築 167

ServerView Basic 155, 165

ServerView Console 156, 167

ServerView Full 155

Service Pack 12

SNMP サービスの設定 161

SystemWalker 152

SystemWalker® 185

T

Tape Maintenance Checker 151, 176

TCP/IP プロトコル 66, 161

W

WizardConsole 5, 62

起動 63

WizardMenu 5

あ行

アプリケーションウィザード 53

アンインストール

PROBEPRO 182

ServerView 173

管理コンソール 171

インストール

PROBEPRO 180

SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2

..... 185

運用管理支援ツール 151

エキスパートモード 8, 18, 20, 49

インストール 54

起動 49

遠隔保守支援ツール 152

か行

ガイドモード	8, 18, 19
インストール	46
監視機能	168
関連付け	112
起動	
ガイドモード	27
事前設定モード	25
共有資源フォルダの追加／変更	109
クライアント一括導入ウィザード	39
クライアントコンピュータ	
追加／変更	67
クライアントセットアップ	85
起動	86
クライアントセットアップファイル	13
クライアントブート設定	98
起動	99
グループの追加／変更	108
高信頼ツール	150
導入	158
コンフィグレーションファイル	13
閉じる／保存する	46
開く／作成する	29
コンフィグレーションユーティリティ	11

さ行

サーバアプリケーションセットアップウィザード	37
サーバ監視ツール	150, 153
システム構成ウィザード	29, 50
システム診断支援ツール	151
事前設定モード	8, 19
情報ファイル	13
シンボルファイル	182

た行

定義ファイル	179
ディスクアドミニストレータ	52
ディスクウィザード	31
デスクトップ環境設定	116
ドライバ	13

は行

複製モード	8, 18
-------	-------

ま行

メンテナンス区画の作成	51
-------------	----

や行

ユーザの追加／変更	106
-----------	-----

ら行

リモート OS セットアップ	73
起動	73

PRIMERGY ソフトウェアガイド
B1FH-6521-04-00

発行日 2002 年 1 月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。